

藤沢市  
市民活動に関するアンケート調査  
報告書

平成27年12月

藤沢市



# 目 次

<b>第1章 調査の概要</b> .....	1
1. 調査実施の目的 .....	3
2. 調査の種類 .....	3
3. 調査方法と回収状況 .....	3
4. 調査項目 .....	3
5. 調査結果を見る上での注意事項 .....	3
<b>第2章 調査結果の詳細</b> .....	5
1. あなた自身のことについて .....	7
(1) 性別 .....	7
(2) 年齢 .....	7
(3) 婚姻状況 .....	7
(4) 居住地区 .....	8
(5) 職業 .....	9
(6) 世帯全体の年間収入 .....	9
2. 地域活動について .....	10
(1) 地域活動の周知状況 .....	10
(2) 地域活動への参加の頻度と参加理由 .....	18
(3) 地域活動を行う場として利用している施設 .....	41
(4) 地域活動を行う場として今後利用したい施設 .....	43
(5) 地域活動に参加することに妨げとなること .....	45
3. 市民活動について .....	47
(1) 市民活動への参加意向 .....	47
(2) 参加したい市民活動の分野 .....	48
(3) 市民活動に参加する理由 .....	52
(4) 市民活動に参加することに妨げとなること .....	54
(5) 市民活動団体に期待することの有無 .....	56
(6) 市民活動団体に期待することの内容 .....	57
(7) 市民活動団体に期待することがない理由 .....	59
(8) 市民活動団体が活動するときに妨げになること .....	61
(9) 市民活動について市に望むこと .....	64
4. ボランティア活動について .....	67
(1) ボランティア活動への関心の有無 .....	67
(2) ボランティア活動の経験 .....	69
(3) 平成26年度中に参加したことのあるボランティア活動 .....	72
(4) ボランティア活動に参加する理由 .....	76
(5) ボランティア活動に参加することに妨げとなること .....	78
(6) 今後参加したいボランティア活動の分野 .....	80

(7) ボランティア活動について市に望むこと	82
5. 寄付について	84
(1) 寄付経験の有無	84
(2) 平成26年度に寄付した金額、回数、現物を寄付した回数	86
(3) 寄付を行った方法	88
(4) 平成26年度に寄付をした団体	90
(5) 平成26年度に寄付をした分野	92
(6) 寄付をした理由	96
(7) 寄付をするにあたり妨げとなること	98
(8) 寄付促進のために市に望むこと	99
6. その他	100
(1) 自由意見	100
<b>第3章 調査票</b>	<b>101</b>

# 第1章 調査の概要



## 1. 調査実施の目的

本調査は、市民活動推進計画における市民活動促進の施策について、今後のあり方を検討するための事前調査として、市民を対象とし、市民活動の現状及び日頃の暮らしの中で感じていることを調査することを目的とする。

## 2. 調査の種類

調査名	調査対象
1. 市民活動に関するアンケート調査	市内に住所のある満15歳から80歳までの市民4,000名

## 3. 調査方法と回収状況

調査方法：郵送によるアンケート調査

調査期間：平成27年10月16日（金）～11月2日（月）

<回収状況>

調査名	発送数	回収数	回収率
1. 市民活動に関するアンケート調査	4,000件	1,426件	35.7%

※白票を除く

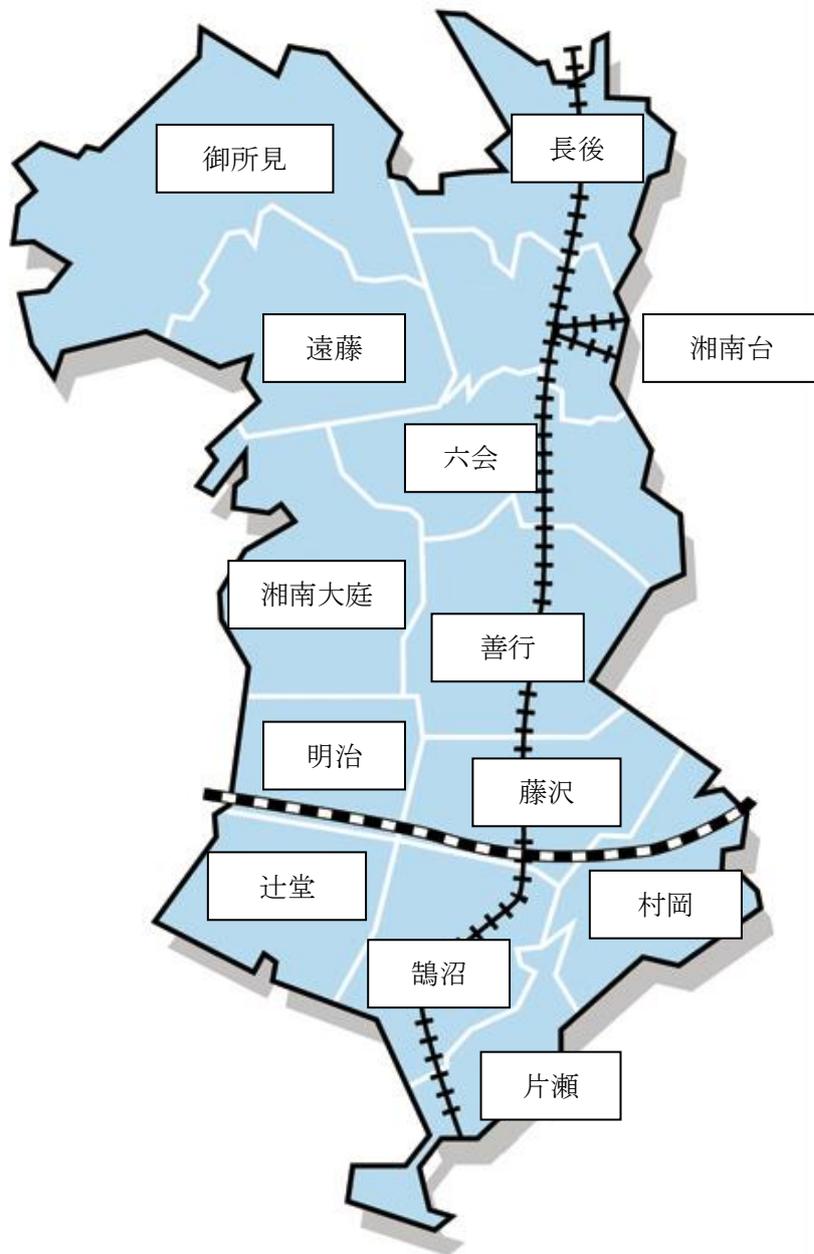
## 4. 調査項目

調査名	調査項目
1. 市民活動に関するアンケート調査	1. あなた自身のことについて 2. 地域活動について 3. 市民活動について 4. ボランティア活動について 5. 寄付について 6. その他

## 5. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- ・報告書に記載されている13地区は次ページの通りである。

<藤沢行政13地区>



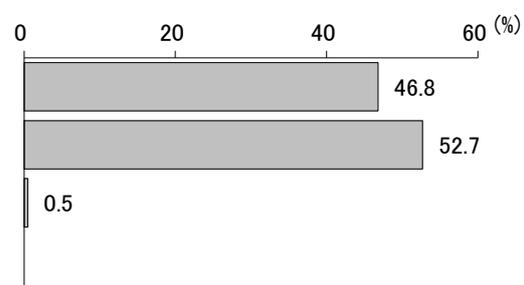
## 第2章 調査結果の詳細



## 1. あなた自身のことについて

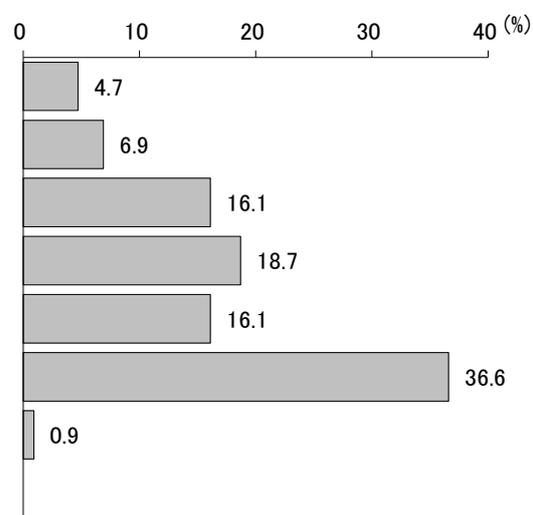
## (1) 性別

	基数	構成比
男	667	46.8%
女	752	52.7%
無回答	7	0.5%
全 体	1,426	100.0%



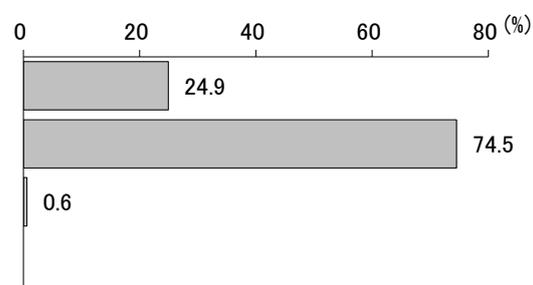
## (2) 年齢

	基数	構成比
10歳代	67	4.7%
20歳代	98	6.9%
30歳代	230	16.1%
40歳代	266	18.7%
50歳代	230	16.1%
60歳以上	522	36.6%
無回答	13	0.9%
全 体	1,426	100.0%



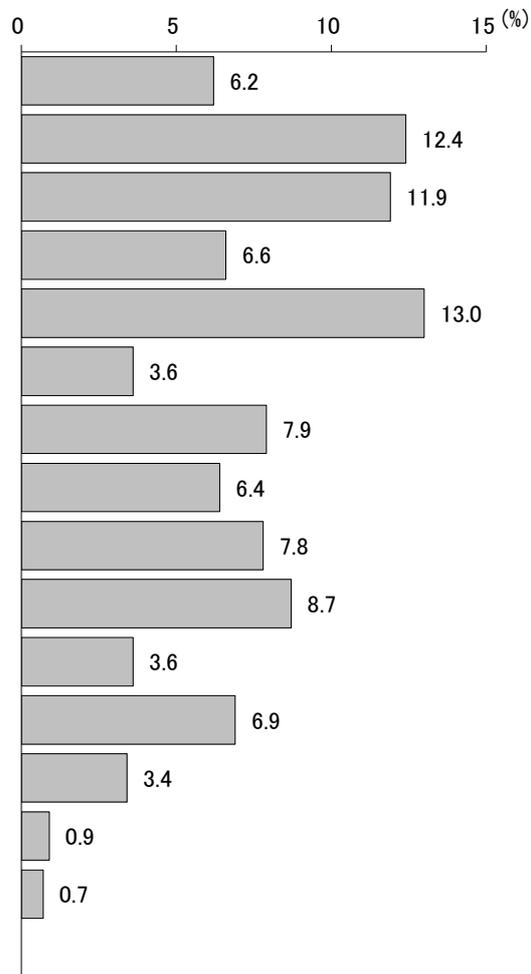
## (3) 婚姻状況

	基数	構成比
独身	355	24.9%
既婚	1,062	74.5%
無回答	9	0.6%
全 体	1,426	100.0%



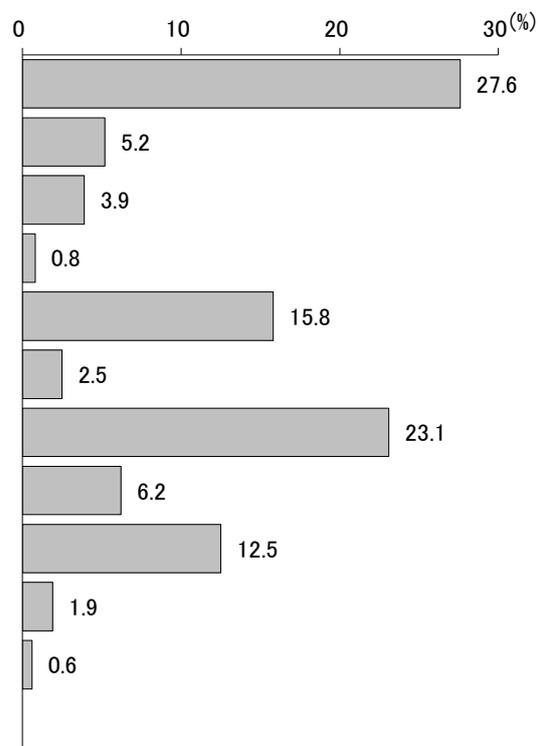
(4) 居住地区

	基数	構成比
片瀬	89	6.2%
鵜沼	177	12.4%
辻堂	169	11.9%
村岡	94	6.6%
藤沢	186	13.0%
明治	52	3.6%
善行	112	7.9%
湘南大庭	91	6.4%
六会	111	7.8%
湘南台	124	8.7%
遠藤	52	3.6%
長後	98	6.9%
御所見	48	3.4%
わからない	13	0.9%
無回答	10	0.7%
全体	1,426	100.0%



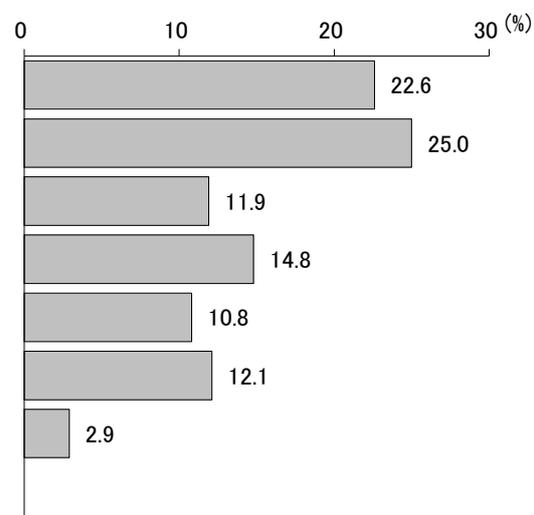
## (5) 職業

	基数	構成比
会社員	394	27.6%
自営業・家族従業者	74	5.2%
公務員	55	3.9%
団体職員	12	0.8%
派遣・契約社員、パートタイム従業者、アルバイト	225	15.8%
会社役員・団体役員	35	2.5%
主婦・主夫	330	23.1%
学生	88	6.2%
無職(主婦・主夫、学生を除く)	178	12.5%
その他	27	1.9%
無回答	8	0.6%
全体	1,426	100.0%



## (6) 世帯全体の年間収入

	基数	構成比
300万円未満	322	22.6%
300万円以上～500万円未満	356	25.0%
500万円以上～600万円未満	170	11.9%
600万円以上～800万円未満	211	14.8%
800万円以上～1,000万円未満	154	10.8%
1,000万円以上	172	12.1%
無回答	41	2.9%
全体	1,426	100.0%

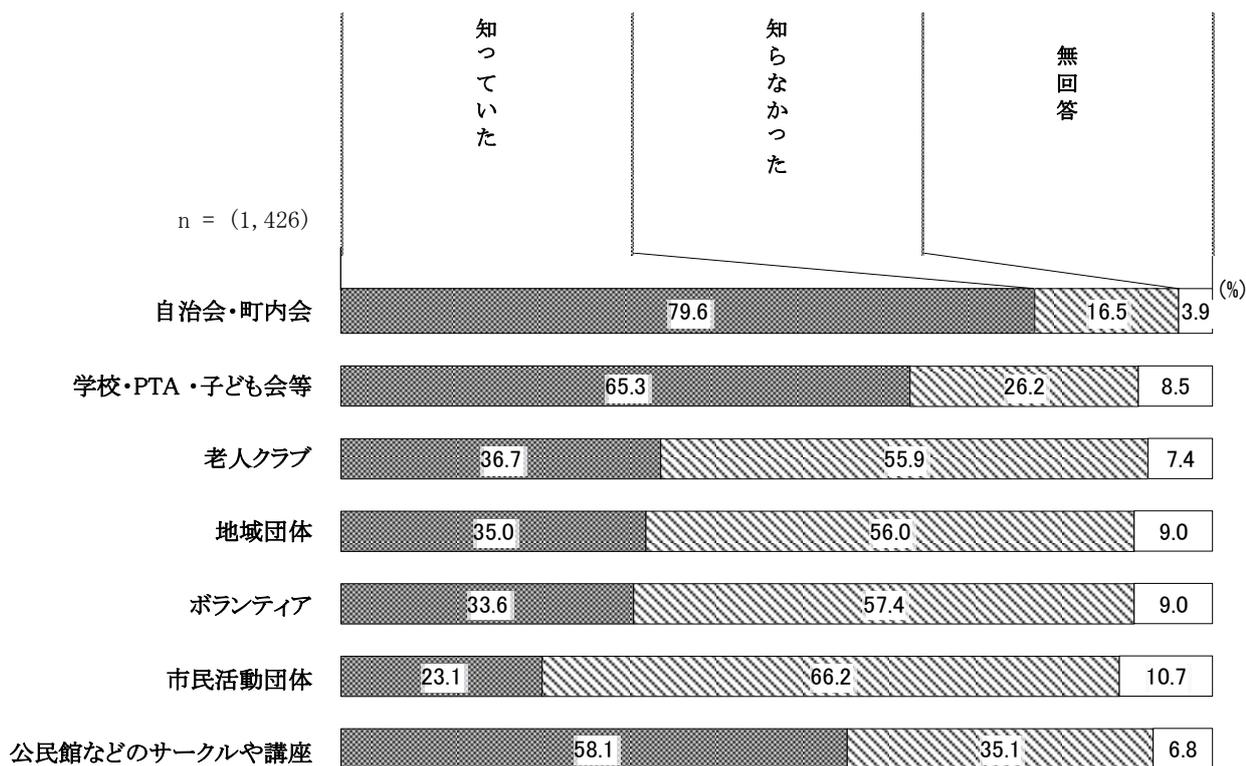


## 2. 地域活動について

### (1) 地域活動の周知状況

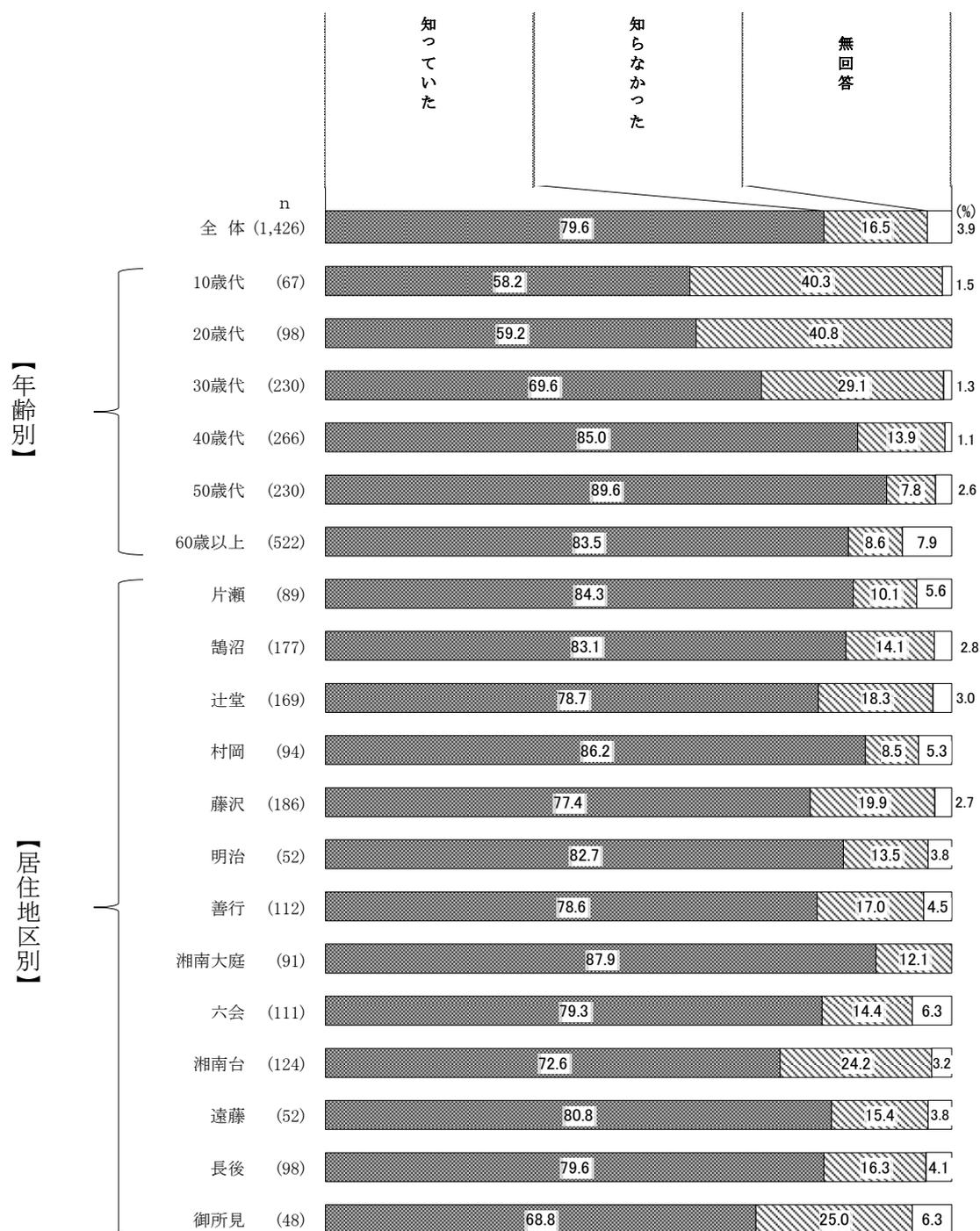
問2-1 次の地域活動のうち、このアンケートが届く前からその活動の存在を知っていたかどうかをお選びください。(一つに○)

【図表1：地域活動の周知状況】



地域活動の周知状況で「知っていた」については、「自治会・町内会」が79.6%と最も高く、次いで、「学校・PTA・子ども会等」(65.3%)、「公民館などのサークルや講座」(58.1%)の順となっている。一方、「知らなかった」については、「市民活動団体」が66.2%と最も高く、次いで「ボランティア」(57.4%)、「地域団体」(56.0%)、「老人クラブ」(55.9%)の順となっている。

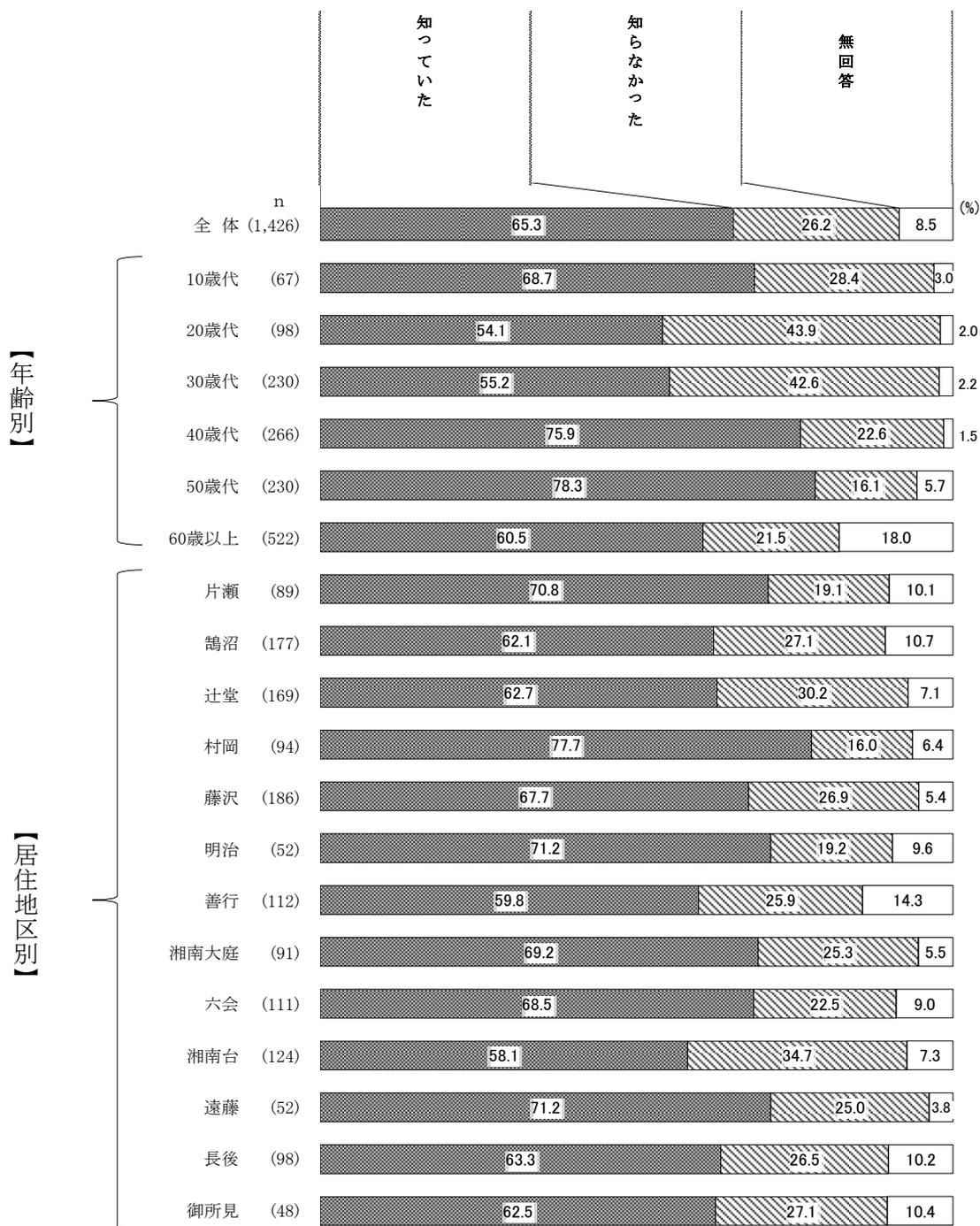
【図表2：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況①】自治会・町内会



「知っていた」を年齢別で見ると、おおむね年代が上がるにつれて高くなっており、50歳代が89.6%と最も高くなっている。

「知っていた」を居住地区別で見ると、片瀬（84.3%）、鶴沼（83.1%）、村岡（86.2%）、明治（82.7%）、湘南大庭（87.9%）、遠藤（80.8%）が8割を超えて高くなっている。

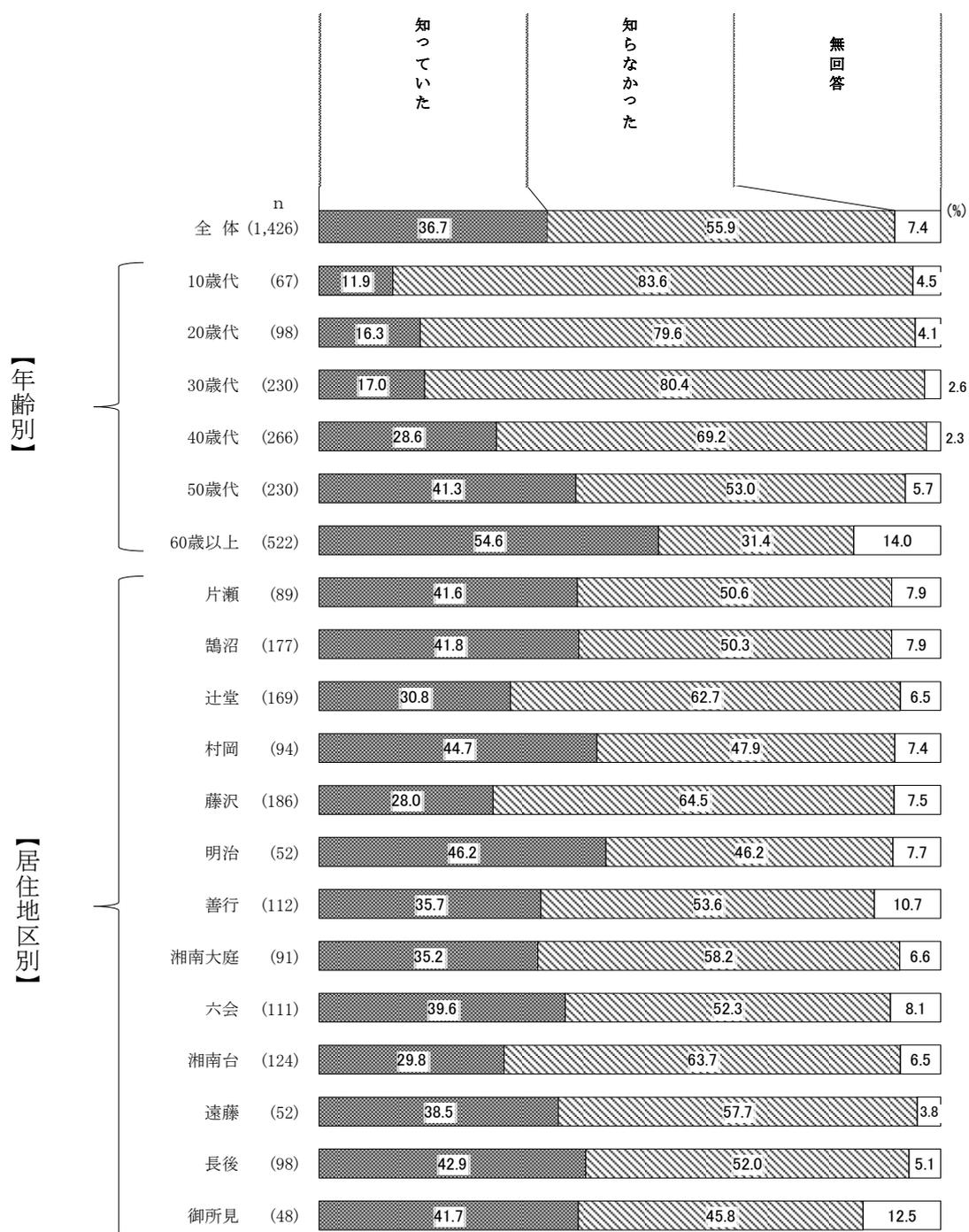
【図表3：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況②】 学校・PTA・子ども会等



「知っていた」を年齢別で見ると、40歳代（75.9%）と50歳代（78.3%）が7割を超えて高くなっている。次いで、10歳代が68.7%、60歳以上が60.5%となっている。

「知っていた」を居住地区別で見ると、村岡が77.7%で最も高くなっている。次いで、明治と遠藤がともに71.2%となっている。

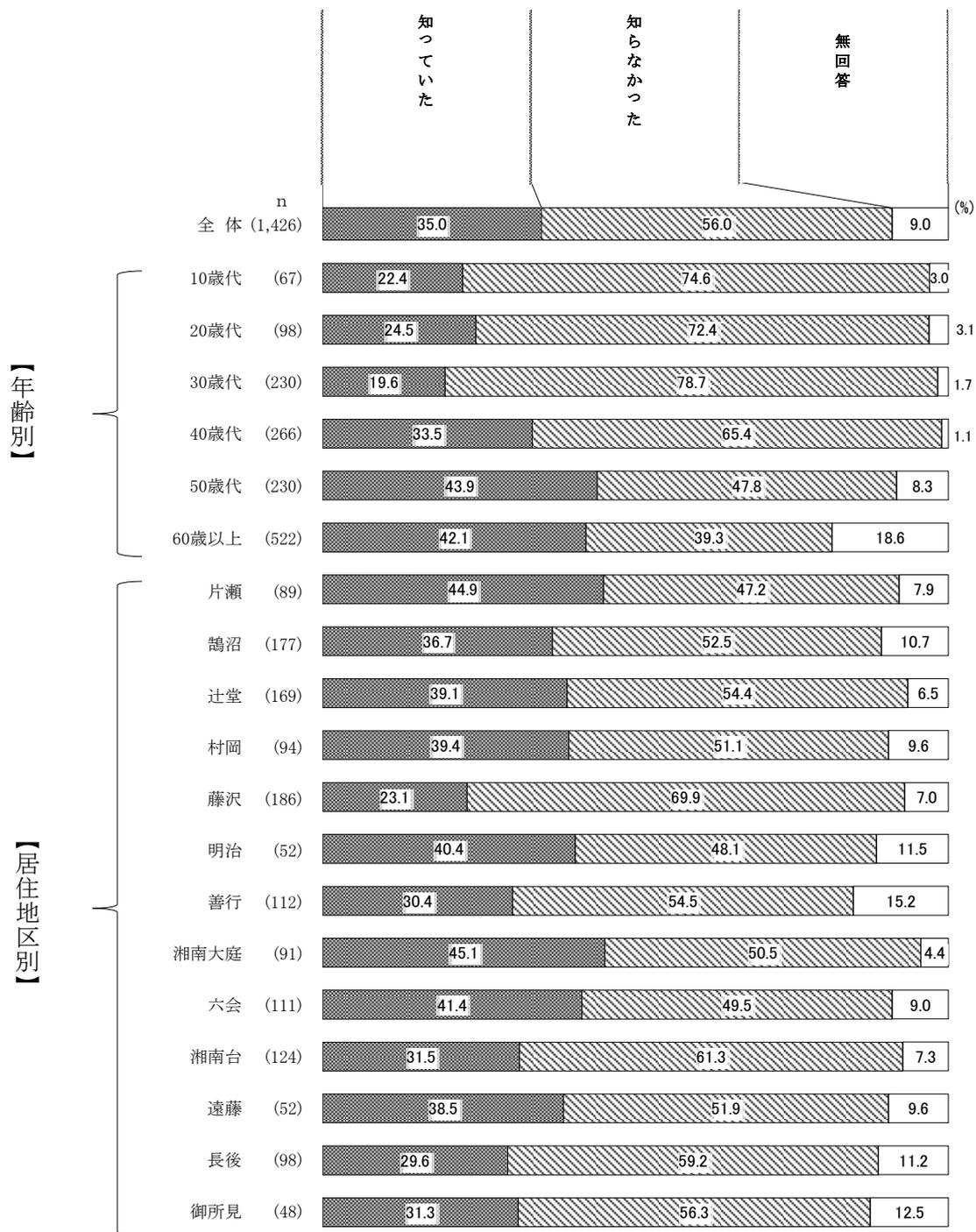
【図表4：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況③】老人クラブ



「知っていた」を年齢別でみると、年代が上がるにつれて高くなっており、60歳以上が54.6%と最も高くなっている。

「知っていた」を居住地区別でみると、村岡（44.7%）と明治（46.2%）が4割台半ばと高くなっている。

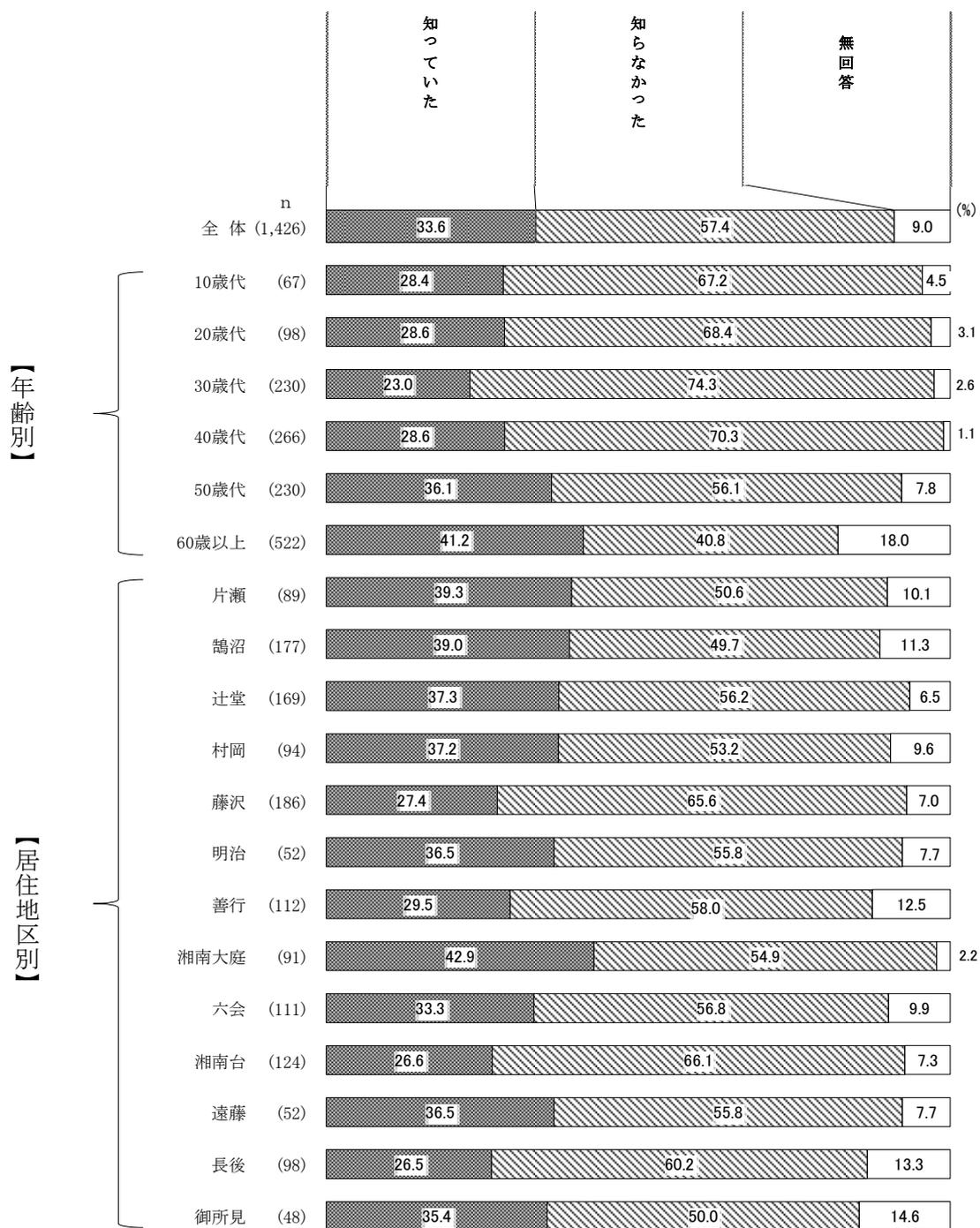
【図表5：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況④】**地域団体**



「知っていた」を年齢別で見ると、50歳代（43.9%）と60歳以上（42.1%）が4割を超えて高くなっている。

「知っていた」を居住地区別で見ると、片瀬（44.9%）、明治（40.4%）、湘南大庭（45.1%）、六会（41.4%）が4割を超えて高くなっている。

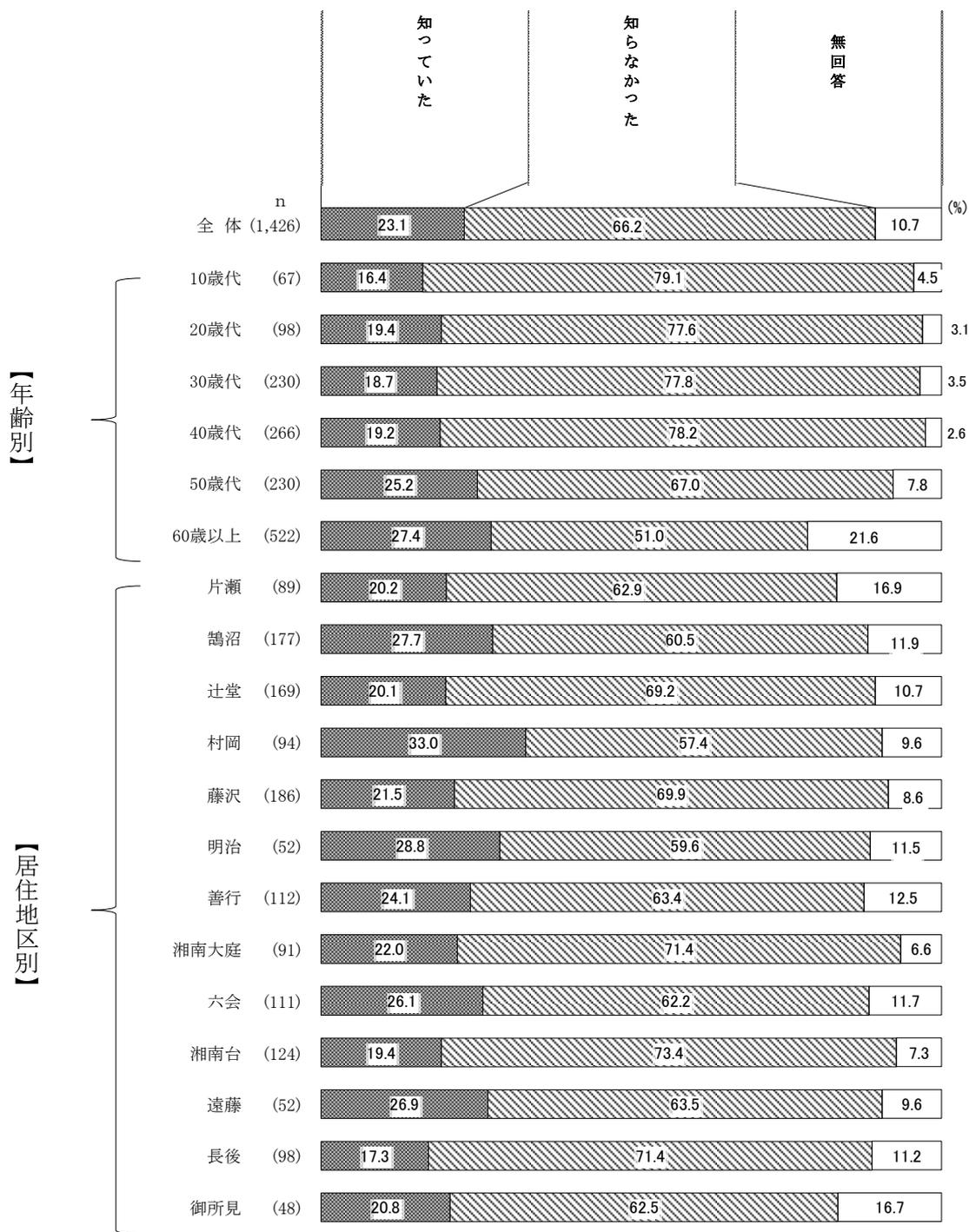
【図表6：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況⑤】 ボランティア



「知っていた」を年齢別で見ると、60歳以上が41.2%と最も高くなっている。

「知っていた」を居住地区別で見ると、湘南大庭が42.9%と最も高くなっている。

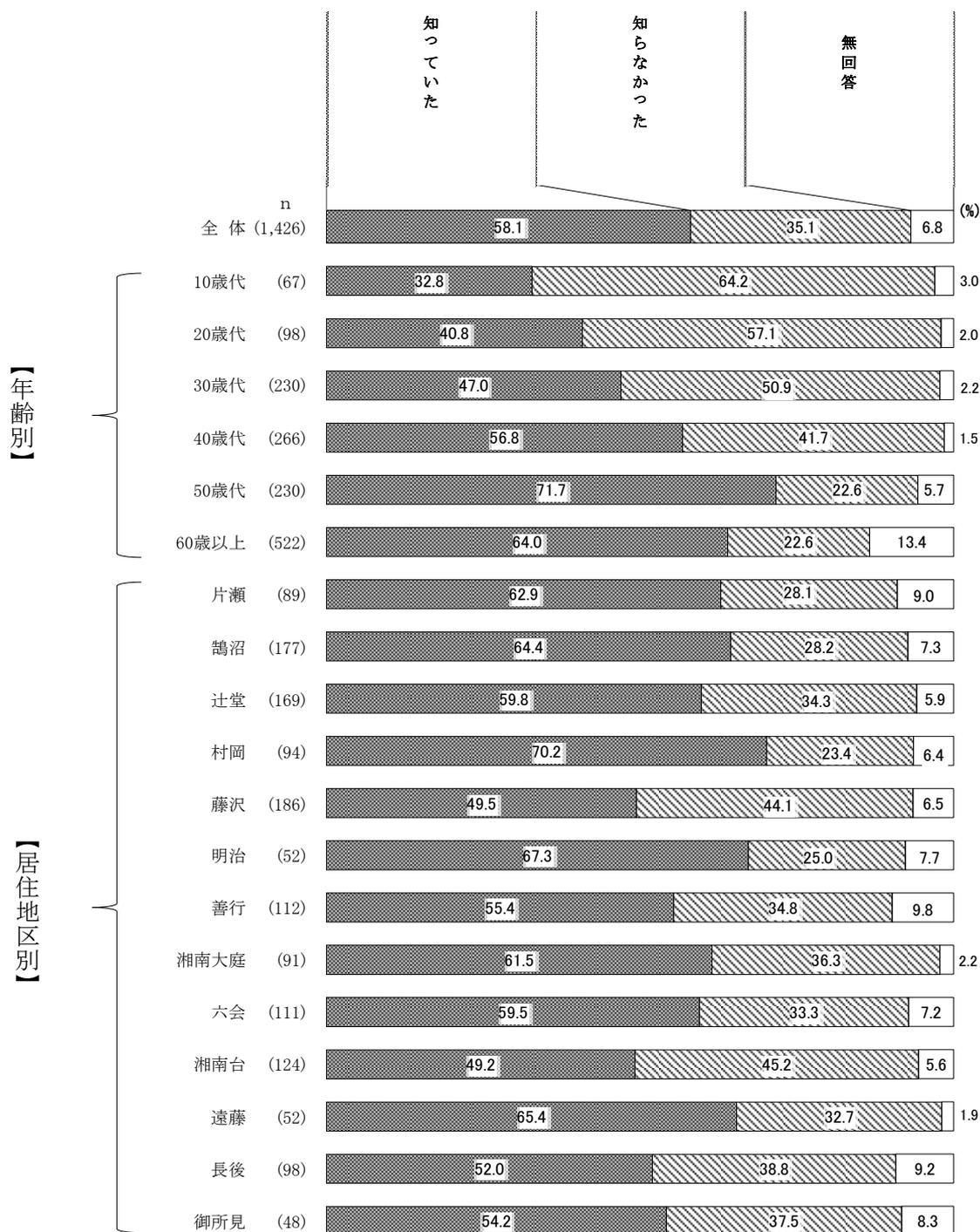
【図表7：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況⑥】 市民活動団体（NPOを含む）



「知っていた」を年齢別で見ると、50歳代（25.2%）と60歳以上（27.4%）が2割を超えて高くなっている。

「知っていた」を居住地区別で見ると、村岡が33.0%と最も高くなっている。

【図表8：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況⑦】 公民館などのサークルや講座



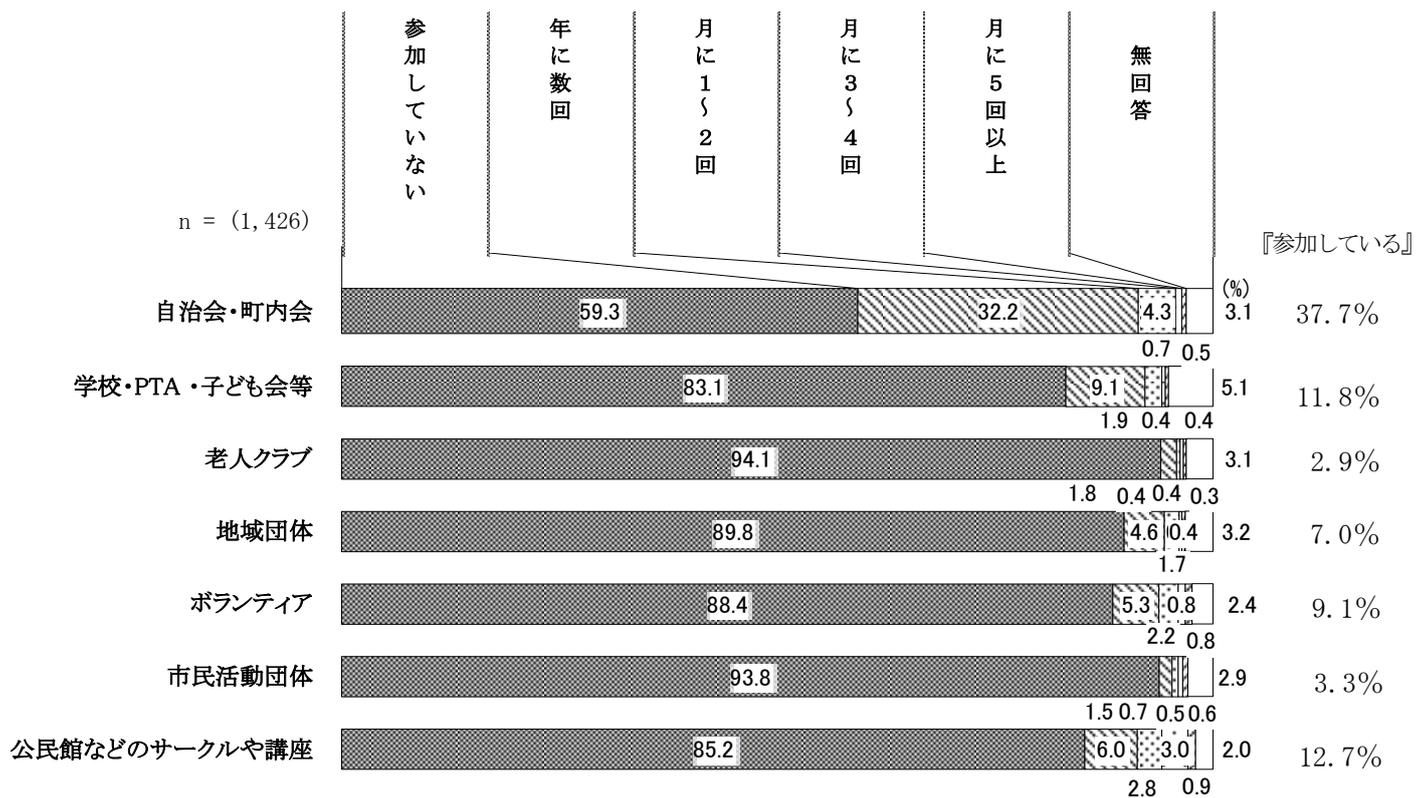
「知っていた」を年齢別で見ると、おおむね年代が上がるにつれて高くなっており、50歳代が71.7%と最も高くなっている。

「知っていた」を居住地区別で見ると、村岡が70.2%と最も高くなっている。

(2) 地域活動への参加の頻度と参加理由

問2-2 あなたの地域活動への参加の頻度をお選びください。(一つに○)  
 また参加の理由についてお選びください。(あてはまるものすべてに○)

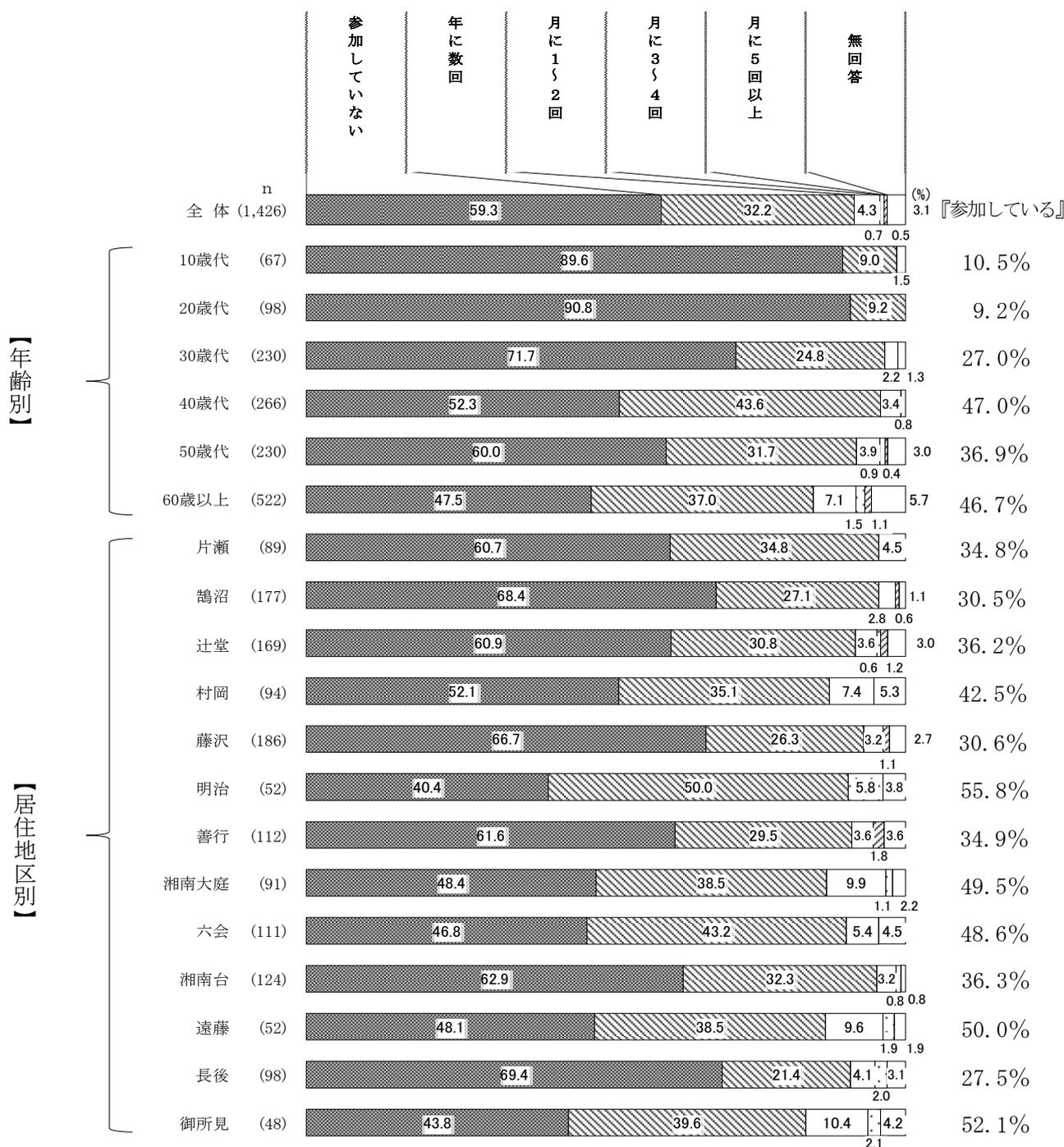
【図表9：地域活動の参加の頻度】



※『参加している』の数値は「年に数回」と「月に2～3回」と「月に3～4回」と「月に5回以上」の合計値である。

地域活動への参加頻度については、「参加していない」は「学校・PTA・子ども会等」83.1%、「老人クラブ」94.1%、「地域団体」89.8%、「ボランティア」88.4%、「市民活動団体」93.8%、「公民館などのサークルや講座」85.2%と、「自治会・町内会」を除く各項目で8割を超えて高くなっている。「年に数回」「月に1～2回」「月に3～4回」「月に5回以上」を合わせた『参加している』は「自治会・町内会」が37.7%で最も高くなっている。

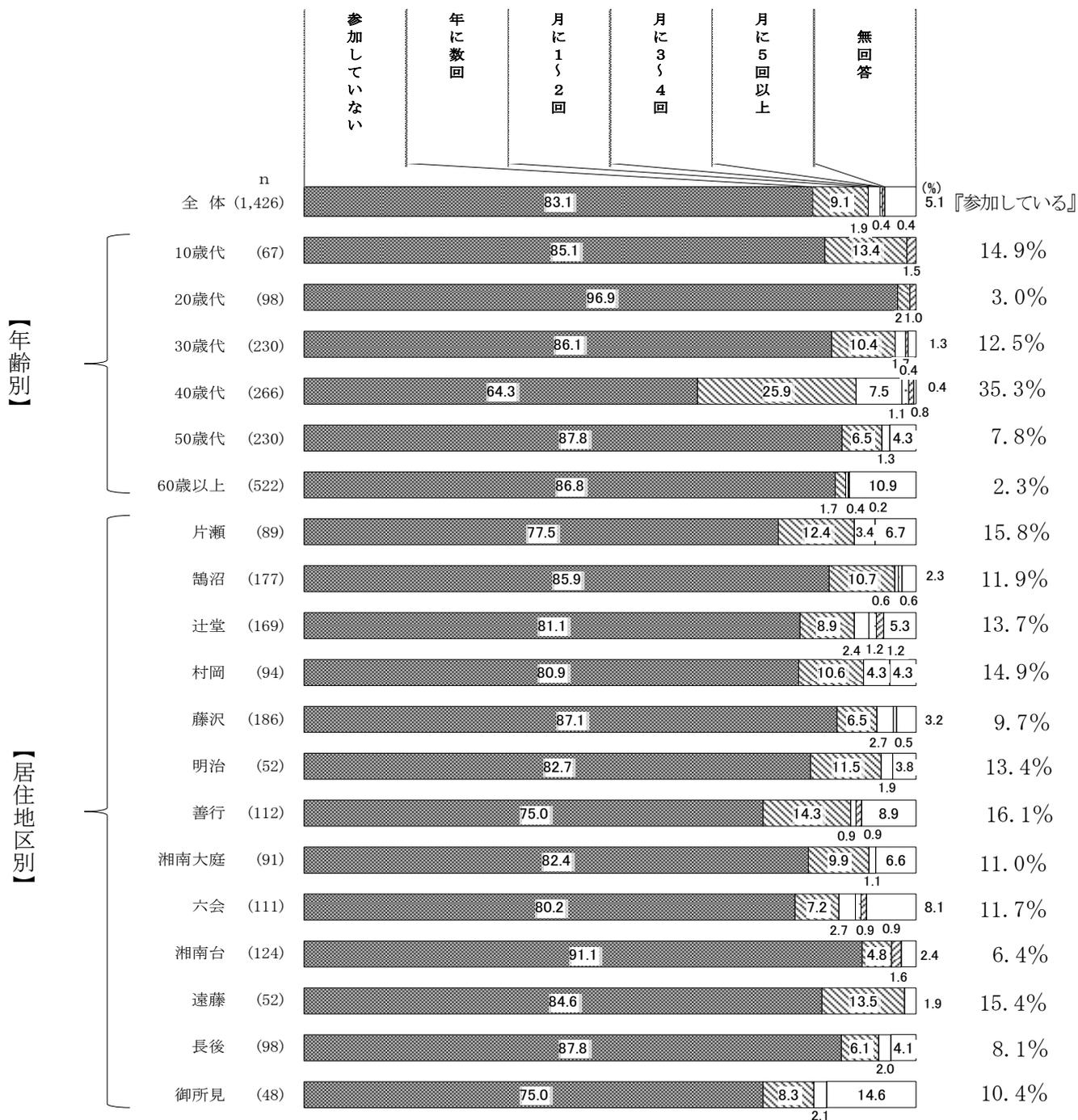
【図表10：年齢別・居住地区別／参加の頻度①】自治会・町内会



「参加していない」を年齢別で見ると、10歳代（89.6%）と20歳代（90.8%）が約9割と高くなっている。一方、『参加している』は、60歳以上が46.7%と最も高くなっている。

「参加していない」を居住地区別で見ると、鵜沼（68.4%）と長後（69.4%）が約7割と高くなっている。一方、『参加している』は、明治が55.8%と最も高くなっている。

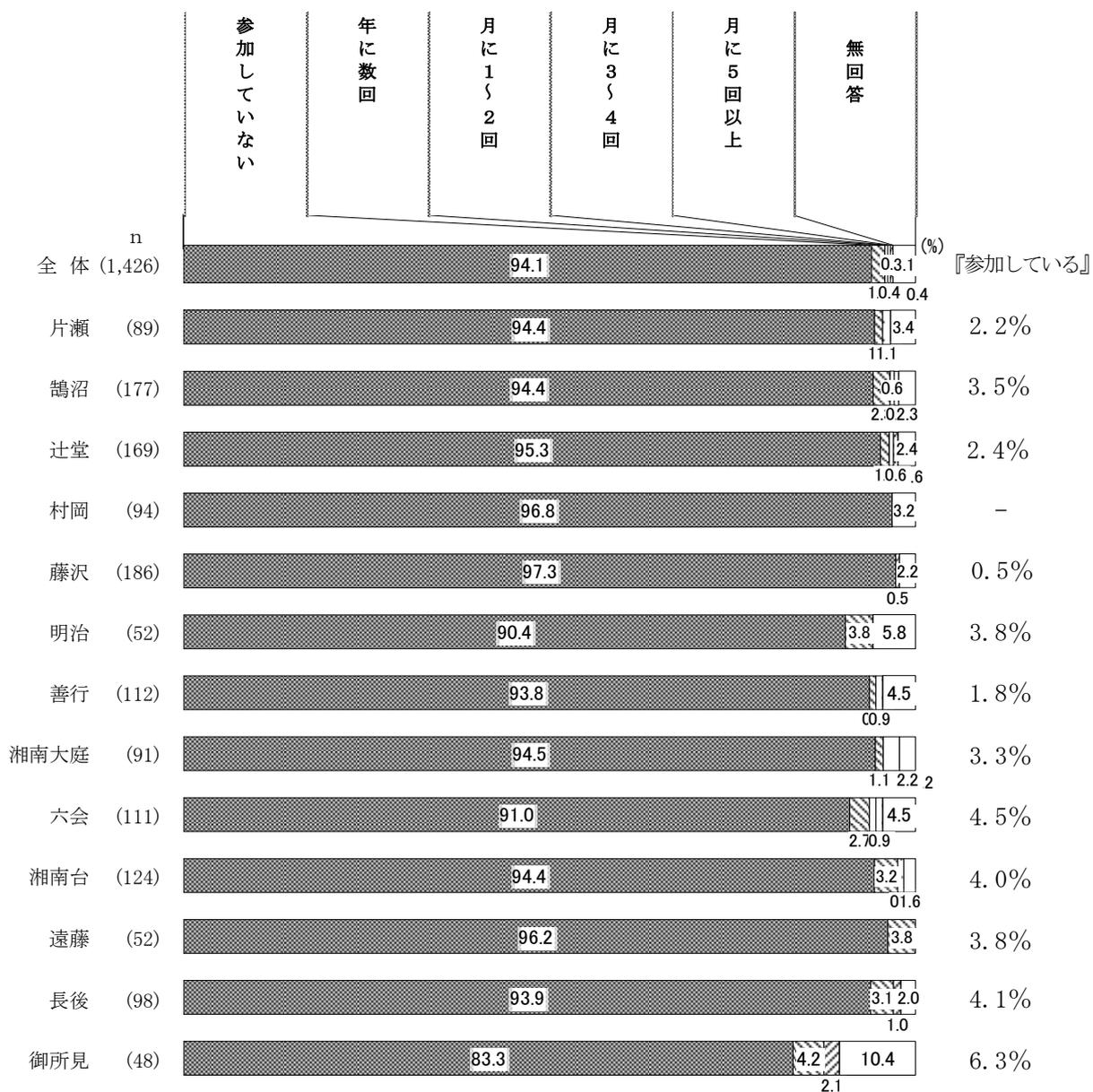
【図表11：年齢別・居住地区別／参加の頻度②】学校・PTA・子ども会等



「参加していない」を年齢別で見ると、20歳代が96.9%と最も高くなっている。一方、『参加している』は、40歳代が35.3%と最も高くなっている。

「参加していない」を居住地区別で見ると、湘南台が91.1%と最も高く、次いで長後が87.8%、藤沢が87.1%となっている。一方、『参加している』は、善行が16.1%と最も高くなっている。

【図表12：居住地区別／参加の頻度③】老人クラブ



「参加していない」を居住地区別でみると、藤沢が97.3%と最も高くなっている。一方、『参加している』は、御所見が6.3%と最も高くなっている。

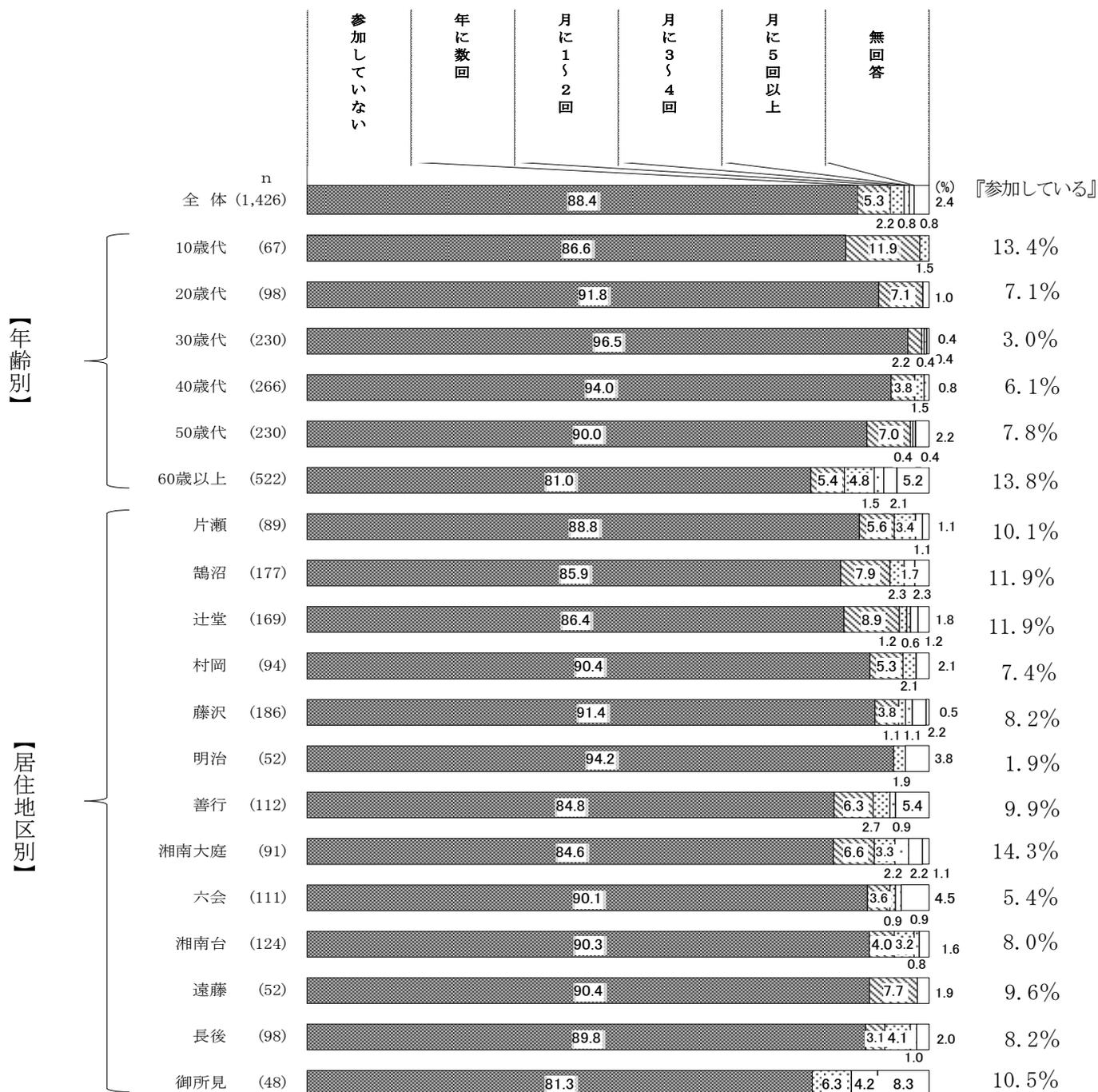
【図表13：年齢別・居住地区別／参加の頻度④】**地域団体**



「参加していない」を年齢別で見ると、30歳代が98.3%と最も高くなっている。一方、『参加している』は、60歳以上が11.3%と最も高くなっている。

「参加していない」を居住地区別で見ると、藤沢が95.2%と最も高くなっている。一方、『参加している』は、御所見が14.7%と最も高くなっている。

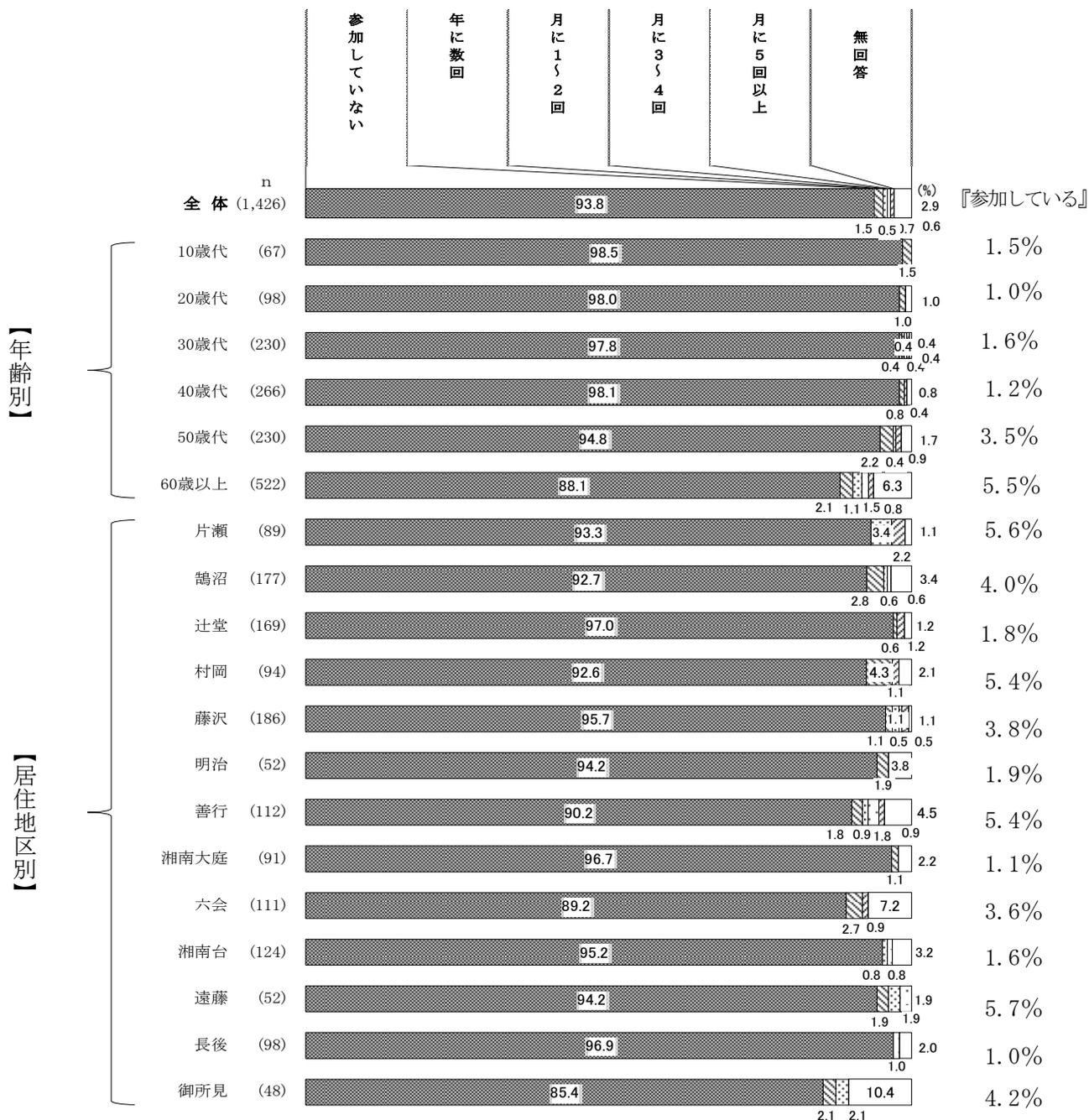
【図表14：年齢別・居住地区別／参加の頻度⑤】 ボランティア



「参加していない」を年齢別で見ると、30歳代（96.5%）と40歳代（94.0%）が9割台半ばと高くなっている。一方、『参加している』は、10歳代（13.4%）と60歳以上（13.8%）が1割台半ばと高くなっている。

「参加していない」を居住地区別で見ると、明治が94.2%と最も高くなっている。一方、『参加している』は、湘南大庭が14.3%と最も高くなっている。

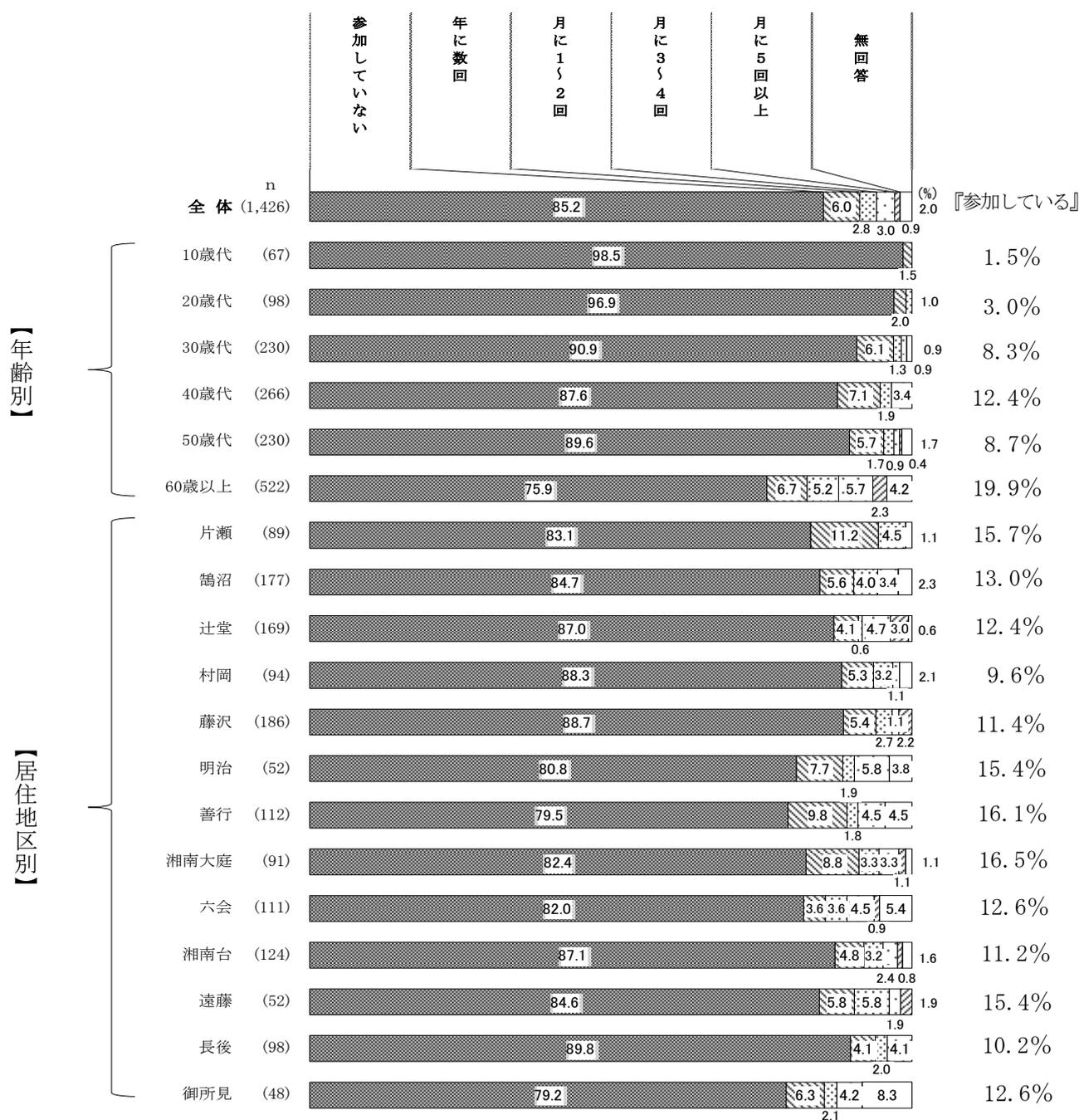
【図表15：年齢別・居住地区別／参加の頻度⑥】市民活動団体（NPOを含む）



「参加していない」を年齢別で見ると、60歳以上を除いたすべての年代が90%を超えて高くなっている。一方、『参加している』は、60歳以上が5.5%と最も高くなっている。

「参加していない」を居住地区別で見ると、六会と御所見を除いたすべての地区が90%を超えて高くなっている。一方、『参加している』は、片瀬が5.6%、村岡と善行が5.4%、遠藤が5.7%と高くなっている。

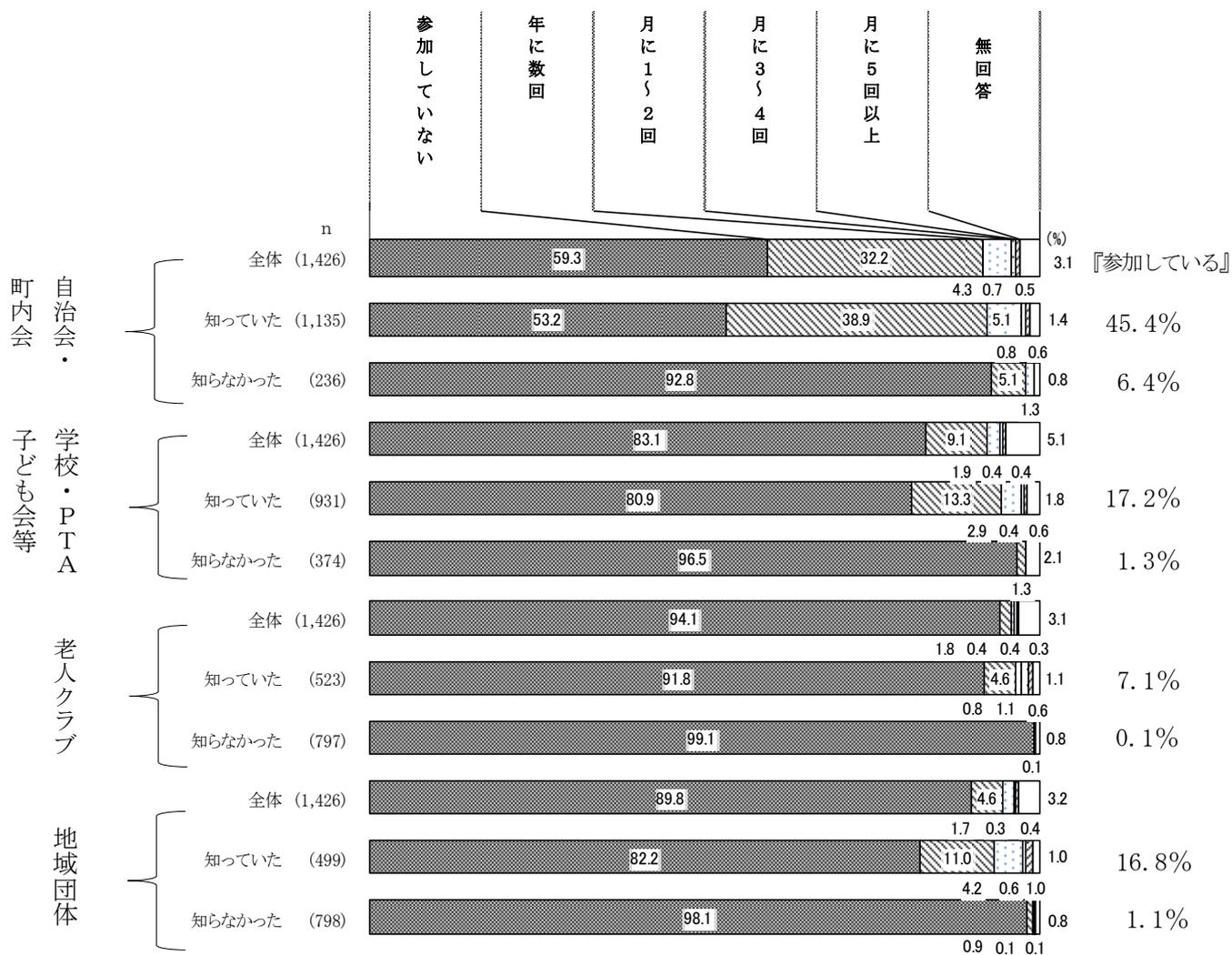
【図表16：年齢別・居住地区別／参加の頻度⑦】 公民館などのサークルや講座



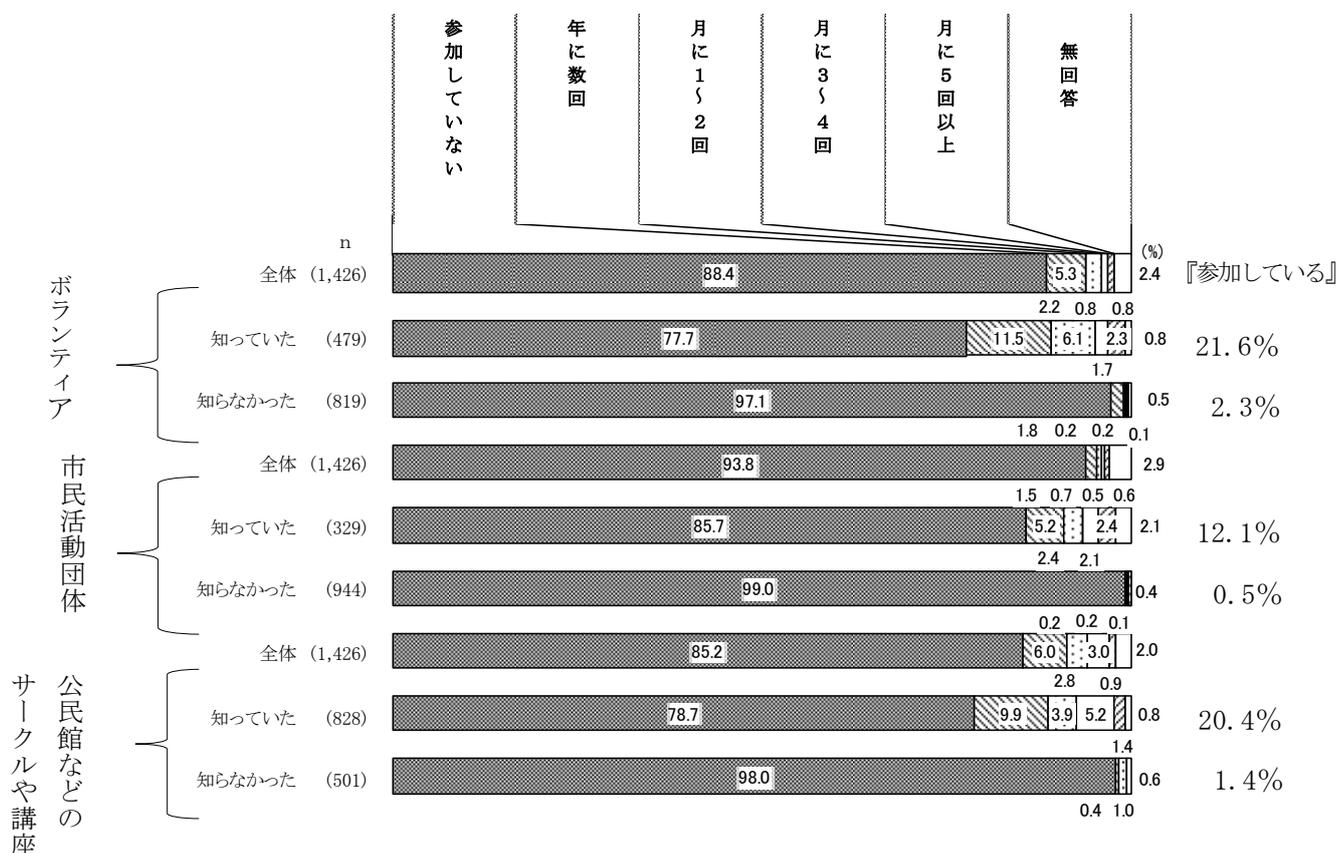
「参加していない」を年齢別で見ると、10歳代が98.5%と最も高くなっている。一方、『参加している』は、60歳以上が19.9%と最も高くなっている。

「参加していない」を居住地区別で見ると、長後（89.8%）、藤沢（88.7%）、村岡（88.3%）が約9割と高くなっている。一方、『参加している』は、善行（16.1%）と湘南大庭（16.5%）が1割台半ばと高くなっている。

【図表17：地域活動の周知状況別／参加の頻度①】

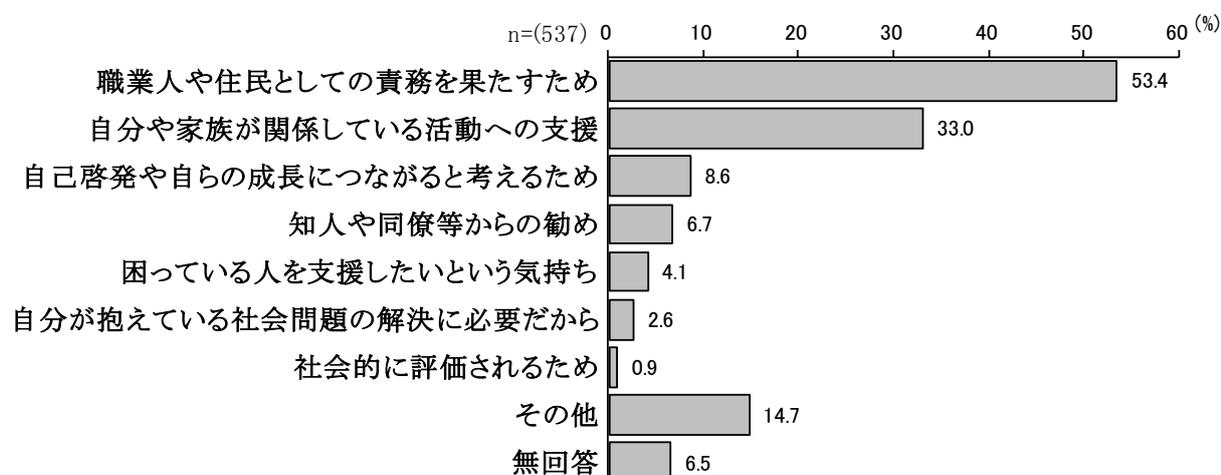


【図表18：地域活動の周知状況別／参加の頻度②】



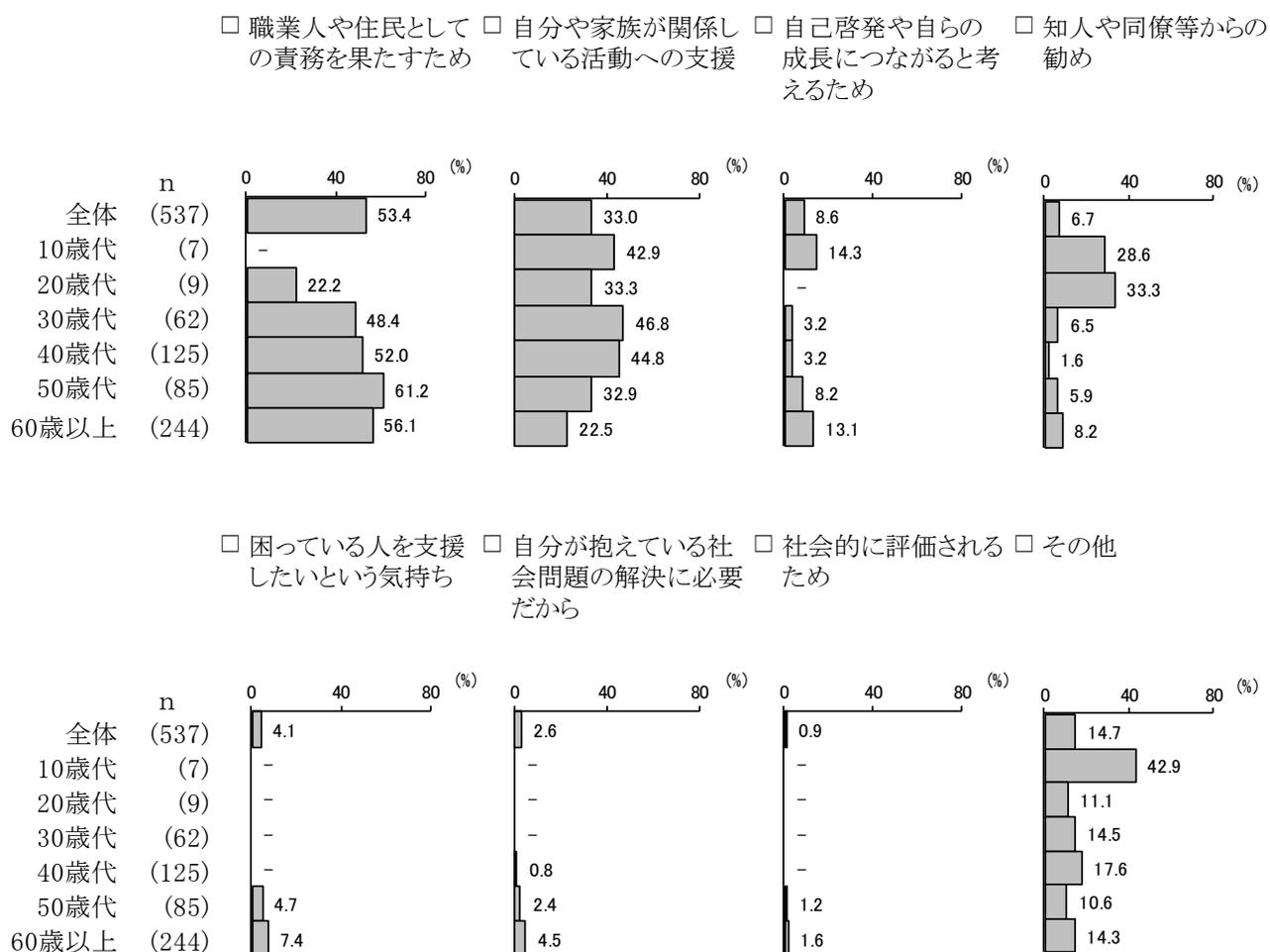
地域活動の周知状況別でみると、「自治会・町内会」は「知っていた」で『参加している』は45.4%となっている。「学校・PTA・子ども会等」は「知っていた」で『参加している』は17.2%となっている。「老人クラブ」は「知っていた」で『参加している』は7.1%となっている。「地域団体」は「知っていた」で『参加している』は16.8%となっている。「ボランティア」は「知っていた」で『参加している』は21.6%となっている。「市民活動団体（NPOを含む）」は「知っていた」で『参加している』は12.1%となっている。「公民館などのサークルや講座」は「知っていた」で『参加している』は20.4%となっている。

【図表19：地域活動の参加の理由】自治会・町内会



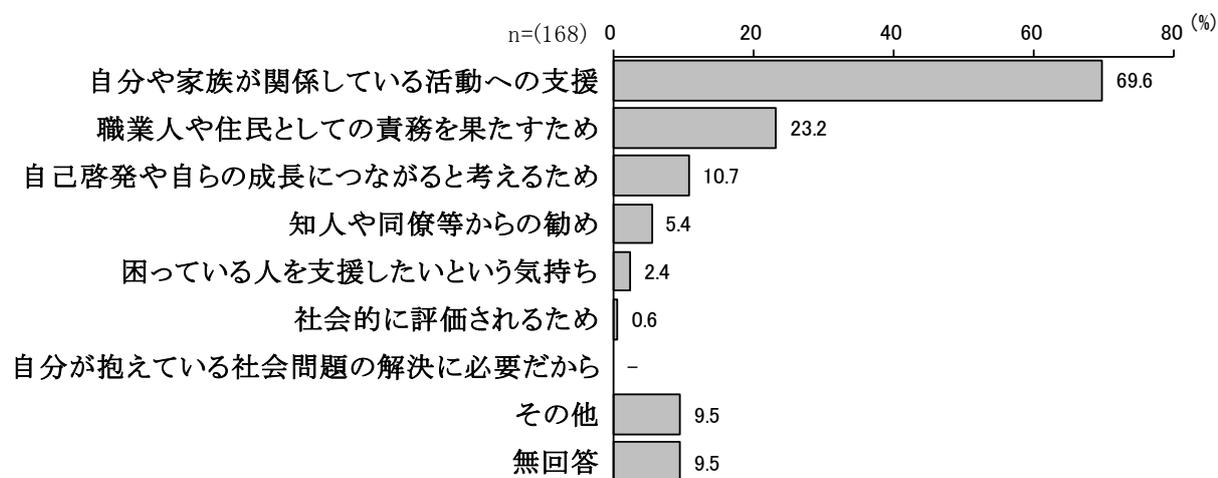
自治会・町内会への参加理由については、「職業人や住民としての責務を果たすため」が53.4%と最も高く、次いで、「自分や家族が関係している活動への支援」(33.0%)、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」(8.6%)の順となっている。

【図表20：年齢別／参加の理由】自治会・町内会上位8項目



「職業人や住民としての責務を果たすため」を年齢別で見ると、50歳代が61.2%と最も高くなっている。「自分や家族が関係している活動への支援」は30歳代（46.8%）と40歳代（44.8%）が4割台半ばと高くなっている。

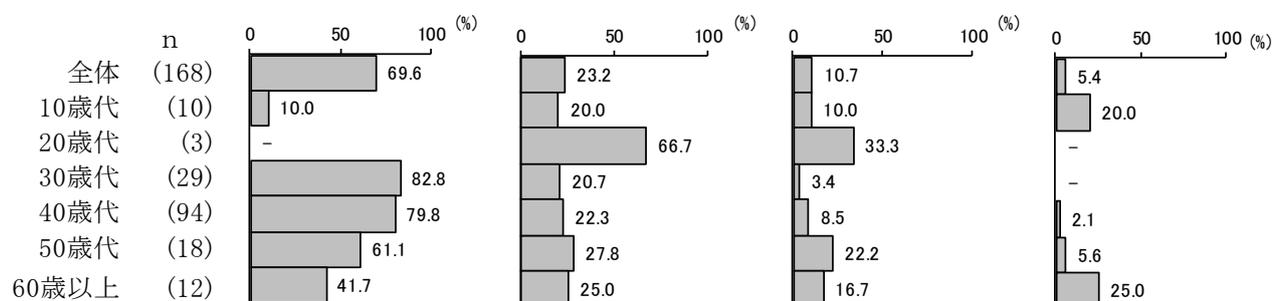
【図表21：地域活動の参加の理由】**学校・PTA・子ども会等**



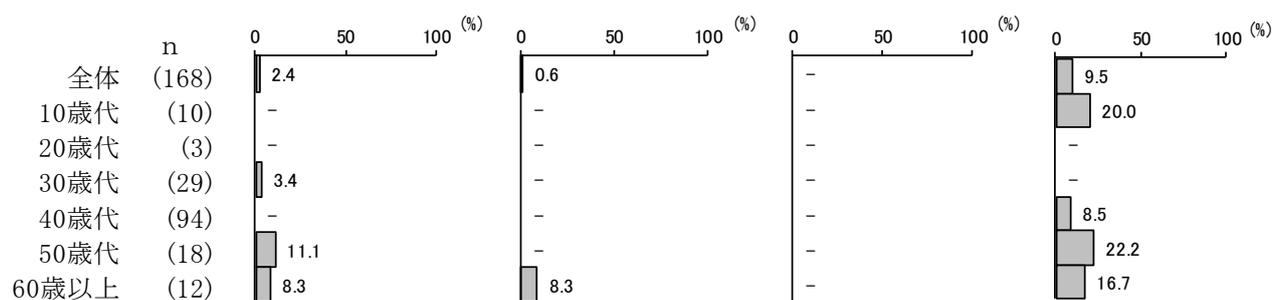
学校・PTA・子ども会等への参加理由については、「自分や家族が関係している活動への支援」が69.6%と最も高く、次いで、「職業人や住民としての責務を果たすため」(23.2%)、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」(10.7%)の順となっている。

【図表22：年齢別／参加の理由】**学校・PTA・子ども会等**上位8項目

- 自分や家族が関係している活動への支援
- 職業人や住民としての責務を果たすため
- 自己啓発や自らの成長につながると考えるため
- 知人や同僚等からの勧め

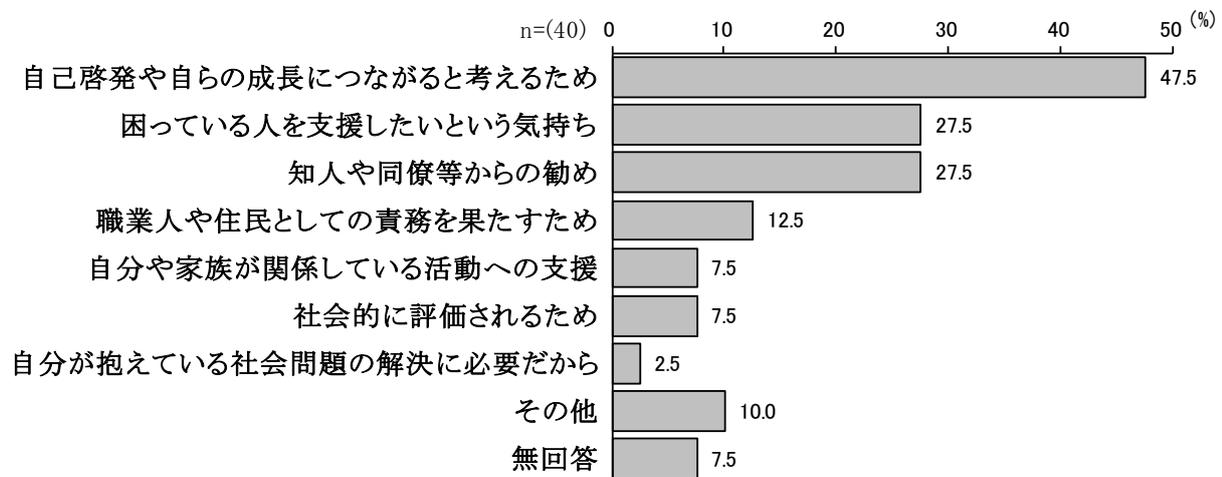


- 困っている人を支援したいという気持ち
- 社会的に評価されるため
- 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから
- その他



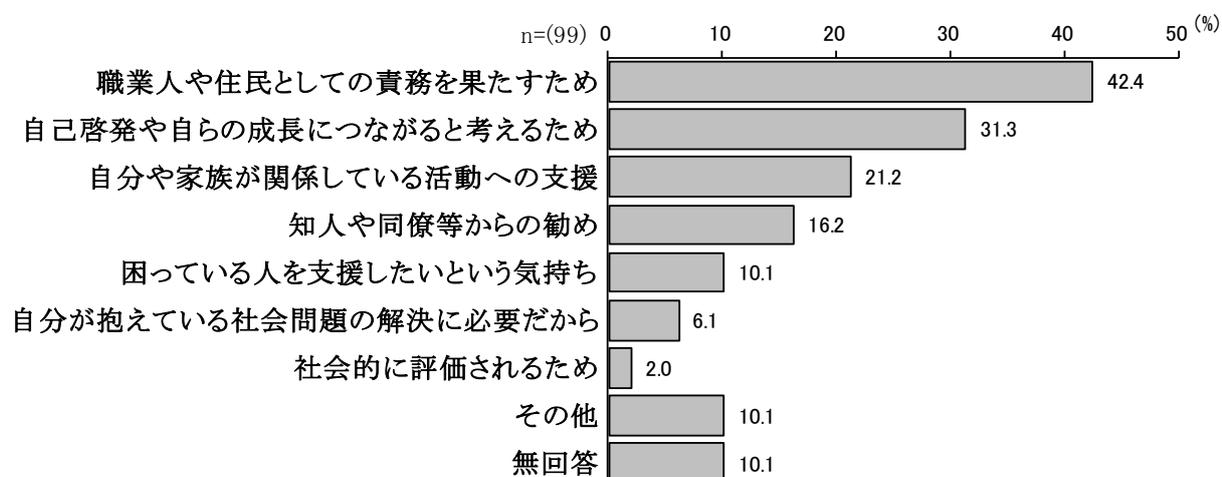
年齢別はサンプル数が少ないため参考として表示するにとどめる。

【図表23：地域活動の参加の理由】**老人クラブ**



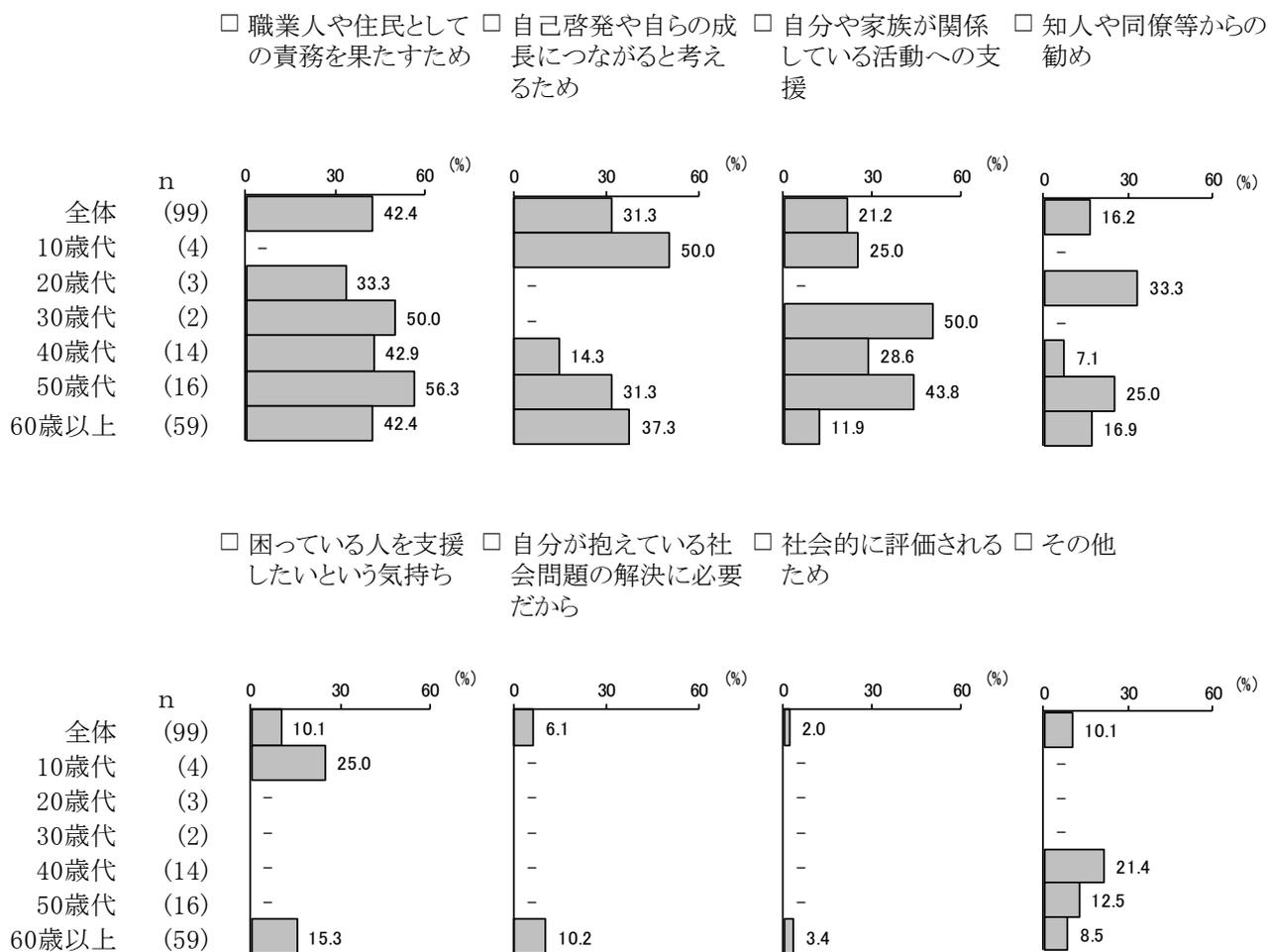
老人クラブへの参加理由については、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が47.5%と最も高く、次いで、「困っている人を支援したいという気持ち」及び「知人や同僚等からの勧め」(27.5%)の順となっている。

※老人クラブに関しては、加入年齢が原則として60歳以上となっているため、年齢別グラフは省略する。

【図表24：地域活動の参加の理由】**地域団体**

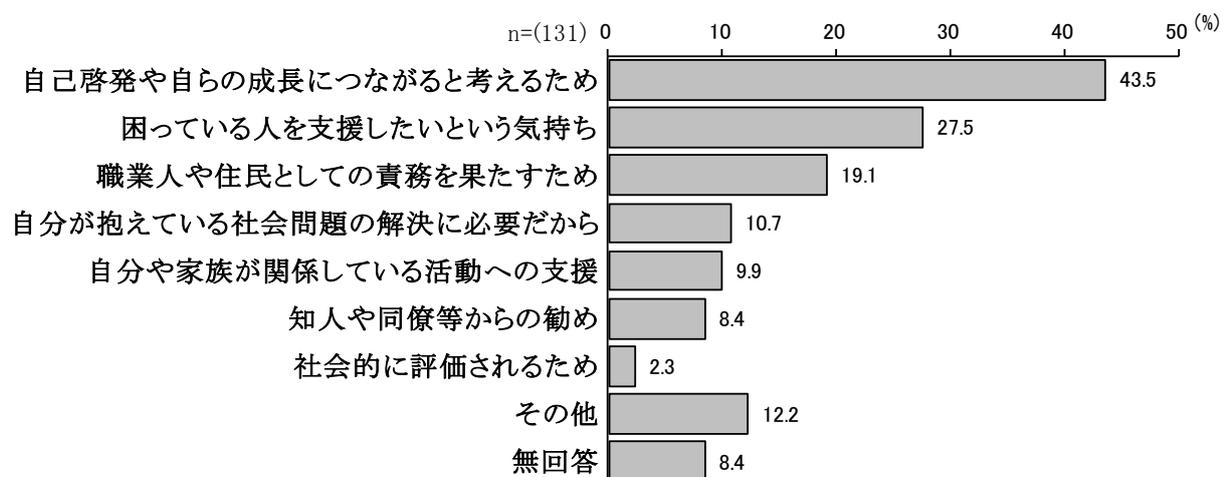
地域団体への参加理由については、「職業人や住民としての責務を果たすため」が42.4%と最も高く、次いで、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」(31.3%)、「自分や家族が関係している活動への支援」(21.2%)の順となっている。

【図表25：年齢別／参加の理由】**地域団体**上位8項目



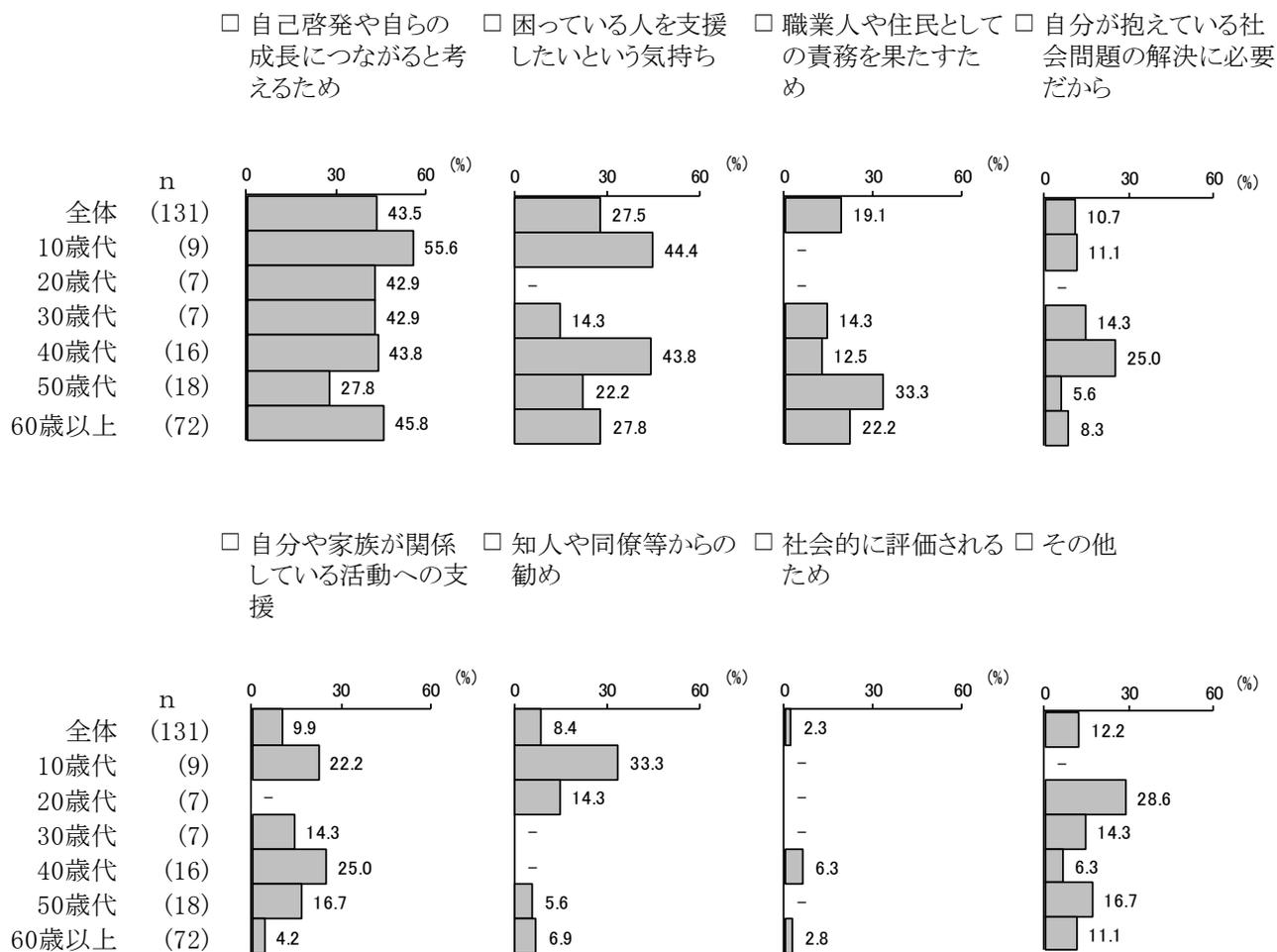
年齢別はサンプル数が少ないため参考として表示することとする。

【図表26：地域活動の参加の理由】 ボランティア



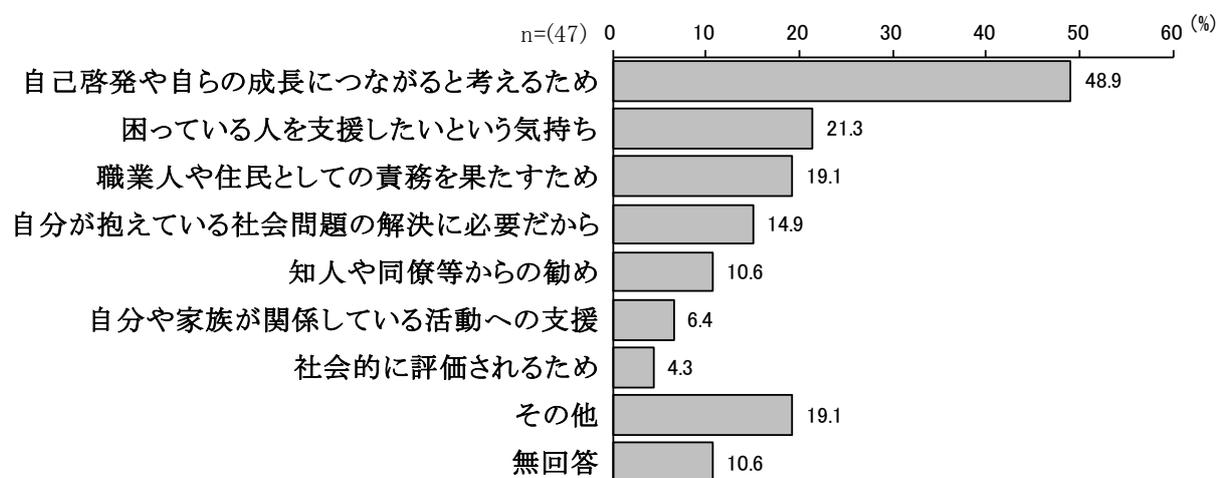
ボランティアへの参加理由については、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が43.5%と最も高く、次いで、「困っている人を支援したいという気持ち」(27.5%)、「職業人や住民としての責務を果たすため」(19.1%)の順となっている。

【図表 27：年齢別／参加の理由】ボランティア上位8項目



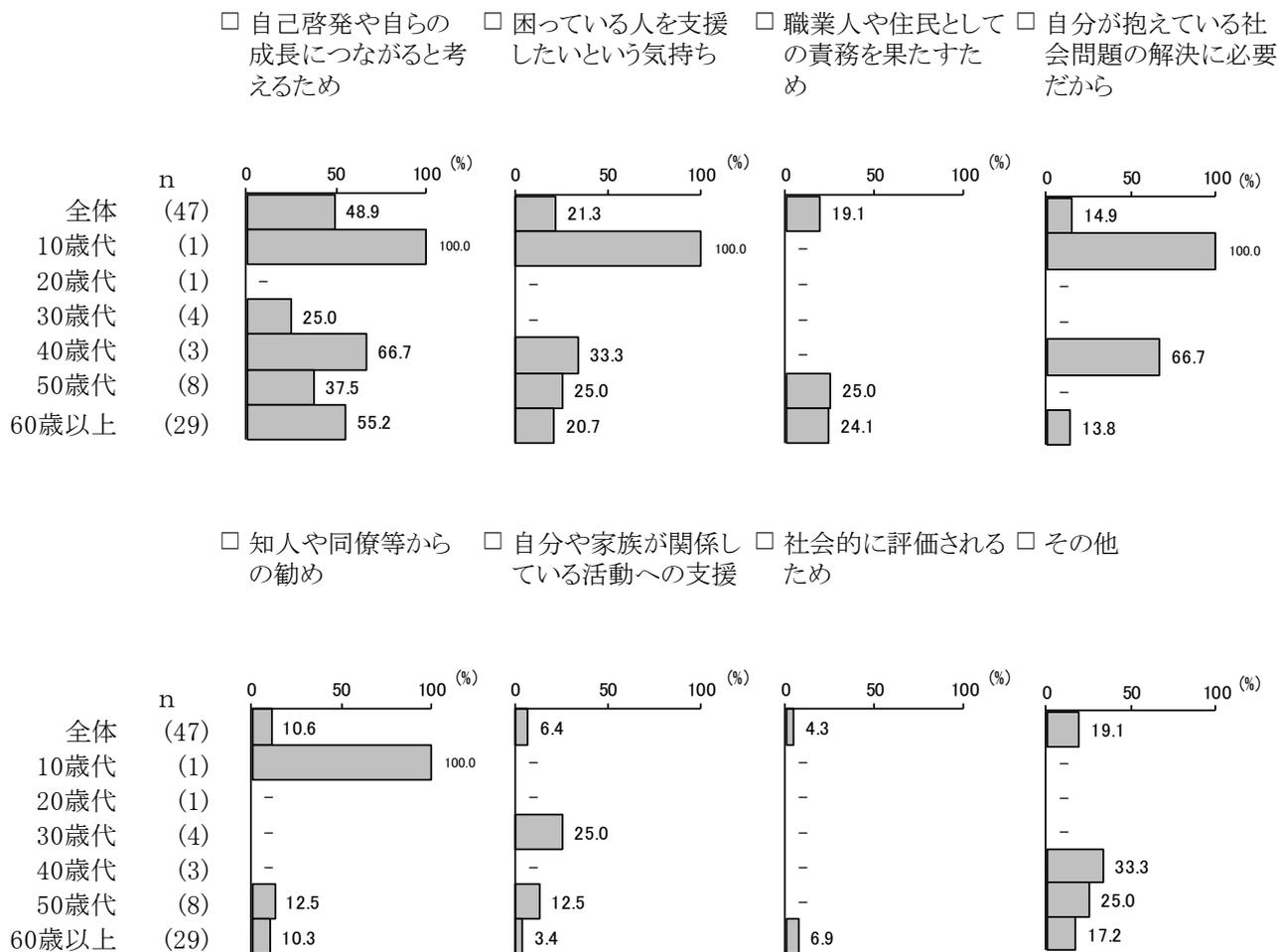
年齢別はサンプル数が少ないため参考として表示するにとどめる。

【図表28：地域活動の参加の理由】市民活動団体(NPOを含む)



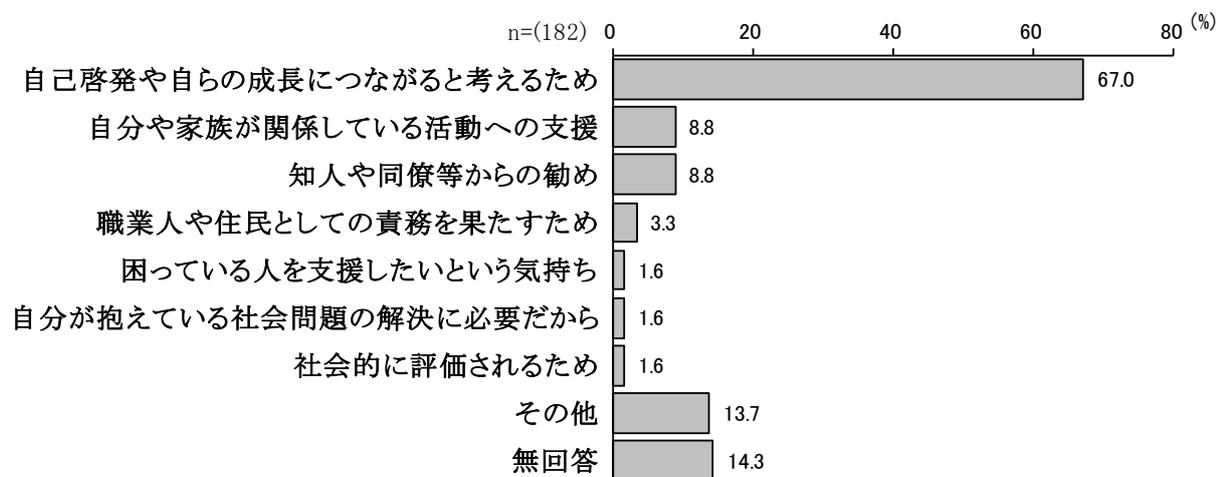
市民活動団体(NPOを含む)への参加理由については、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が48.9%と最も高く、次いで、「困っている人を支援したいという気持ち」(21.3%)、「職業人や住民としての責務を果たすため」(19.1%)の順となっている。

【図表29：年齢別／参加の理由】市民活動団体(NPOを含む)上位8項目



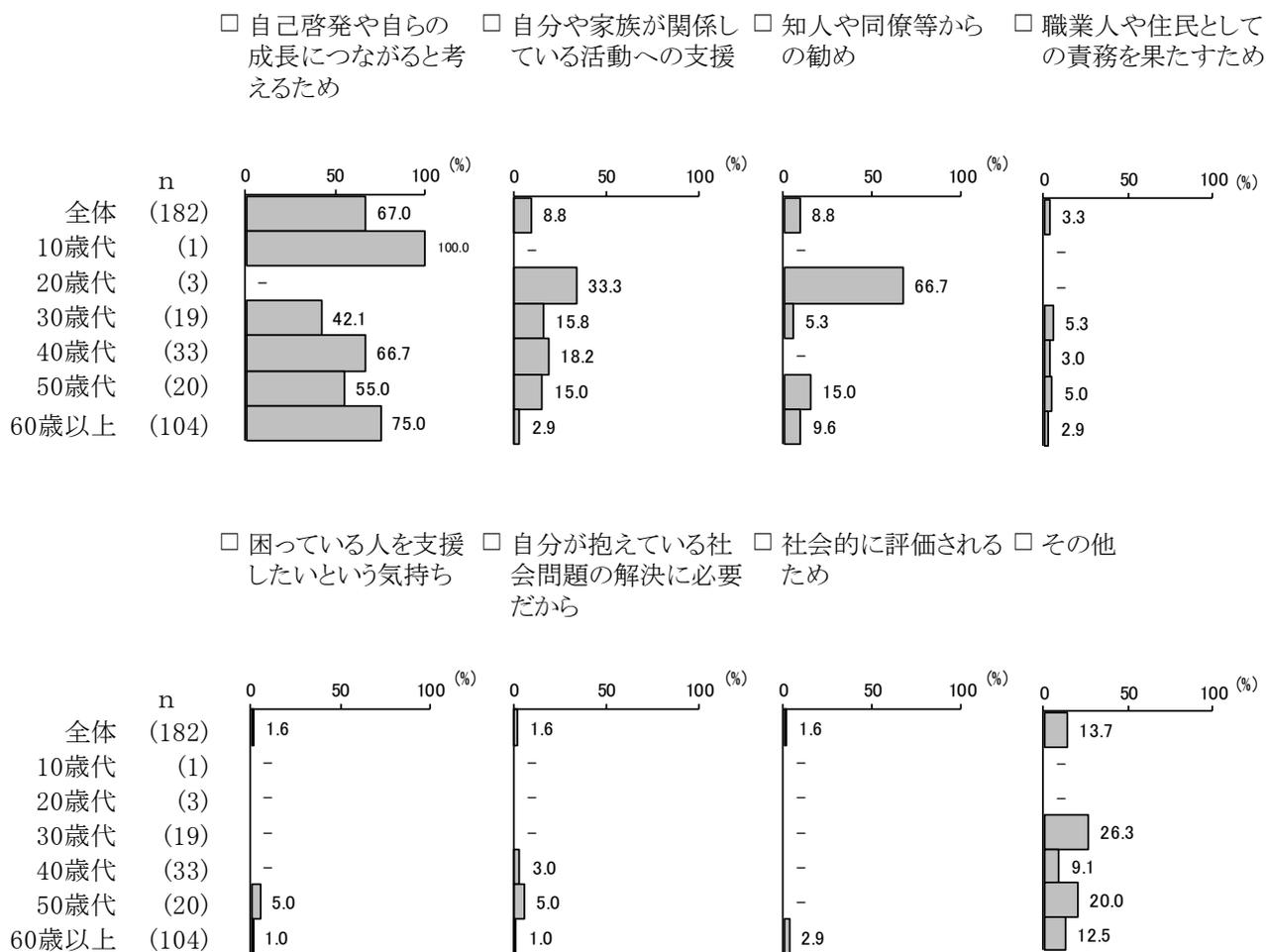
年齢別はサンプル数が少ないため参考として表示するにとどめる。

【図表30：地域活動の参加の理由】 公民館などのサークルや講座



公民館などのサークルや講座への参加理由については、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が67.0%と最も高く、次いで、「自分や家族が関係している活動への支援」及び「知人や同僚等からの勧め」(8.8%)の順となっている。

【図表31：年齢別／参加の理由】**公民館などのサークルや講座**上位8項目



年齢別はサンプル数が少ないため参考として表示するにとどめる。

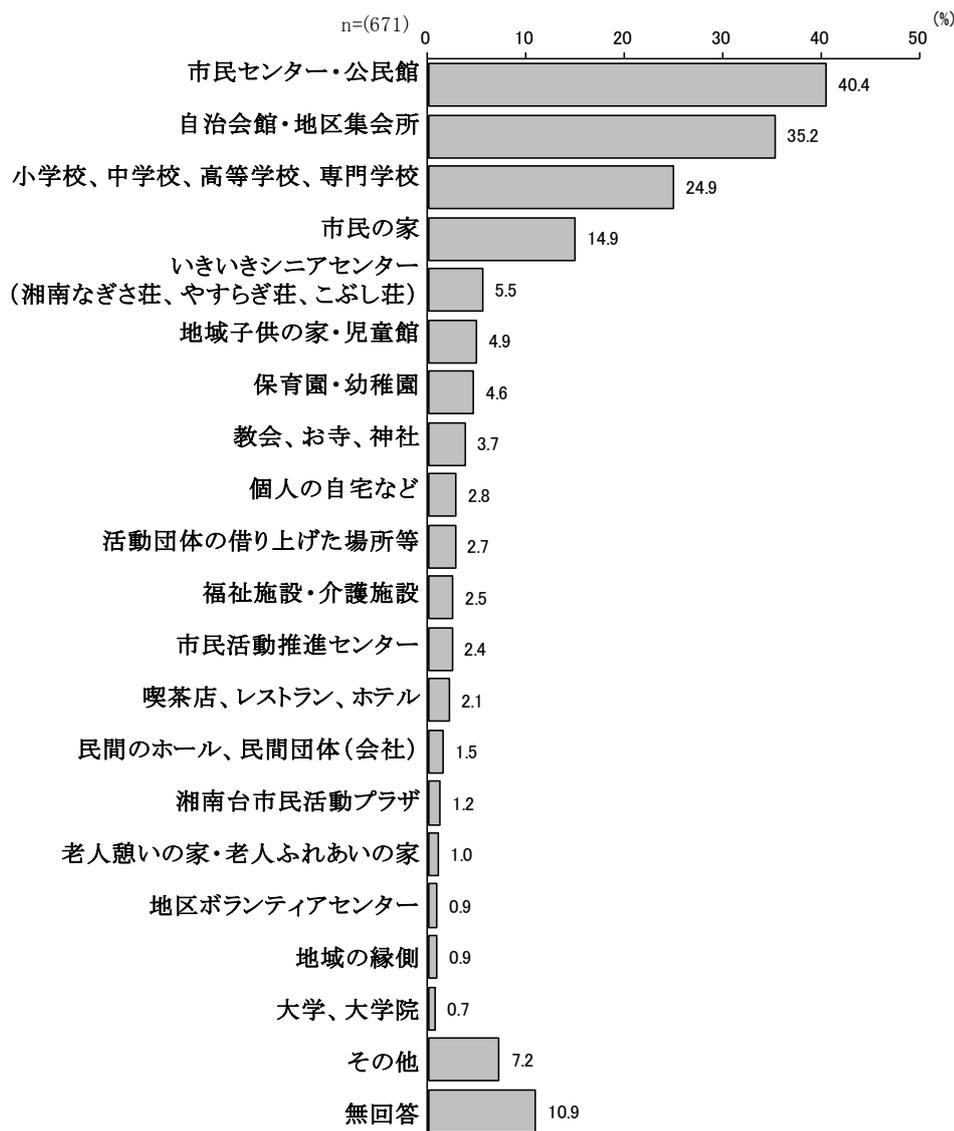
## (3) 地域活動を行う場として利用している施設

【問2-2、「①参加の頻度」で2～5に○を一つでもつけた方にお聞きします】

問2-3 あなたが地域活動を行う場として利用している施設（場所）はどこですか。

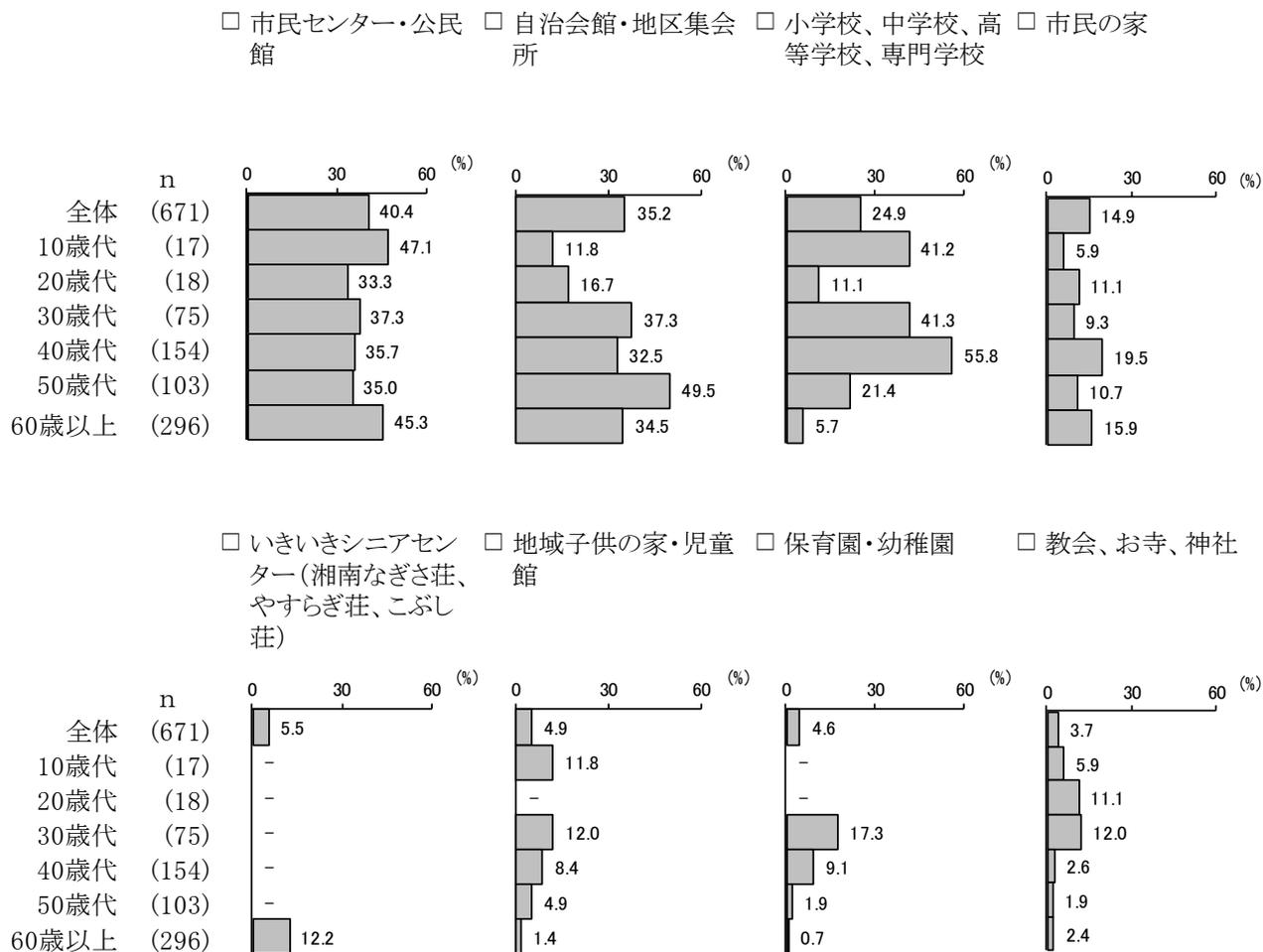
（あてはまるものすべてに○）

【図表32：地域活動を行う場として利用している施設】



地域活動を行う場として利用している施設については、「市民センター・公民館」が40.4%と最も高く、次いで、「自治会館・地区集会所」(35.2%)、「小学校、中学校、高等学校、専門学校」(24.9%)の順となっている。

【図表33：年齢別／地域活動を行う場として利用している施設】上位8項目



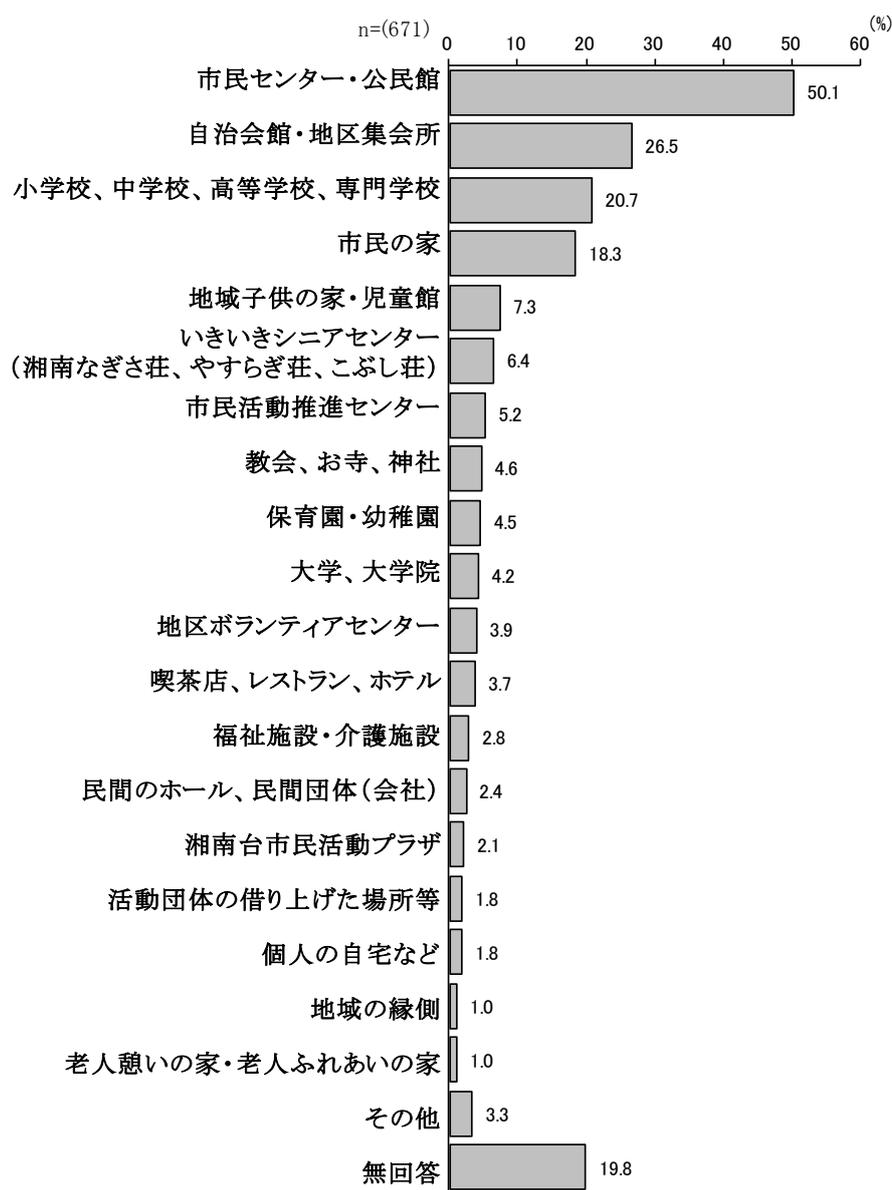
「市民センター・公民館」を年齢別で見ると、60歳以上が45.3%と高くなっている。「自治会館・地区集会所」は50歳代が49.5%で最も高くなっている。「小学校、中学校、高等学校、専門学校」は40歳代が55.8%で最も高くなっている。

## (4) 地域活動を行う場として今後利用したい施設

【問2-2、「①参加の頻度」で2～5に一つでも○をつけた方にお聞きします】

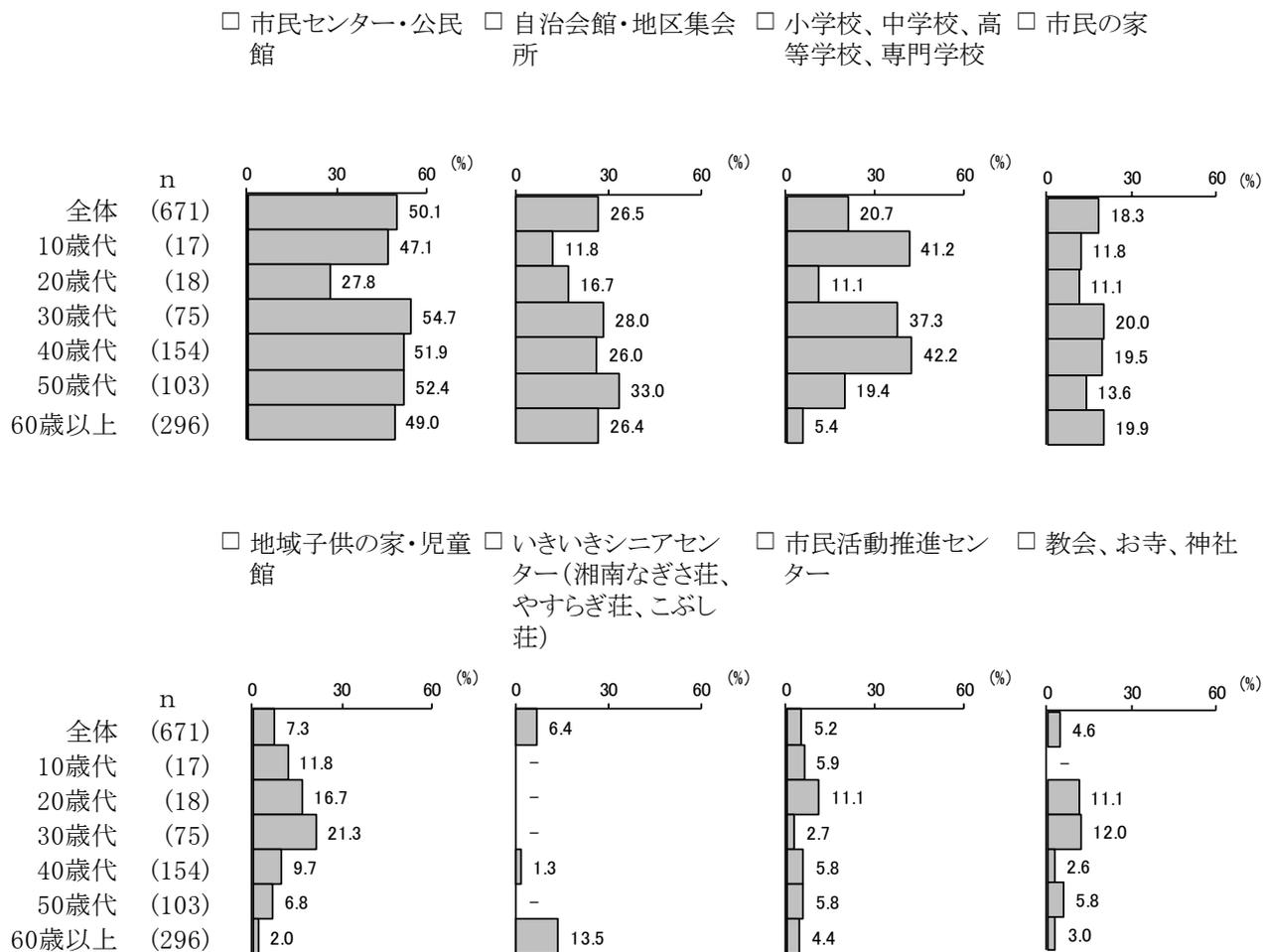
問2-4 あなたが地域活動を行う場として今後利用したい施設（場所）はどこですか。  
（あてはまるものすべてに○）

【図表34：地域活動を行う場として今後利用したい施設】



地域活動を行う場として今後利用したい施設については、「市民センター・公民館」が50.1%と最も高く、次いで、「自治会館・地区集会所」(26.5%)、「小学校、中学校、高等学校、専門学校」(20.7%)の順となっている。

【図表35：年齢別／地域活動を行う場として今後利用したい施設】上位8項目

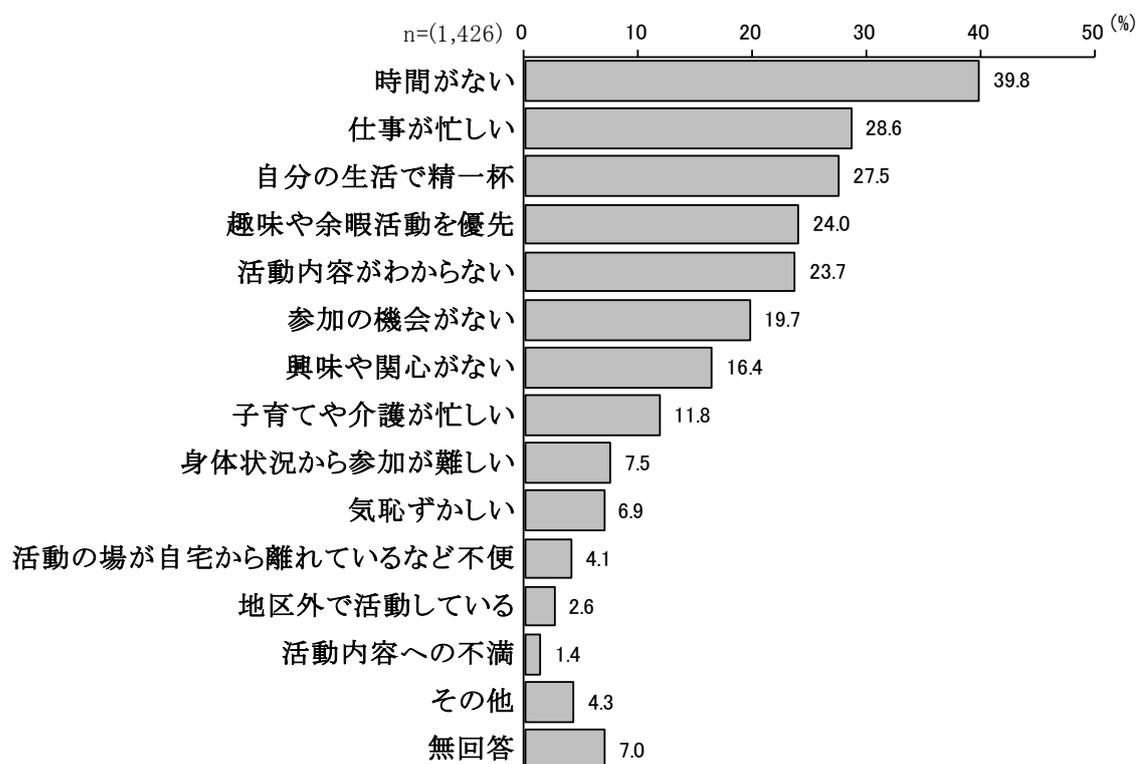


「市民センター・公民館」を年齢別で見ると、30歳代（54.7%）、40歳代（51.9%）、50歳代（52.4%）と5割を超えて高くなっている。「自治会館・地区集会所」は50歳代が33.0%と最も高くなっている。「小学校、中学校、高等学校、専門学校」は30歳代（37.3%）と40歳代（42.2%）が3割以上となっている。

## (5) 地域活動に参加することに妨げとなること

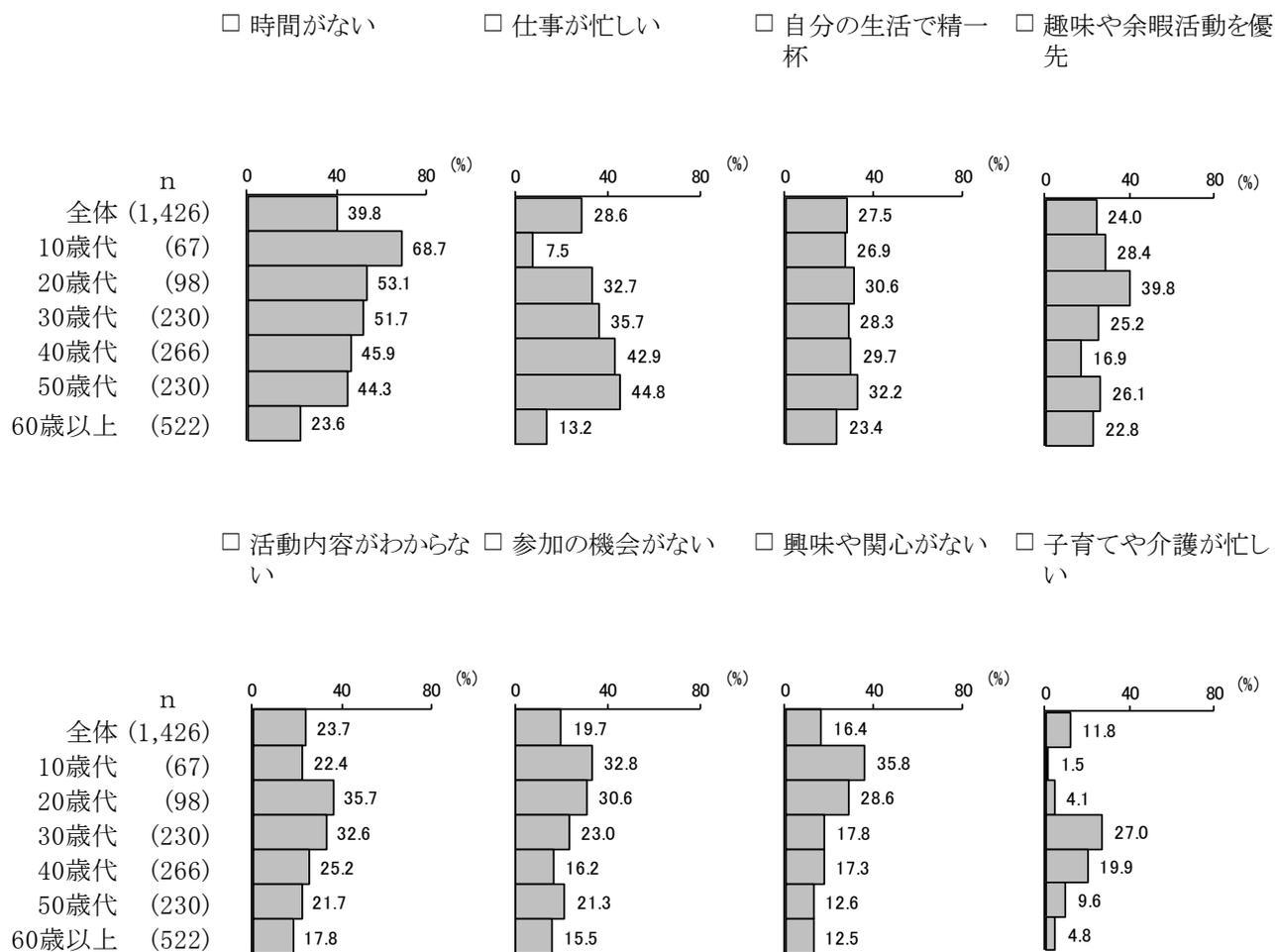
問2-5 地域活動に参加することに妨げとなることはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

【図表36：地域活動に参加することに妨げとなること】



地域活動に参加することに妨げとなることについては、「時間がない」が39.8%と最も高く、次いで、「仕事が忙しい」(28.6%)、「自分の生活で精一杯」(27.5%)の順となっている。

【図表37：年齢別／地域活動に参加することに妨げとなること】上位8項目



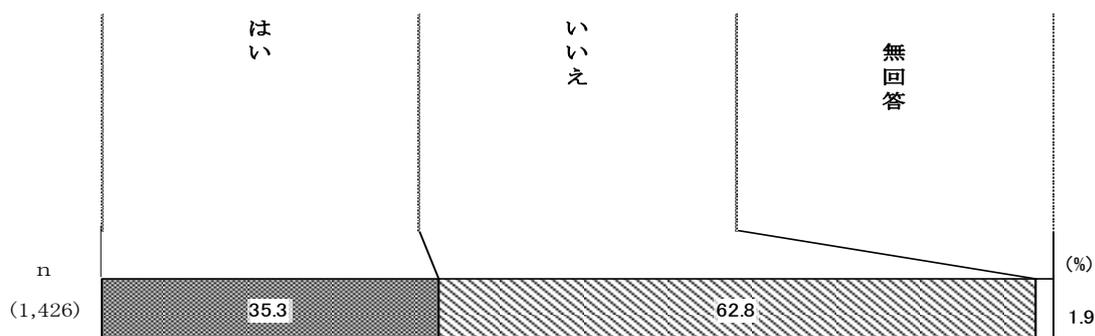
「時間がない」を年齢別で見ると、10歳代が68.7%と最も高く、年代が上がるにつれ低くなっている。「仕事が忙しい」は年代が上がるにつれ高くなっており、50歳代で44.8%と最も高くなっている。「自分の生活で精一杯」はすべての年代で20%を超えており、あまり大きな差はみられない。

### 3. 市民活動について

#### (1) 市民活動への参加意向

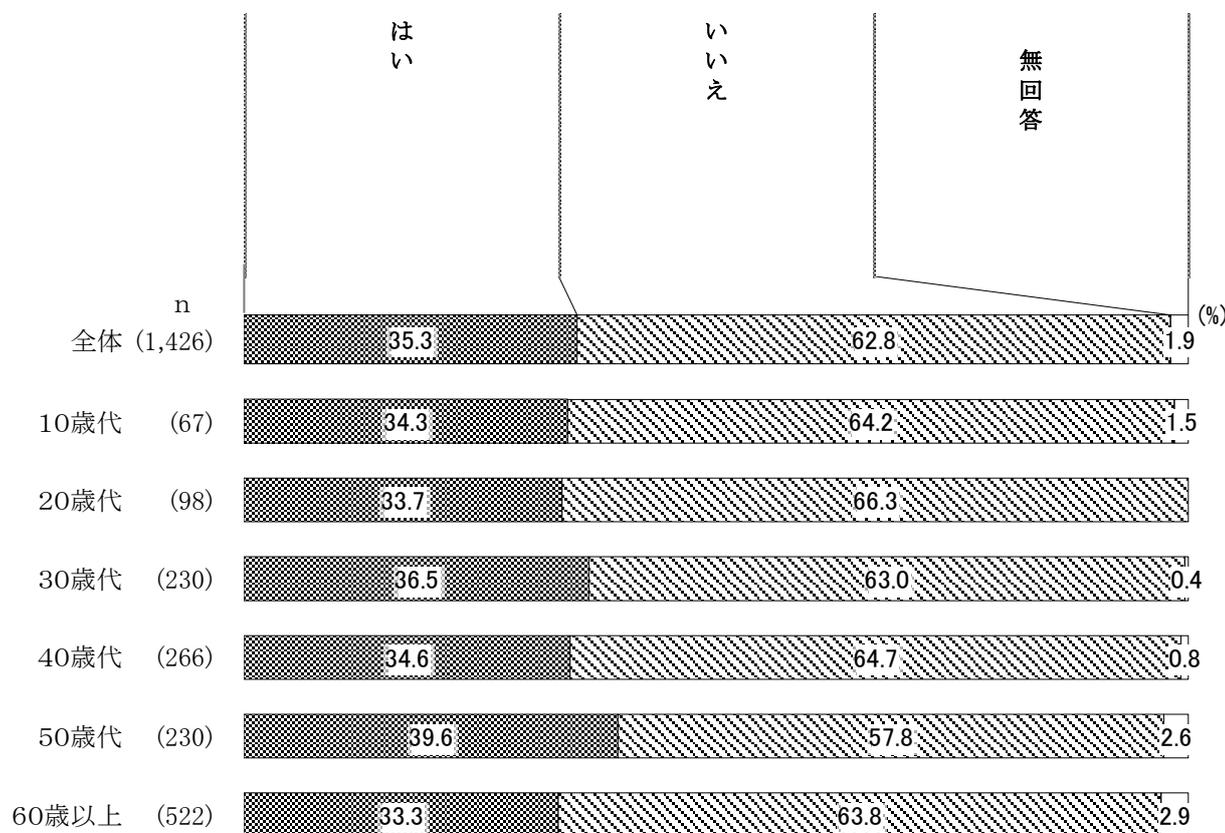
問3-1 今後、市民活動（市民活動団体（NPOを含む）の活動）に参加したいですか。  
（一つに〇）

【図表38：市民活動への参加意向】



市民活動への参加意向については、「はい」が35.3%、「いいえ」が62.8%となっている。

【図表39：年齢別／市民活動への参加意向】



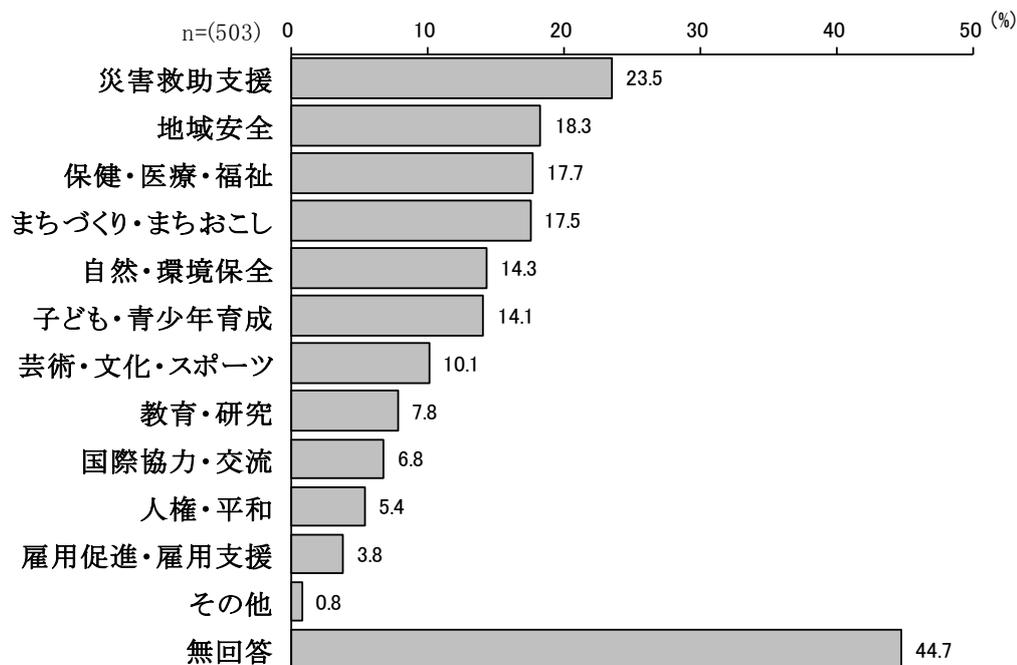
「はい」を年齢別で見ると、すべての年代で30%を超えており、あまり大きな差はみられない。

(2) 参加したい市民活動の分野

【問3-1で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

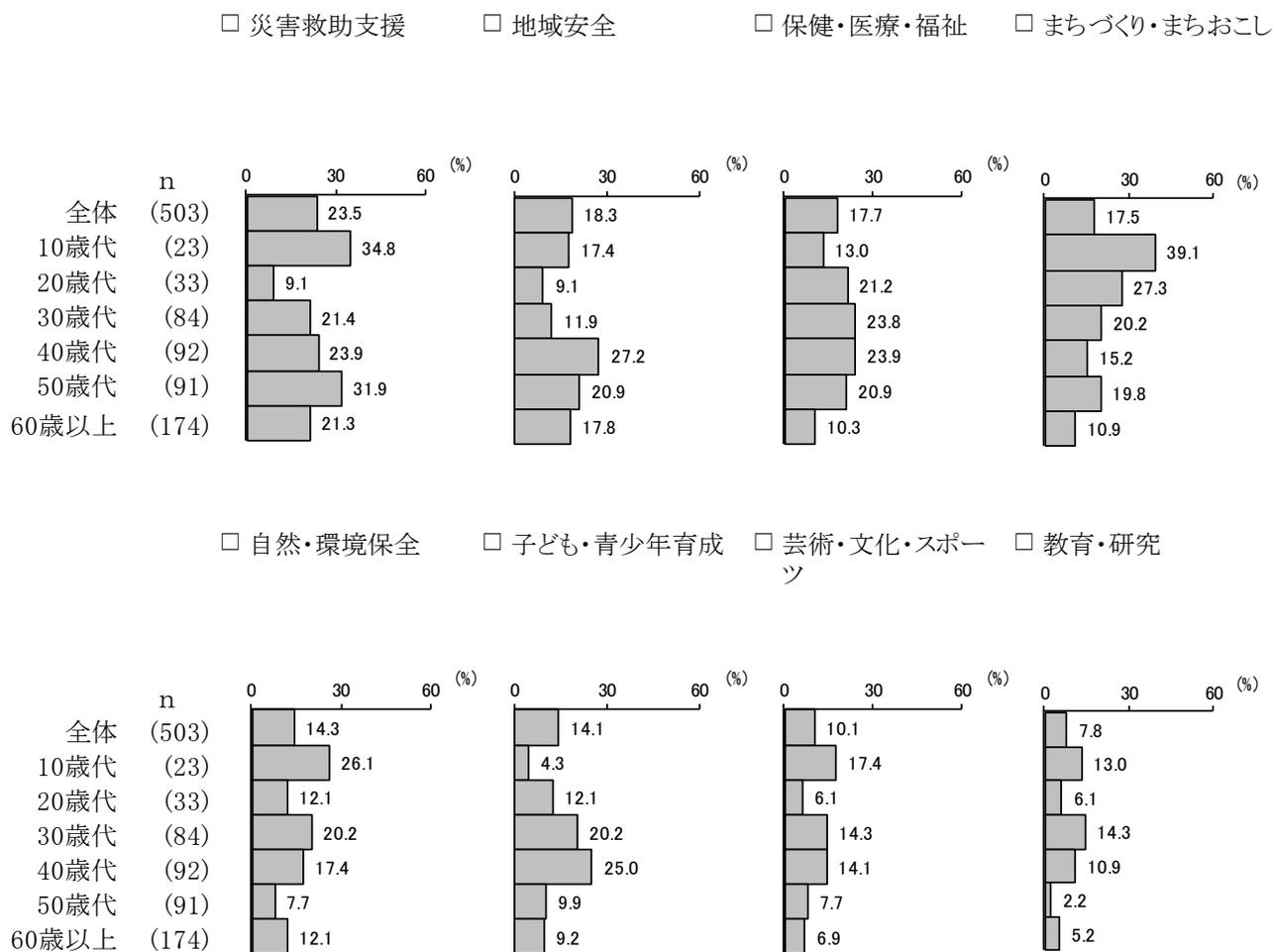
問3-2 次のうち、参加したい市民活動の分野をお選びください。

【図表40：参加したい市民活動の分野 ①震災関連】



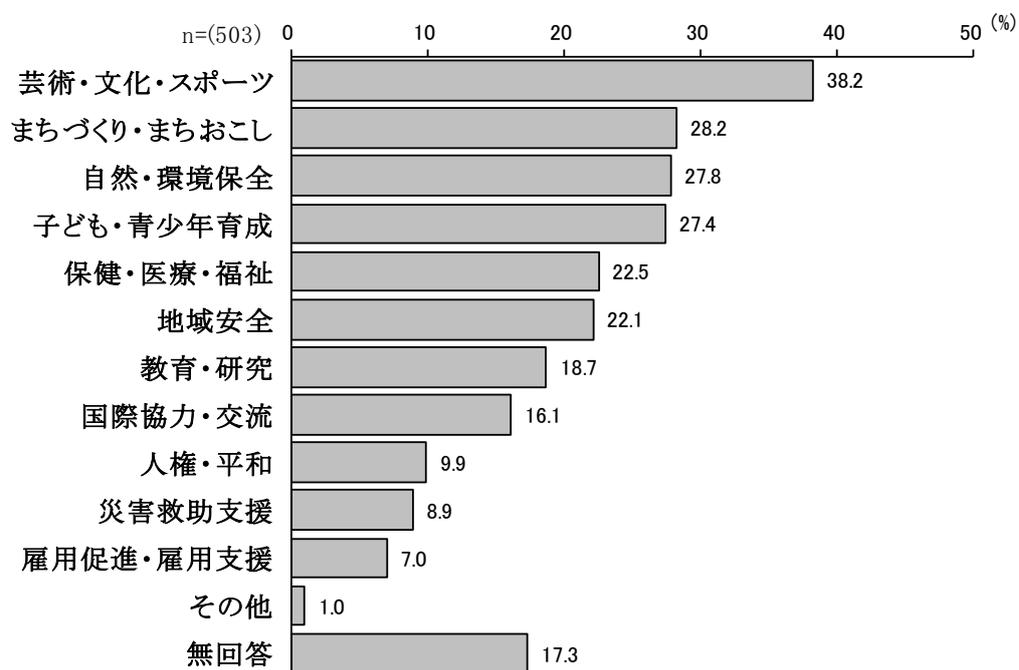
参加したい震災関連活動については、「災害救助支援」が23.5%と最も高く、次いで、「地域安全」(18.3%)、「保健・医療・福祉」(17.7%)の順となっている。

【図表41：年齢別／参加したい市民活動の分野 ①震災関連】上位8項目



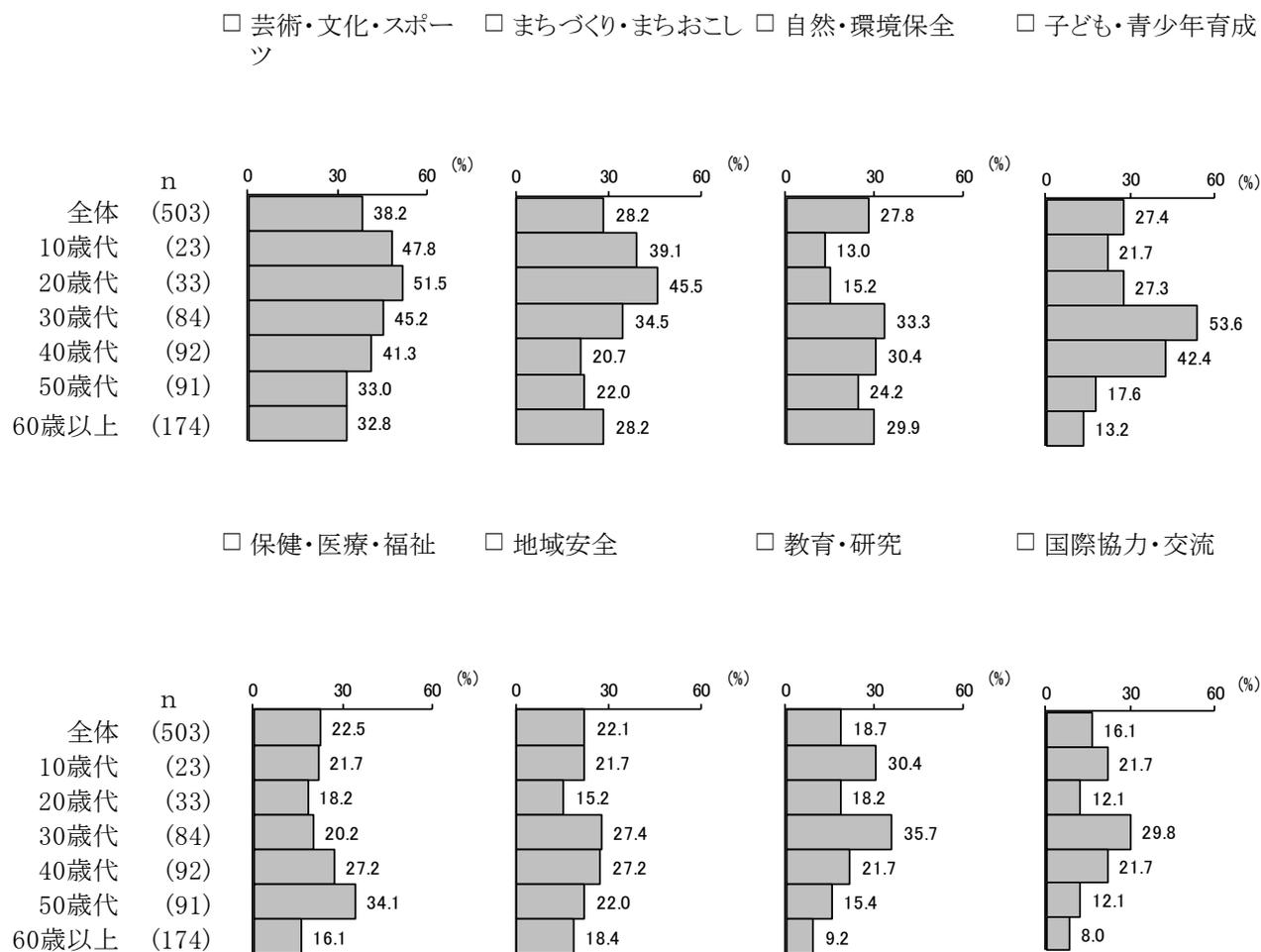
「災害救助支援」を年齢別で見ると、50歳代が31.9%と最も高くなっている。「地域安全」は40歳代が27.2%と最も高くなっている。「保健・医療・福祉」は20～50歳代で20%を超えて高くなっている。

【図表42：参加したい市民活動の分野 ②震災関連を除く】



震災関連を除く市民活動については、「芸術・文化・スポーツ」が38.2%と最も高く、次いで、「まちづくり・まちおこし」(28.2%)、「自然・環境保全」(27.8%)の順となっている。

【図表43：年齢別／参加したい市民活動の分野 ②震災関連を除く】上位8項目



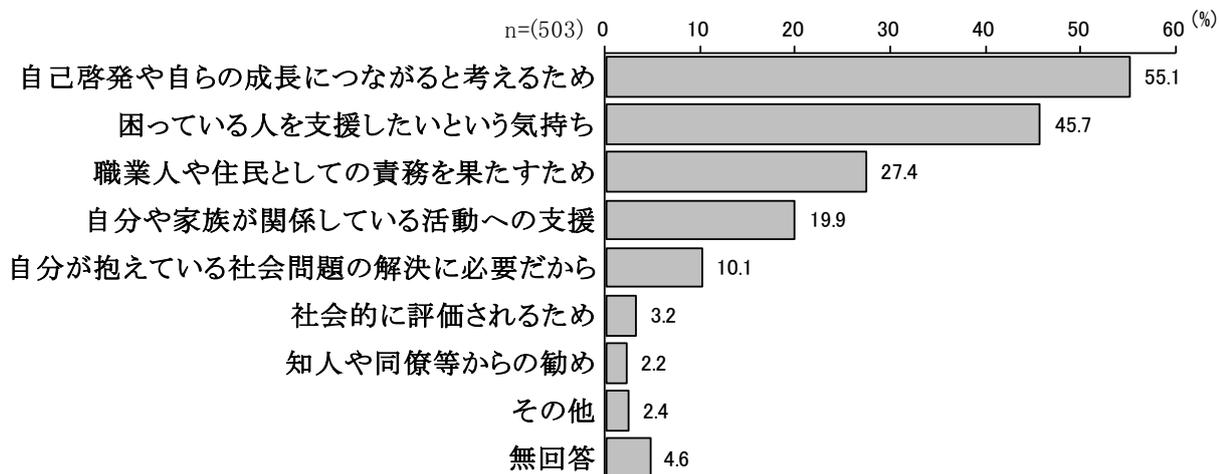
「芸術・文化・スポーツ」を年齢別で見ると、20歳代が51.5%と最も高く、おおむね年代が上がるにつれて低くなっている。「まちづくり・まちおこし」は20歳代が45.5%と最も高くなっている。「自然・環境保全」は30歳代が33.3%と最も高くなっており、次いで40歳代（30.4%）と60歳以上（29.9%）が約3割と高くなっている。

### (3) 市民活動に参加する理由

【問3-1で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

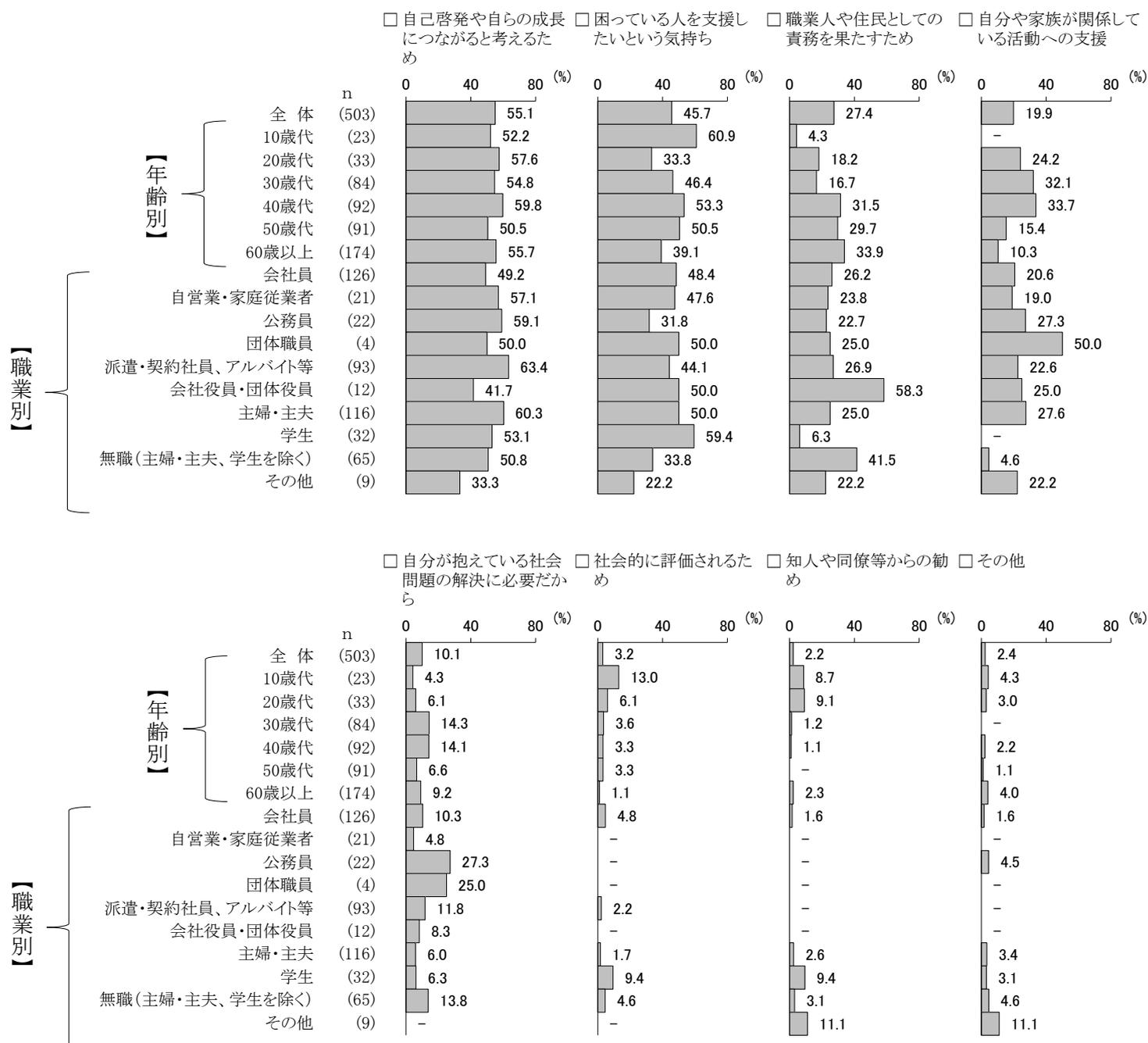
問3-3 市民活動に参加する理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【図表44：市民活動に参加する理由】



市民活動に参加する理由については、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が55.1%と最も高く、次いで、「困っている人を支援したいという気持ち」(45.7%)、「職業人や住民としての責務を果たすため」(27.4%)の順となっている。

【図表45：年齢別・職業別／市民活動に参加する理由】上位6項目



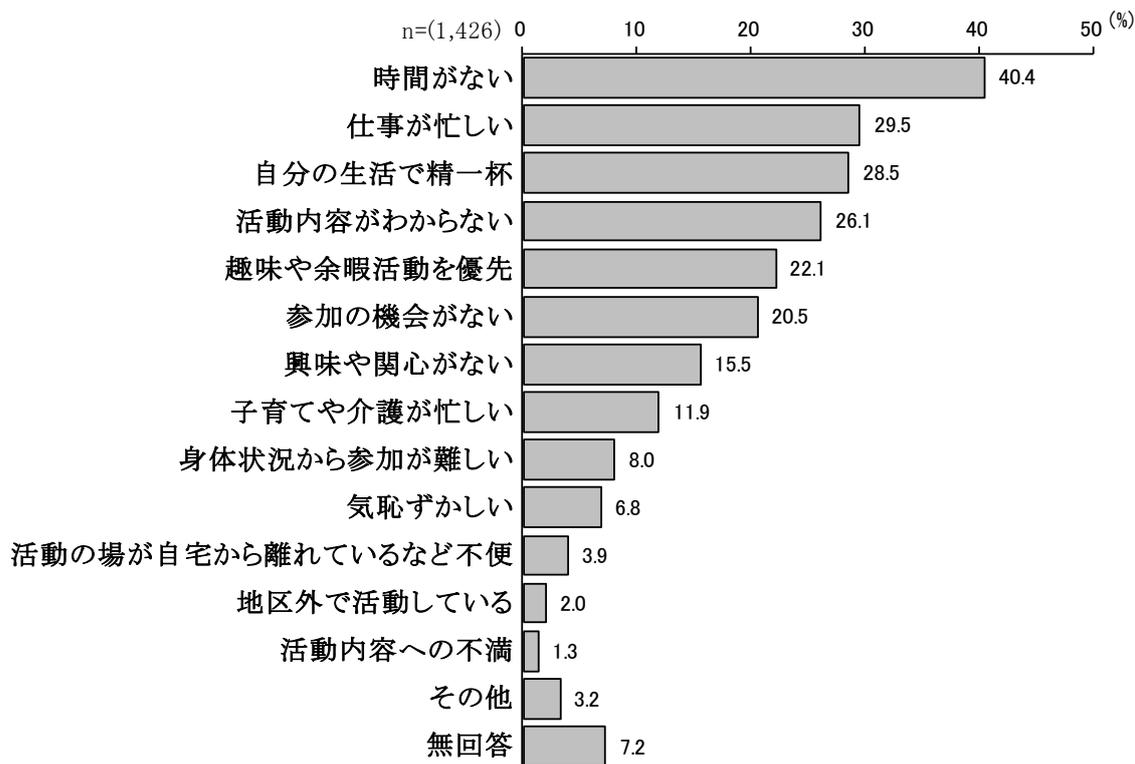
「自己啓発や自らの成長につながるため」を年齢別で見ると、すべての年代で50%を超えており、年齢別であまり大きな差はみられない。「困っている人を支援したいという気持ち」は40～50歳代が50%を超えて高くなっている。

「自己啓発や自らの成長につながるため」を職業別で見ると、「派遣・契約社員、アルバイト等」「主婦・主夫」が60%を超えて高くなっている。

(4) 市民活動に参加することに妨げとなること

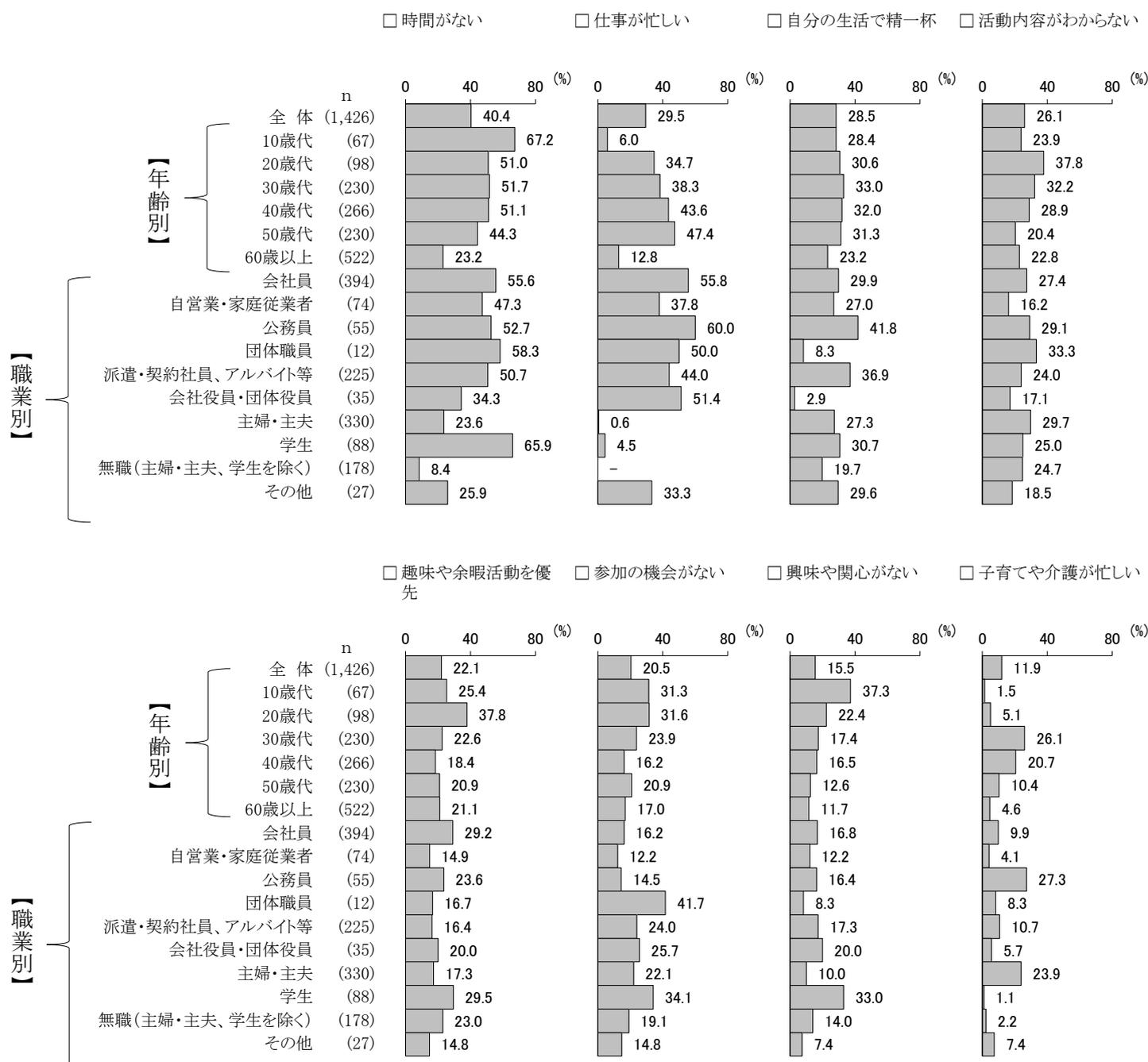
問3-4 市民活動に参加することに妨げとなることはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

【図表46：市民活動に参加することに妨げとなること】



市民活動に参加することに妨げとなることについては、「時間がない」が40.4%と最も高く、次いで、「仕事が忙しい」(29.5%)、「自分の生活で精一杯」(28.5%)の順となっている。

【図表47：年齢別・職業別／市民活動に参加することに妨げとなること】上位8項目



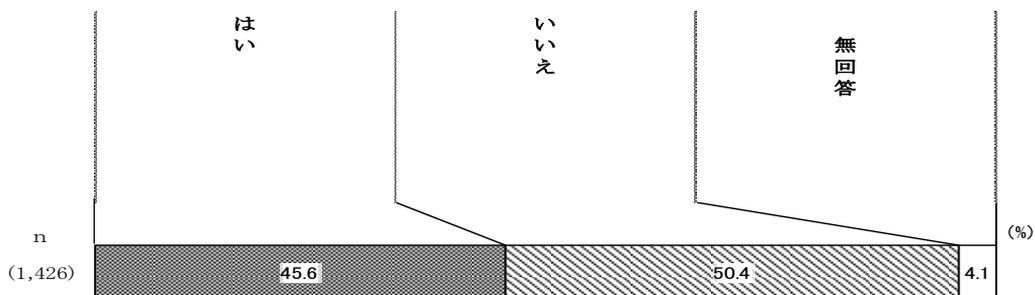
「時間がない」を年齢別で見ると、10歳代が67.2%と最も高くなっている。次いで、20～40歳代が50%を超えている。「仕事が忙しい」はおおむね年代が上がるにつれ高くなり、50歳代が47.4%と最も高くなっている。「自分の生活で精一杯」は60歳以上を除いたすべての年代で約30%となっており、年齢別であまり大きな差はみられない。

「時間がない」を職業別で見ると、「学生」が65.9%と最も高くなっている。「仕事が忙しい」は「公務員」が60.0%と最も高くなっている。

(5) 市民活動団体に期待することの有無

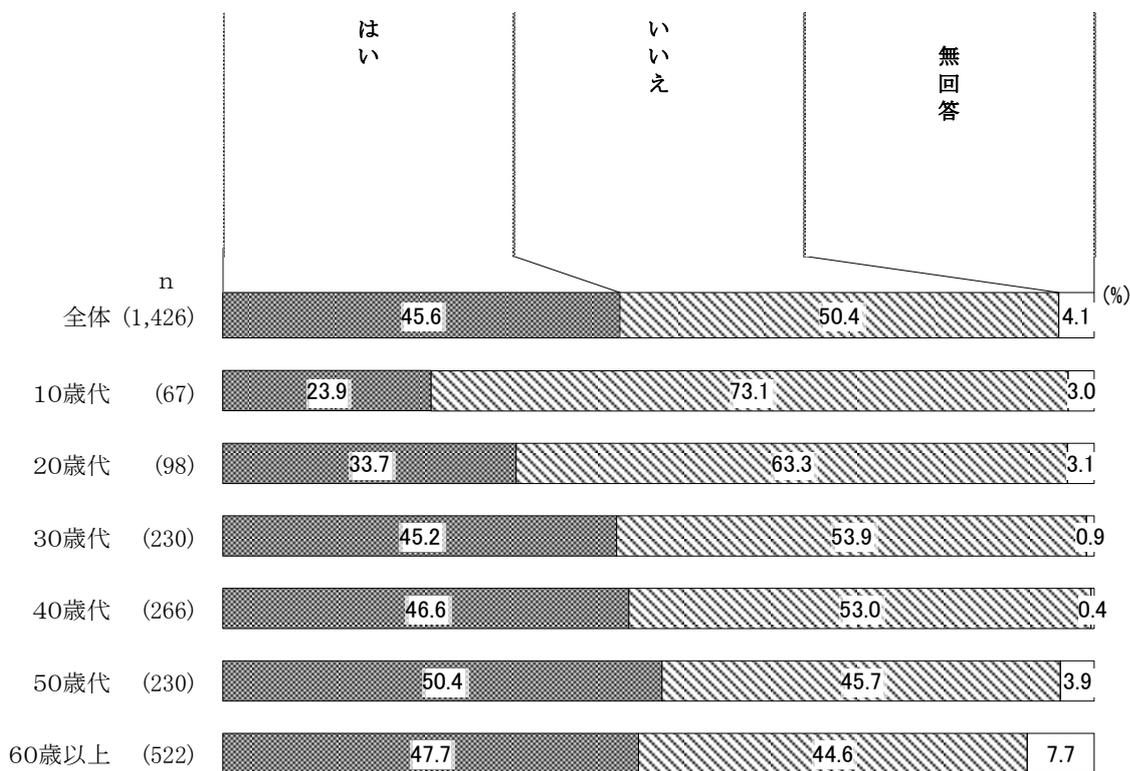
問3-5 あなたは市民活動団体に期待することはありますか。(一つに○)

【図表48：市民活動団体に期待することの有無】



市民活動団体に期待することの有無については、「はい」が45.6%、「いいえ」が50.4%となっている。

【図表49：年齢別／市民活動団体に期待することの有無】



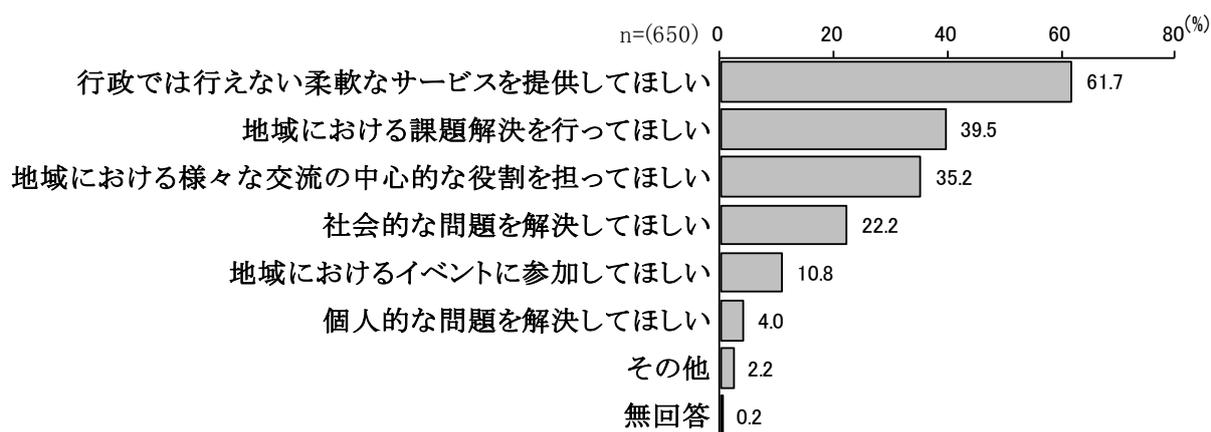
年齢別でみると、「はい」は50歳代が50.4%と最も高くなっており、次いで、60歳以上（47.7%）、40歳代（46.6%）、30歳代（45.2%）と高くなっている。

## (6) 市民活動団体に期待することの内容

【問3-5で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

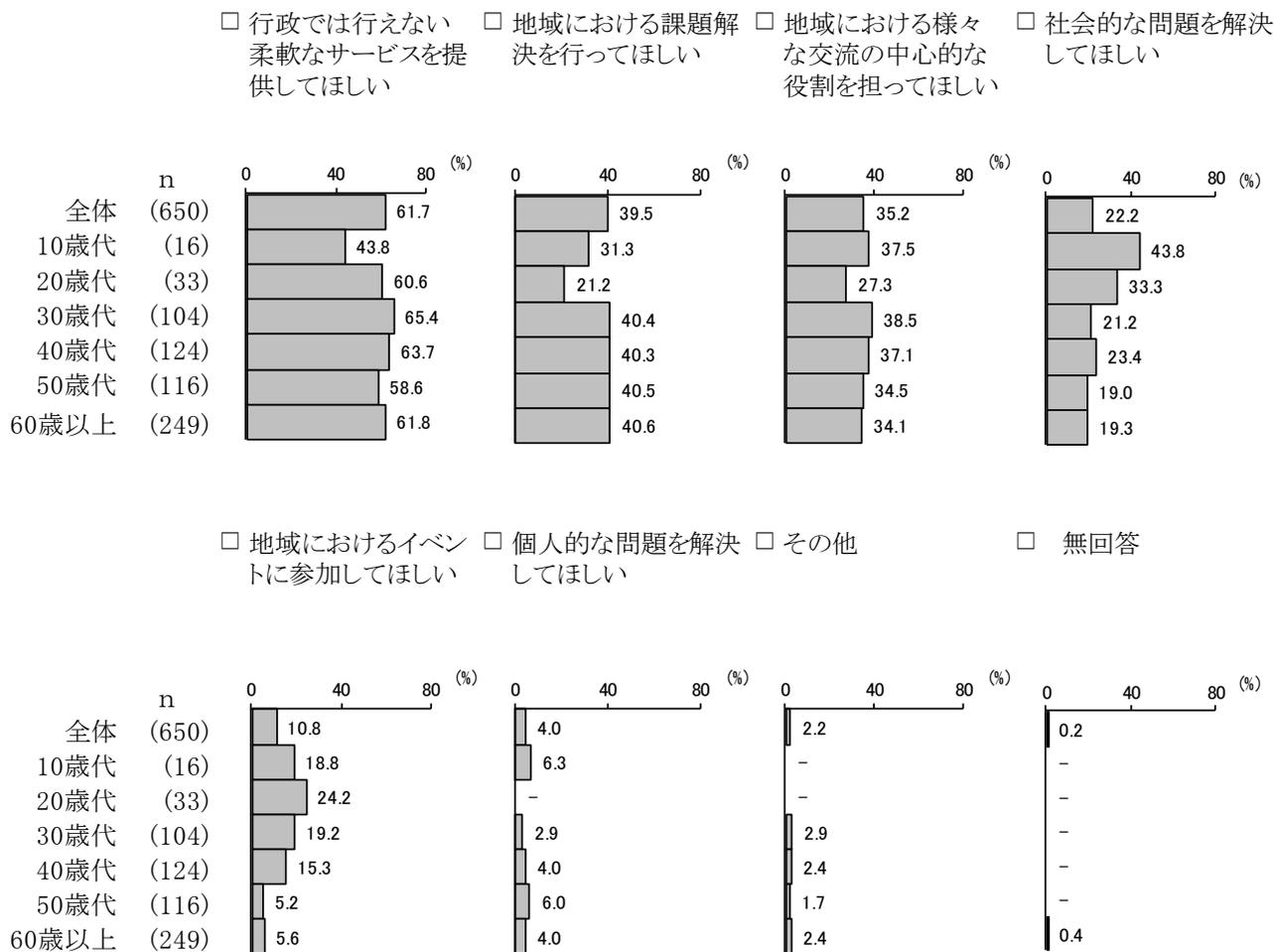
問3-6 あなたが市民活動団体に期待することは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【図表50：市民活動団体に期待することの内容】



市民活動団体に期待することの内容については、「行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい」が61.7%と最も高く、次いで、「地域における課題解決を行ってほしい」(39.5%)、「地域における様々な交流の中心的な役割を担ってほしい」(35.2%)の順となっている。

【図表51：年齢別／市民活動団体に期待することの内容】



「行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい」を年齢別で見ると、20歳代～60歳以上が約60%となっており、年齢別であまり大きな差はみられない。「地域における課題解決を行ってほしい」は30歳代～60歳以上が約40%と高くなっている。「地域における様々な交流の中心となる役割を担ってほしい」も同様の傾向がみられ、30歳代～60歳以上が30%を超えて高くなっている。

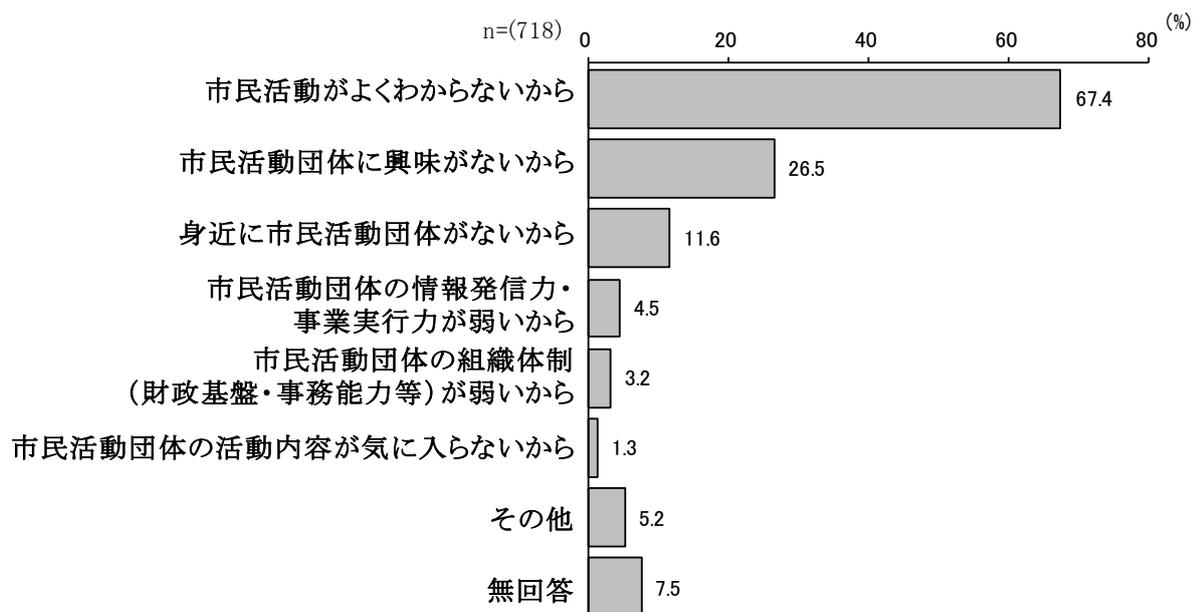
## (7) 市民活動団体に期待することがない理由

【問3-5で「2. いいえ」に○をつけた方にお聞きします】

問3-7 あなたが市民活動団体に期待することがないのはなぜですか。

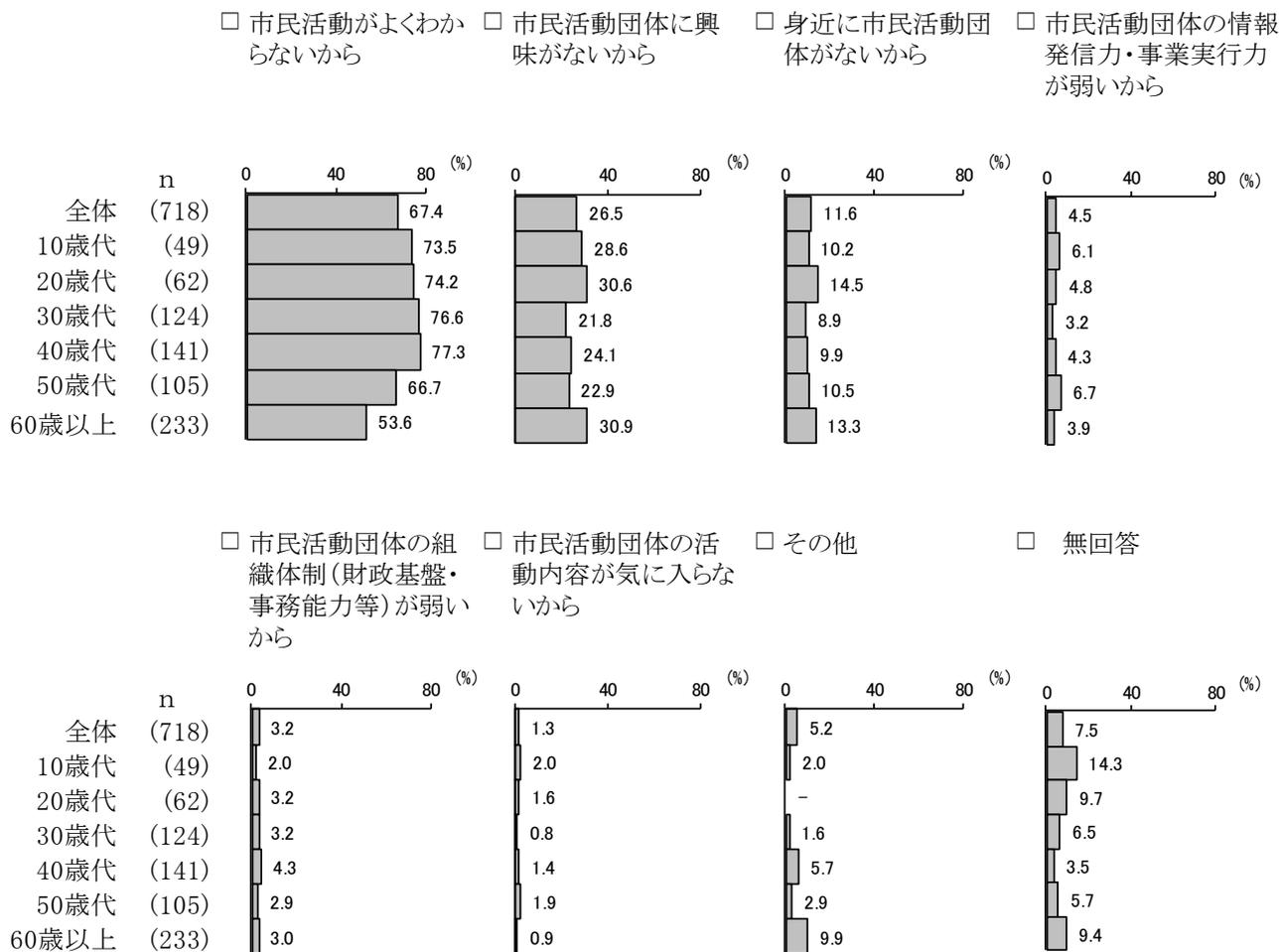
(あてはまるもの全てに○)

【図表52：市民活動団体に期待することがない理由】



市民活動団体に期待することがない理由については、「市民活動がよくわからないから」が67.4%と最も高く、次いで、「市民活動団体に興味がないから」(26.5%)、「身近に市民活動団体がないから」(11.6%)の順となっている。

【図表53：年齢別／市民活動団体に期待することがない理由】

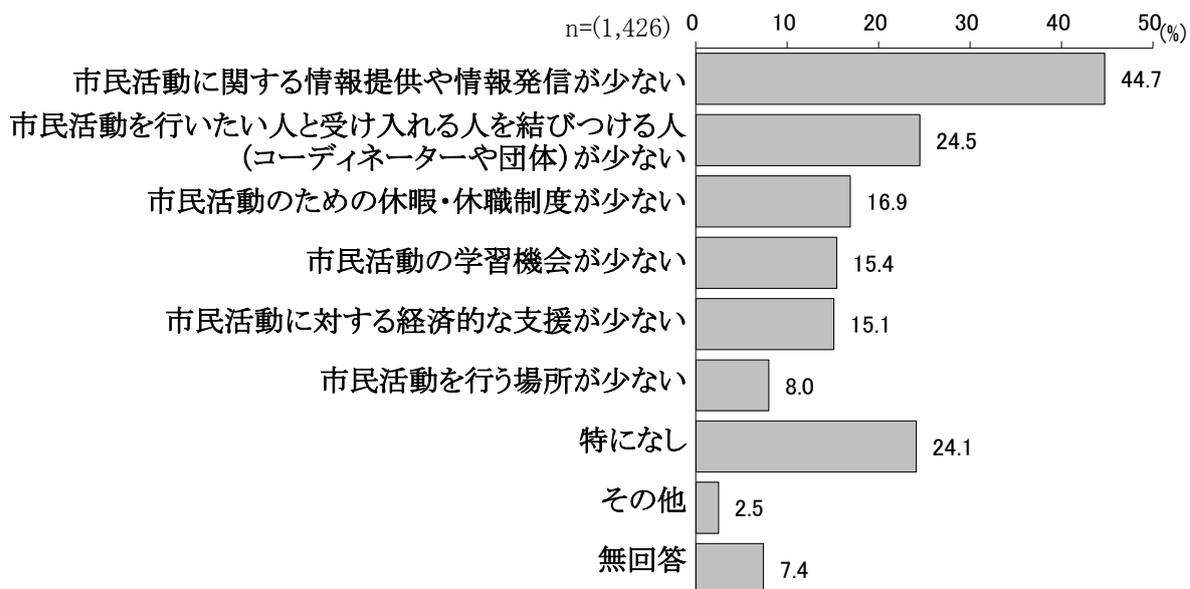


「市民活動がよくわからないから」を年齢別で見ると、10～40歳代が70%を超えて高くなっている。「市民活動団体に興味がないから」は20歳代と60歳以上が30%を超えて高くなっている。

## (8) 市民活動団体が活動するときに妨げになること

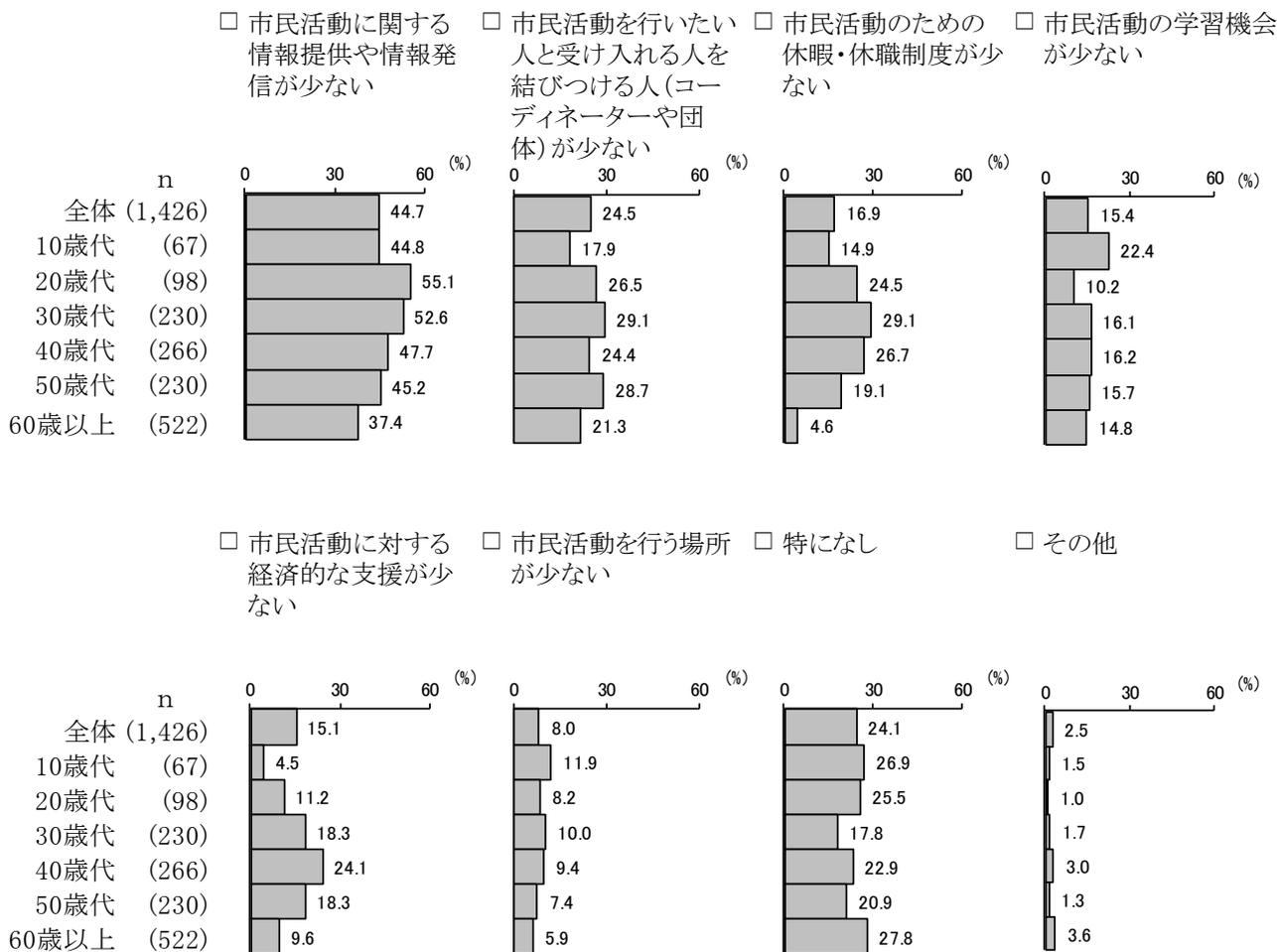
問3-8 市民活動団体が活動するときに、妨げになると思うことはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

【図表54：市民活動団体が活動するときに妨げになること】



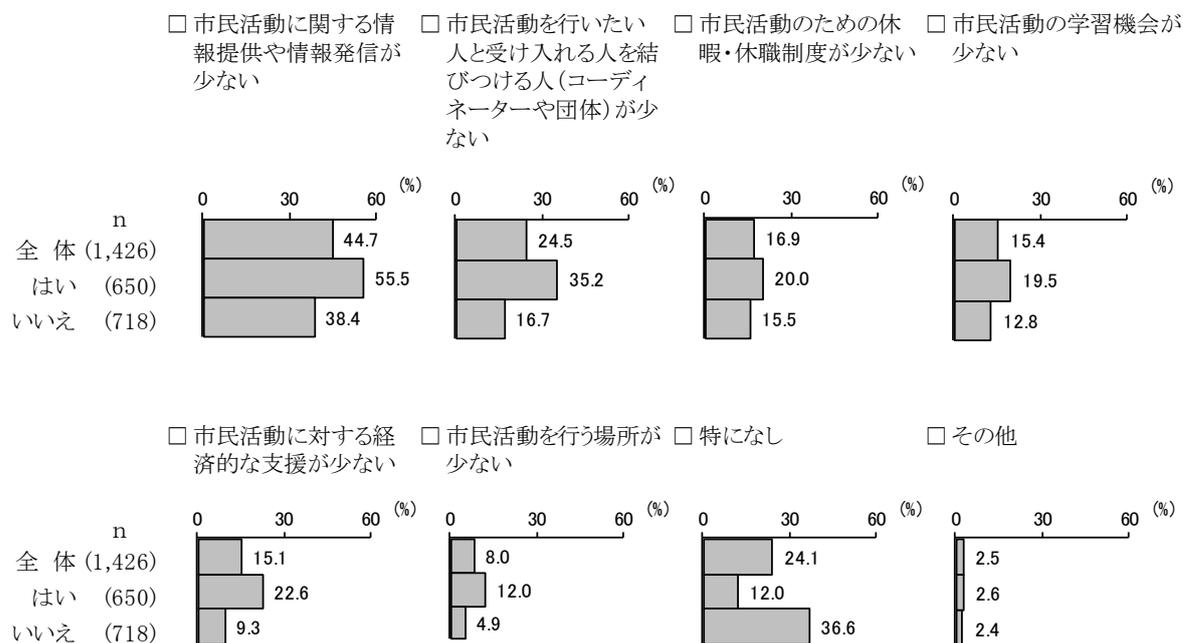
市民活動団体が活動する時に妨げになることについては、「市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない」が44.7%と最も高く、次いで、「市民活動を行いたい人と受け入れる人を結びつける人(コーディネーターや団体)が少ない」(24.5%)、「市民活動のための休暇・休職制度が少ない」(16.9%)の順となっている。

【図表55：年齢別／市民活動団体が活動するときに妨げになること】上位8項目



「市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない」を年齢別で見ると、20歳代が55.1%と最も高く、おおむね年代が上がるにつれて低くなっている。「市民活動を行いたい人と受け入れる人を結びつける人(コーディネーターや団体)が少ない」は30歳代(29.1%)と50歳代(28.7%)が約3割と高くなっている。「市民活動のための休暇・休職制度が少ない」は20～40歳代が2割を超えて高くなっている。

【図表56：市民活動に期待することの有無別／市民活動団体が活動するときの妨げになること】上位8項目

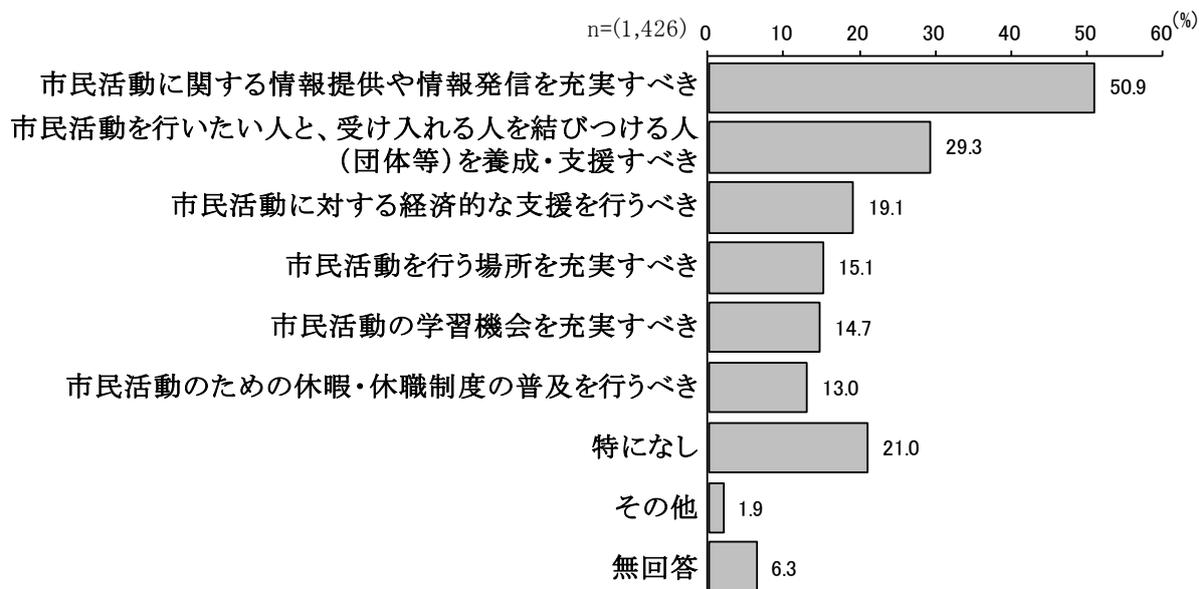


「市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない」を市民活動に期待することの有無別にみると、「はい」55.5%、「いいえ」38.4%で「はい」の方が「いいえ」よりも17.1ポイント高くなっている。「市民活動を行いたい人と受け入れる人を結びつける人(コーディネーターや団体)が少ない」は「はい」35.2%、「いいえ」16.7%で「はい」の方が「いいえ」よりも18.5ポイント高くなっている。

(9) 市民活動について市に望むこと

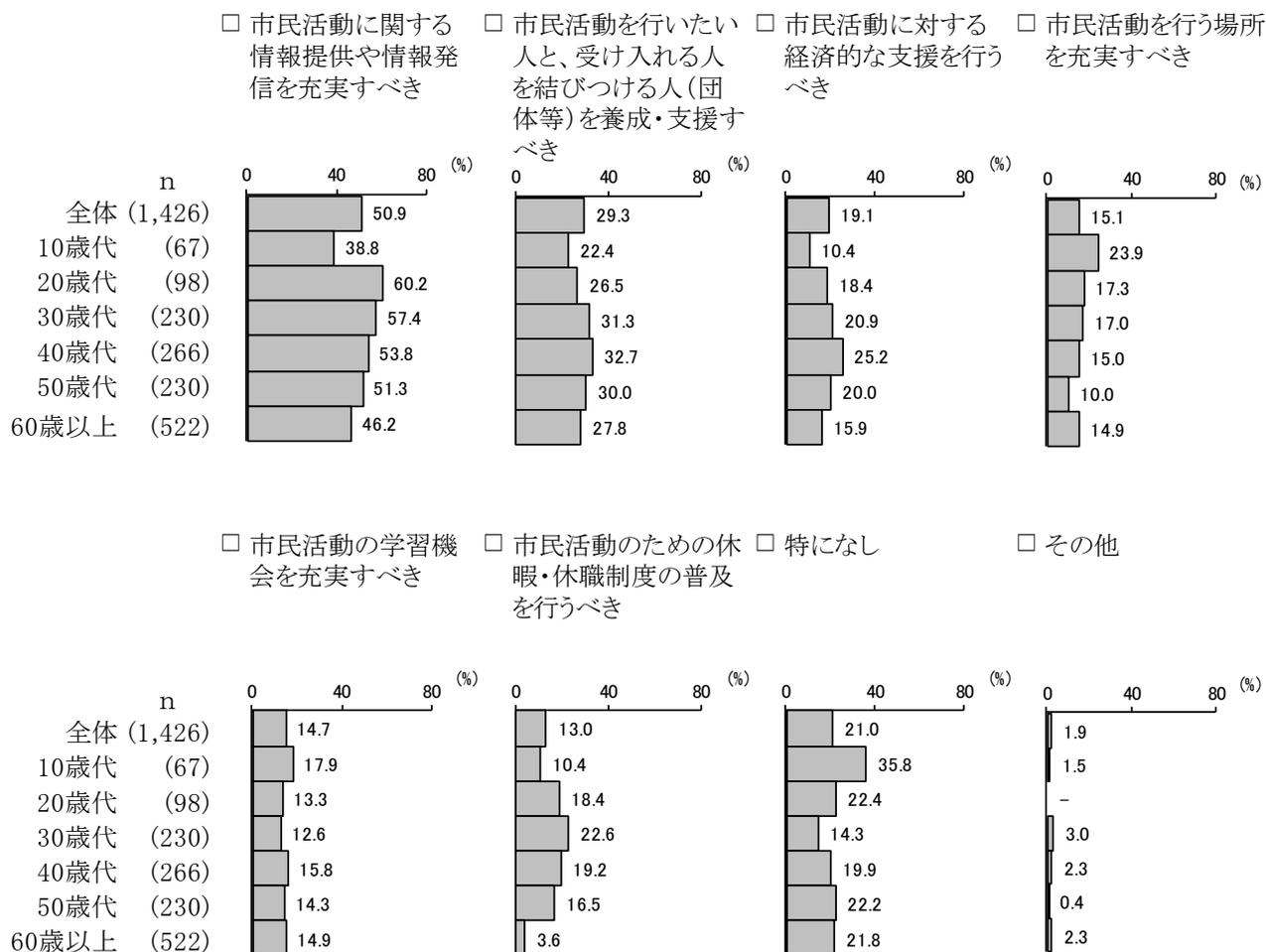
問3-9 市民活動について、市にどのようなことを望みますか。  
 (あてはまるものすべてに○)

【図表57：市民活動について市に望むこと】



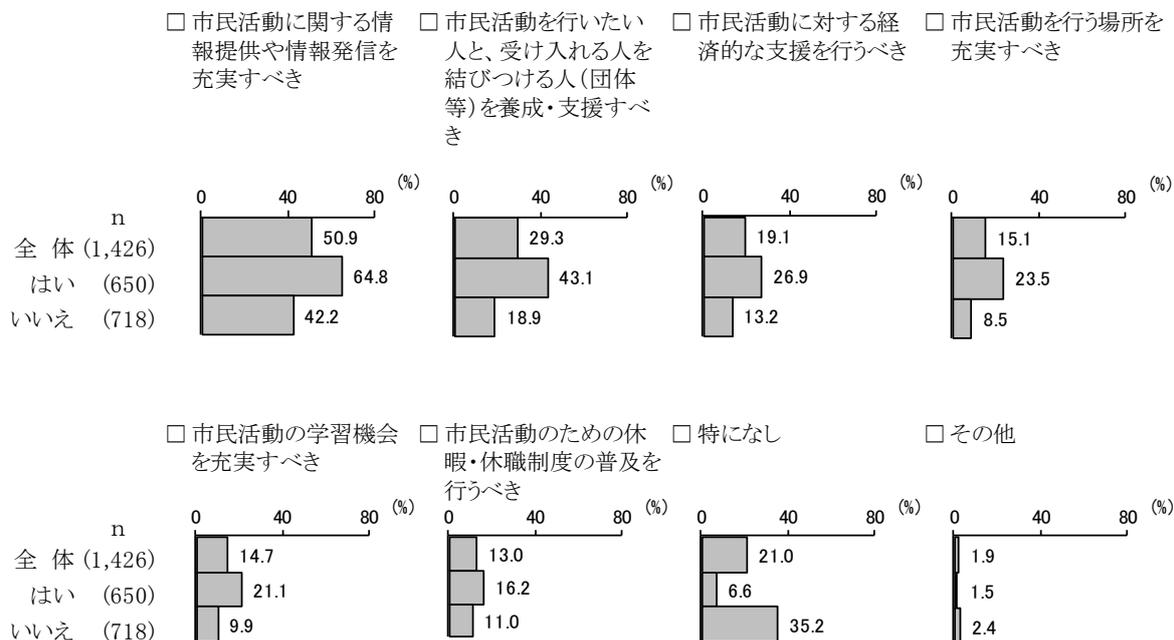
市民活動について市に望むことについては、「市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が50.9%と最も高く、次いで、「市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」(29.3%)、「市民活動に対する経済的な支援を行うべき」(19.1%)の順となっている。

【図表58：年齢別／市民活動について市に望むこと】上位8項目



「市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を年齢別で見ると、20歳代が60.2%と最も高く、おおむね年代が上がるにつれて低くなっている。「市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」は30～50歳代が30%を超えている。「市民活動に対する経済的な支援を行うべき」も同様の傾向がみられる。

【図表59：市民活動に期待することの有無別／市民活動について市に望むこと】上位8項目



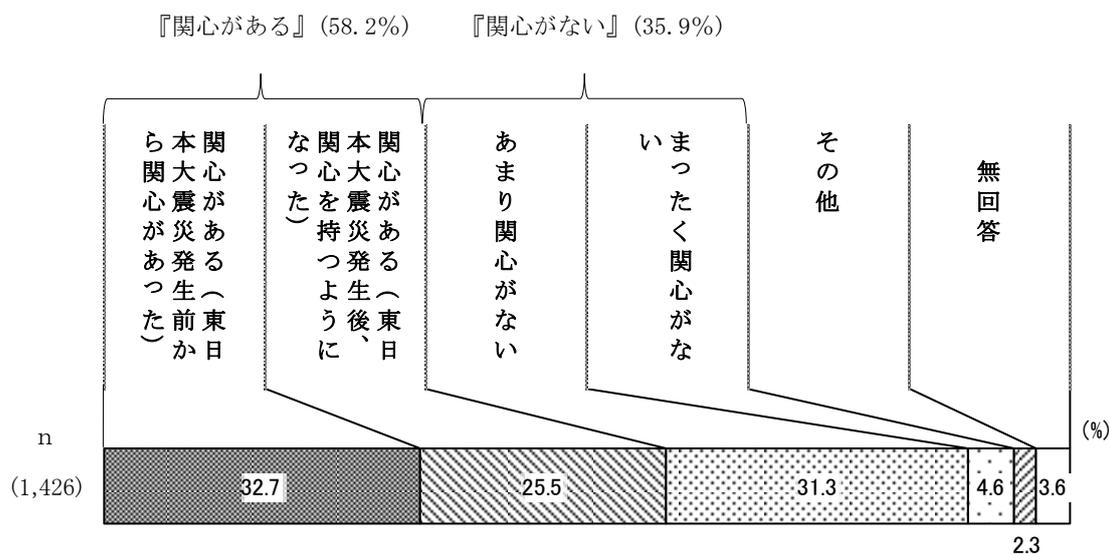
「市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を市民活動に期待することの有無別にみると、「はい」64.8%、「いいえ」42.2%で「はい」の方が「いいえ」よりも22.6ポイント高くなっている。「市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」は「はい」43.1%、「いいえ」18.9%で「はい」の方が「いいえ」よりも24.2ポイント高くなっている。

## 4. ボランティア活動について

### (1) ボランティア活動への関心の有無

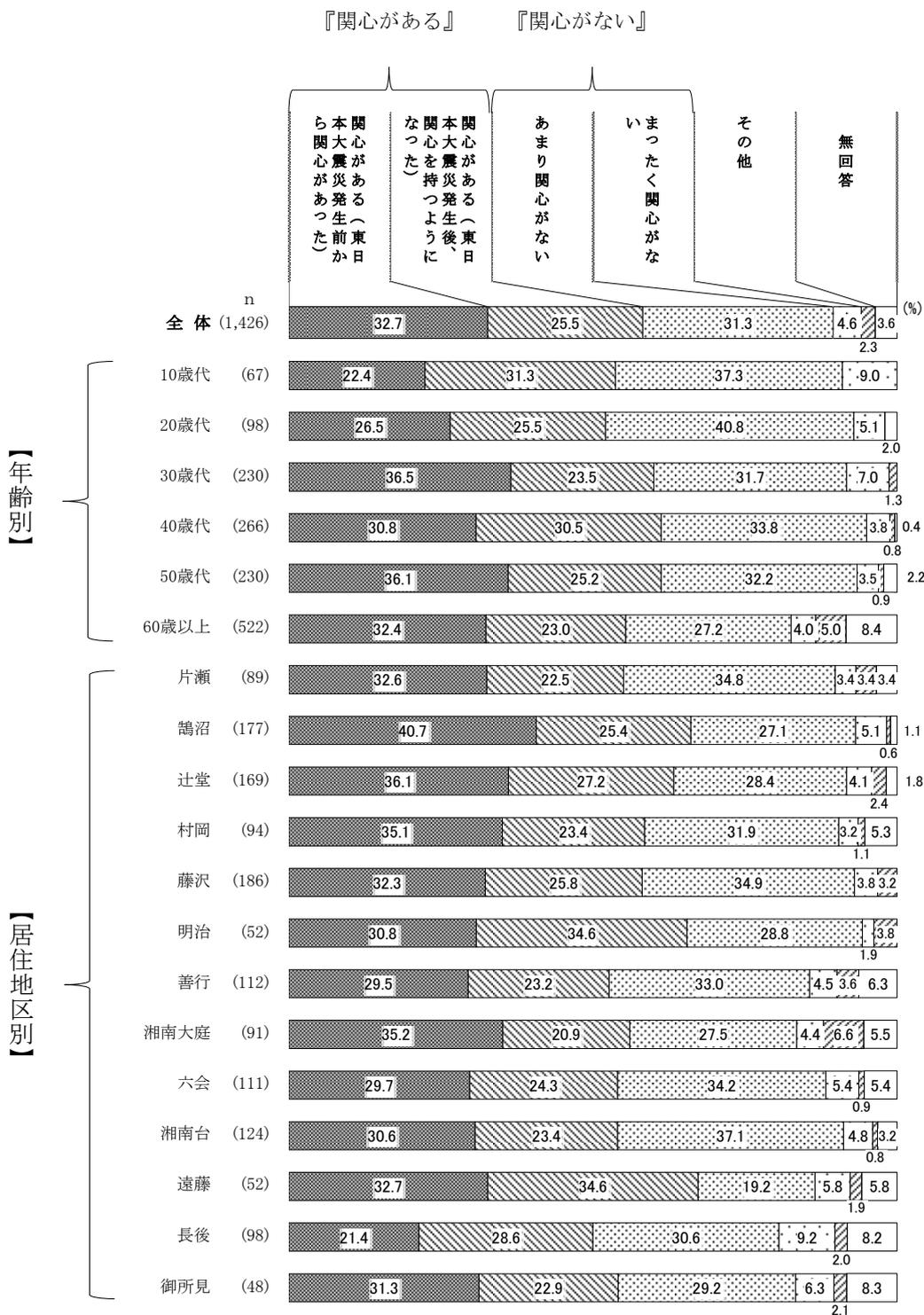
問4-1 あなたはボランティア活動に関心がありますか。(一つに〇)

【図表60：ボランティア活動への関心の有無】



ボランティア活動への関心の有無については、「関心がある(東日本大震災発生前から関心があった)」が32.7%と最も高く、「関心がある(東日本大震災発生後、関心を持つようになった)」(25.5%)を合わせた『関心がある』は58.2%となっている。

【図表61：年齢別／ボランティア活動への関心の有無】



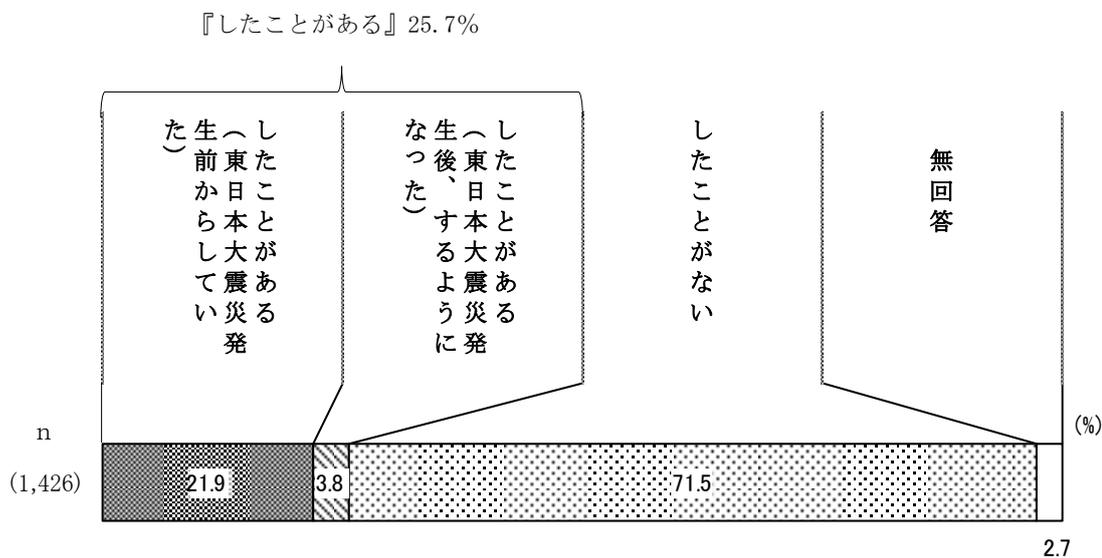
『関心がある』を年齢別で見ると、30歳代（60.0%）、40歳代（61.3%）、50歳代（61.3%）が6割を超えて高くなっている。

『関心がある』を居住地区別で見ると、鵜沼（66.1%）、辻堂（63.3%）、明治（65.4%）、遠藤（67.3%）が6割台半ばと高くなっている。

(2) ボランティア活動の経験

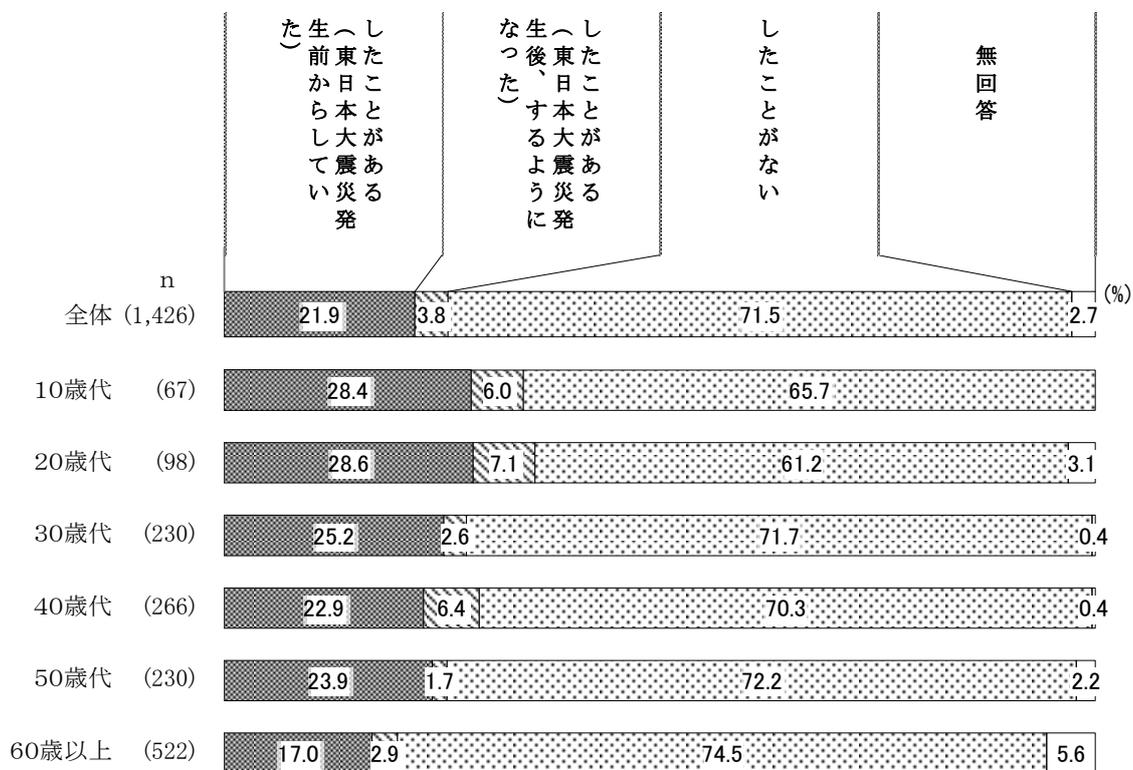
問4-2 あなたは、ボランティア活動をしたことがありますか。(一つに○)

【図表62：ボランティア活動の経験】



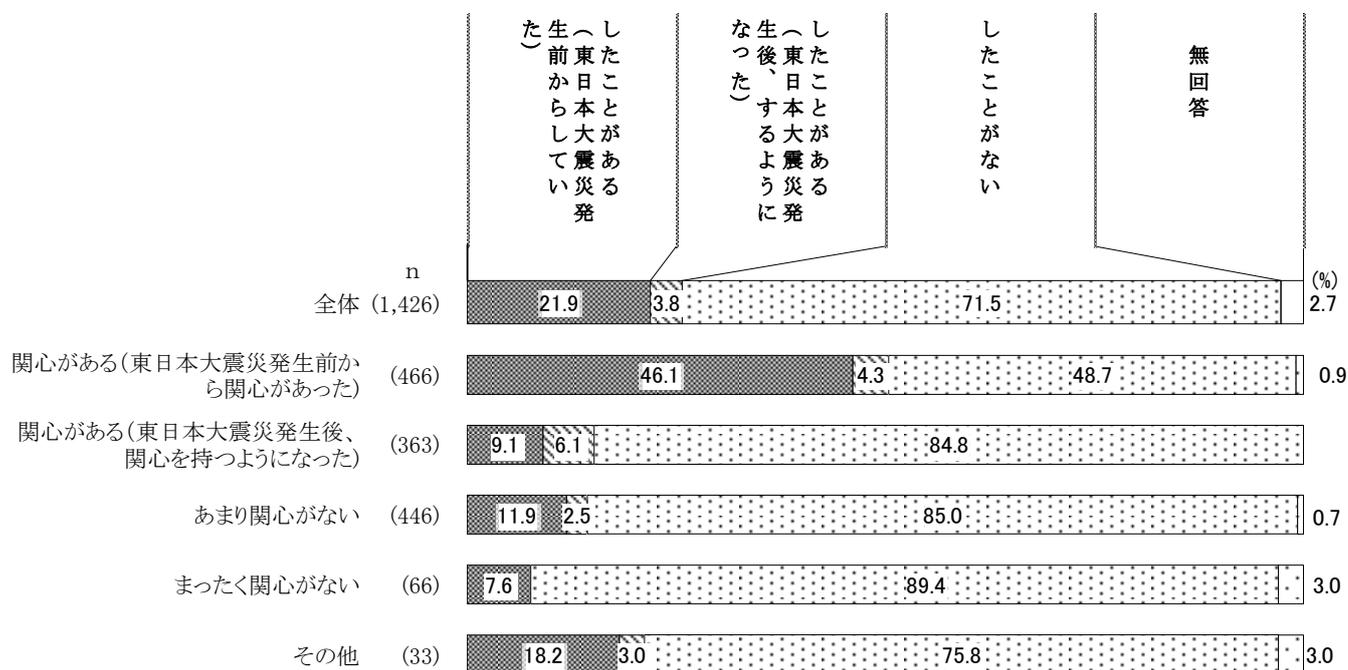
ボランティア活動の経験については、「したことがない」が71.5%と最も高く、次いで、「したことがある(東日本大震災発生前からしていた)」(21.9%)、「したことがある(東日本大震災発生後、するようになった)」(3.8%)の順となっている。

【図表63：年齢別／ボランティア活動の経験】



「したことがある(東日本大震災発生前からしていた)」と「したことがある(東日本大震災発生後、するようになった)」を合わせた『したことがある』を年齢別で見ると、10歳代(34.4%)と20歳代(35.7%)が高くなっている。

【図表64：ボランティア活動への関心の有無別／ボランティア活動の経験】



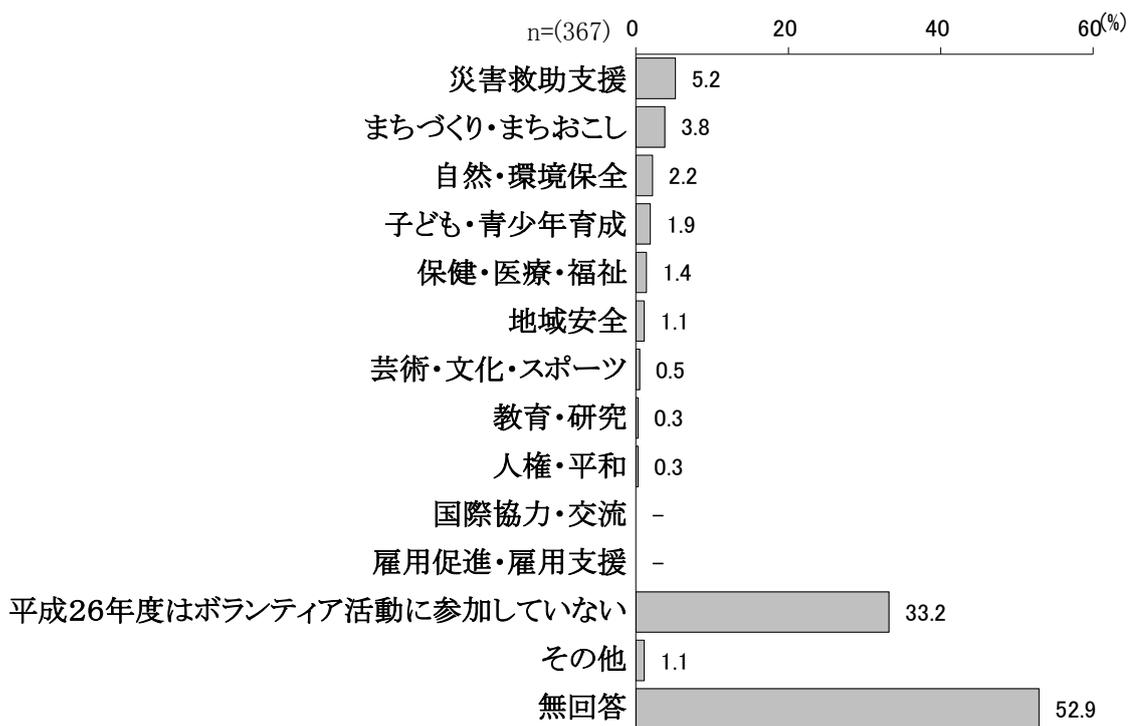
『したことがある』をボランティア活動への関心の有無別で見ると、「関心がある（東日本大震災発生前から関心があった）」が50.4%と最も高くなっている。次いで「関心がある（東日本大震災発生後、関心を持つようになった）」（15.2%）と「あまり関心がない」（14.4%）が1割台半ばとなっている。

(3) 平成26年度中に参加したことがあるボランティア活動

【問4-2で「1~2. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】

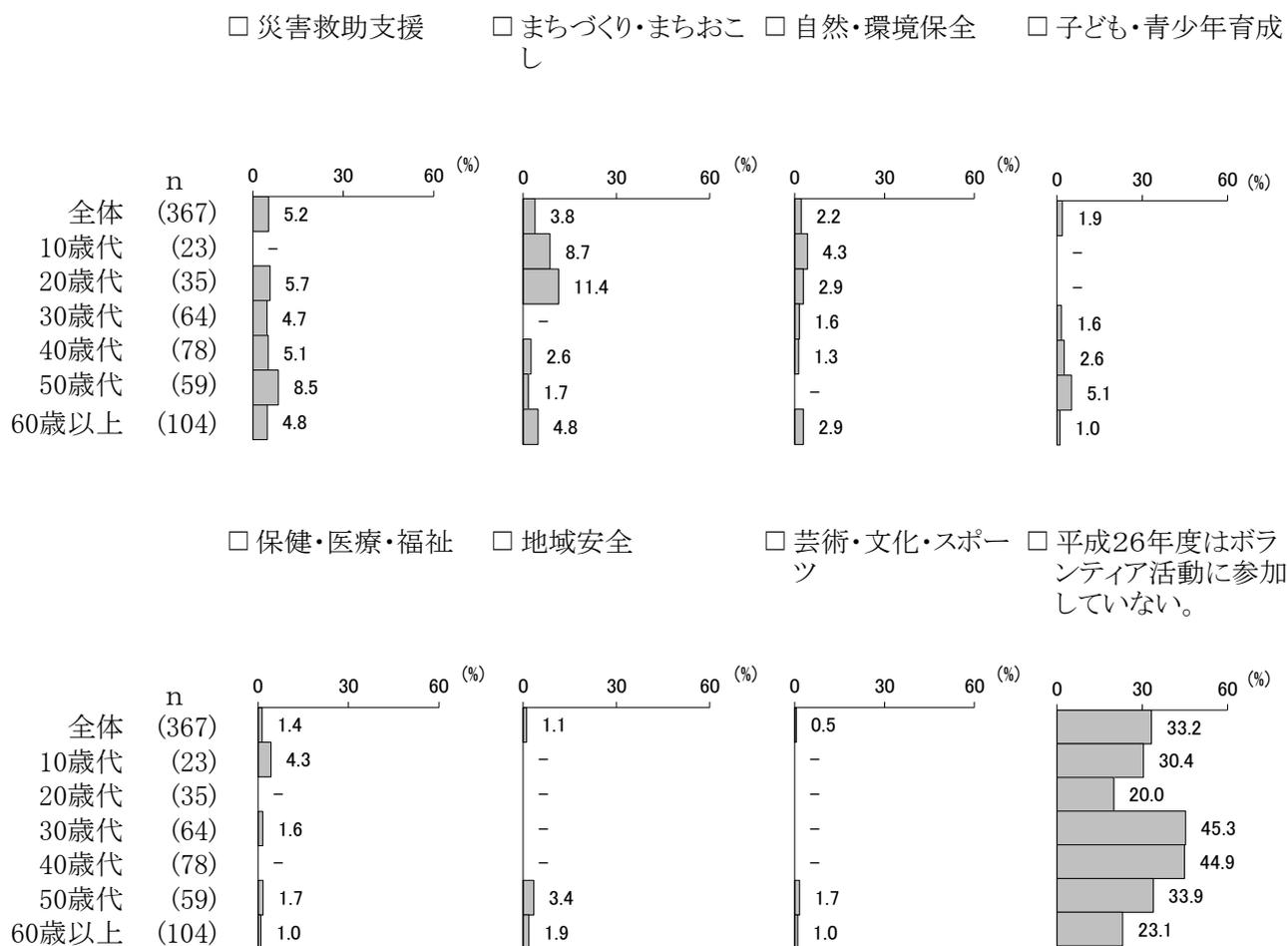
問4-3 あなたは平成26年度（平成26年4月～平成27年3月）にどのような分野のボランティア活動に参加したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

【図表65：平成26年度中に参加したことがあるボランティア活動 ①震災関連】



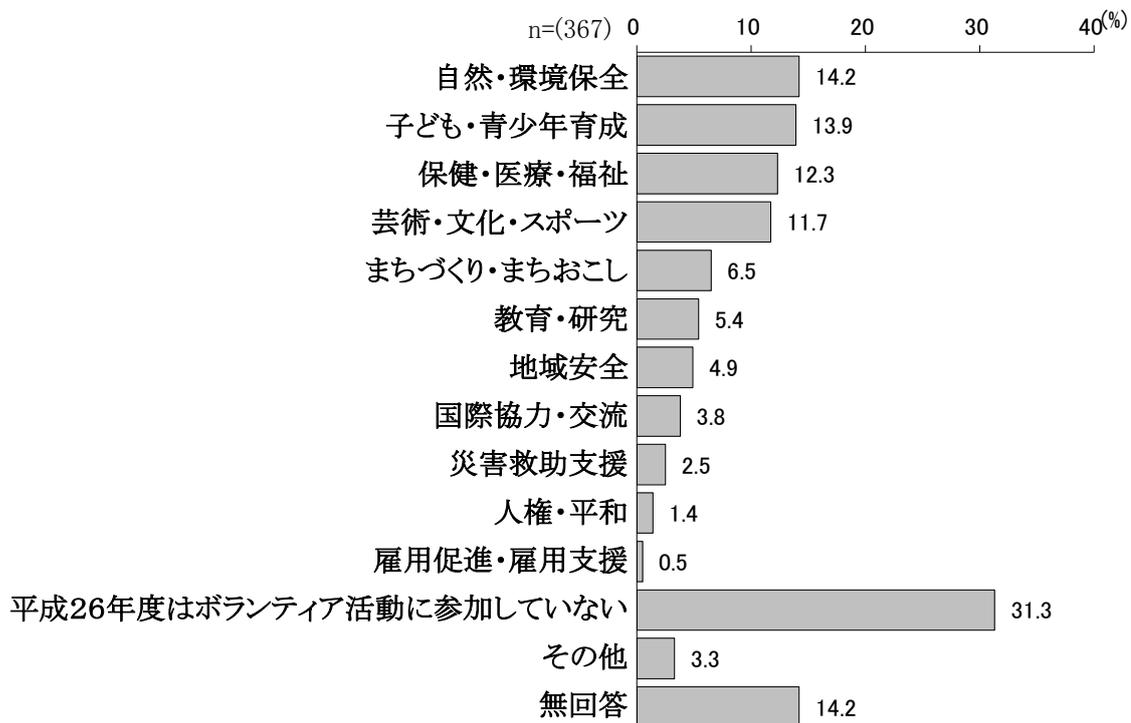
平成26年度中に参加したことがある震災関連のボランティア活動については、「災害救助支援」が5.2%と最も高く、次いで、「まちづくり・まちおこし」(3.8%)、「自然・環境保全」(2.2%)の順となっている。一方、「平成26年度はボランティア活動に参加していない」は33.2%となっている。

【図表66：年齢別／平成26年度中に参加したことがあるボランティア活動 ①震災関連】上位8項目



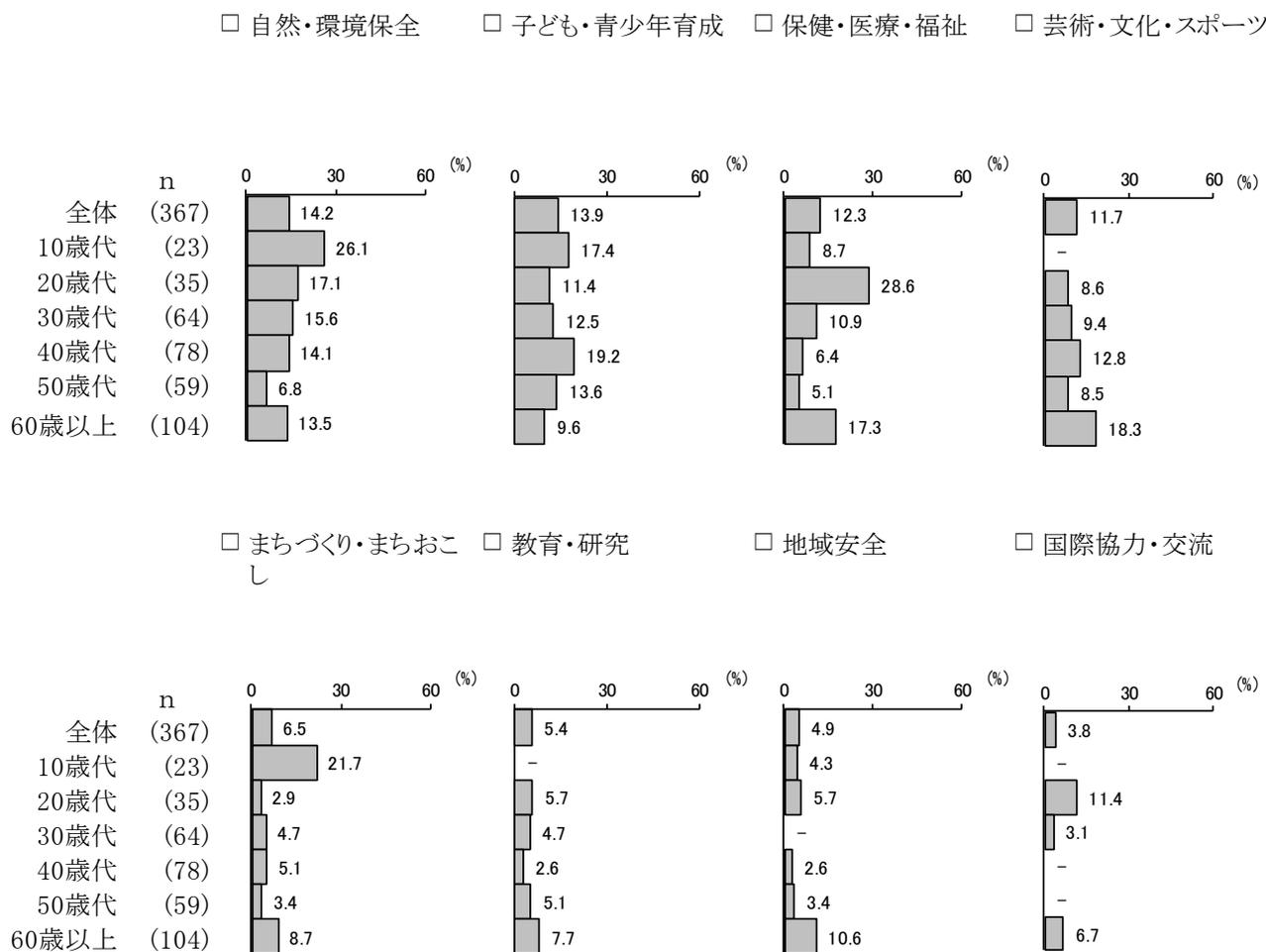
「災害救助支援」を年齢別で見ると、50歳代が8.5%と最も高くなっている。「まちづくり・まちおこし」は20歳代が11.4%と最も高くなっている。一方、「平成26年度はボランティア活動に参加していない」は30歳代（45.3%）、40歳代（44.9%）が4割台半ばと高くなっている。

【図表67：平成26年度中に参加したことがあるボランティア活動 ②震災関連を除く】



平成26年度中に参加したことがある震災関連以外のボランティア活動については、「自然・環境保全」が14.2%と最も高く、次いで、「子ども・青少年育成」(13.9%)、「保健・医療・福祉」(12.3%)の順となっている。一方、「平成26年度はボランティア活動に参加していない」は31.3%となっている。

【図表68：年齢別／平成26年度中に参加したことがあるボランティア活動 ②震災関連を除く】上位8項目

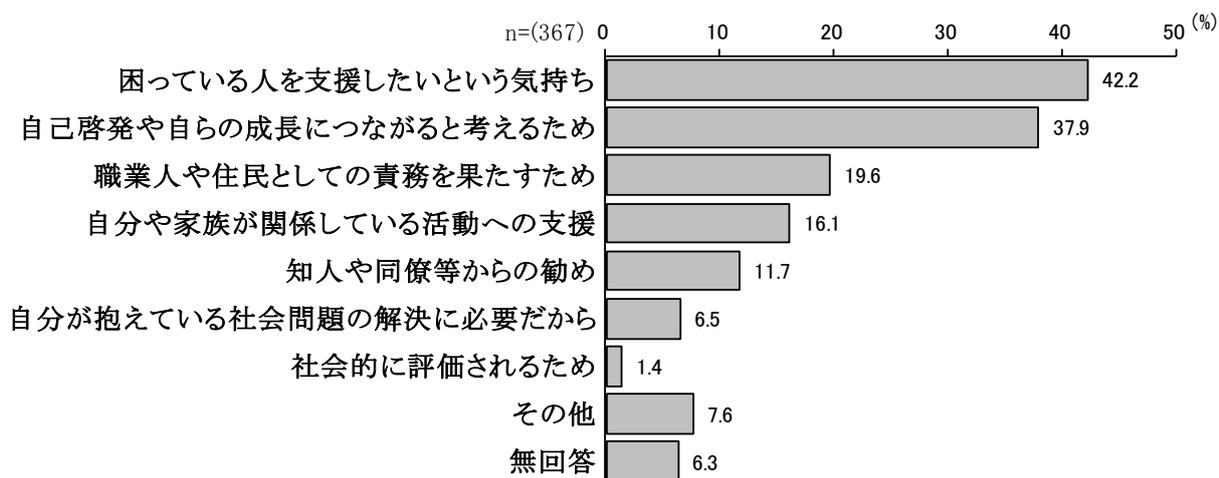


「自然・環境保全」を年齢別で見ると、50歳代を除いたすべての年代で1割台半ばとなっており、あまり大きな差はみられない。「子ども・青少年育成」は40歳代（19.2%）が2割弱と高くなっている。「保健・医療・福祉」は20歳代が28.6%と最も高くなっている。

(4) ボランティア活動に参加する理由

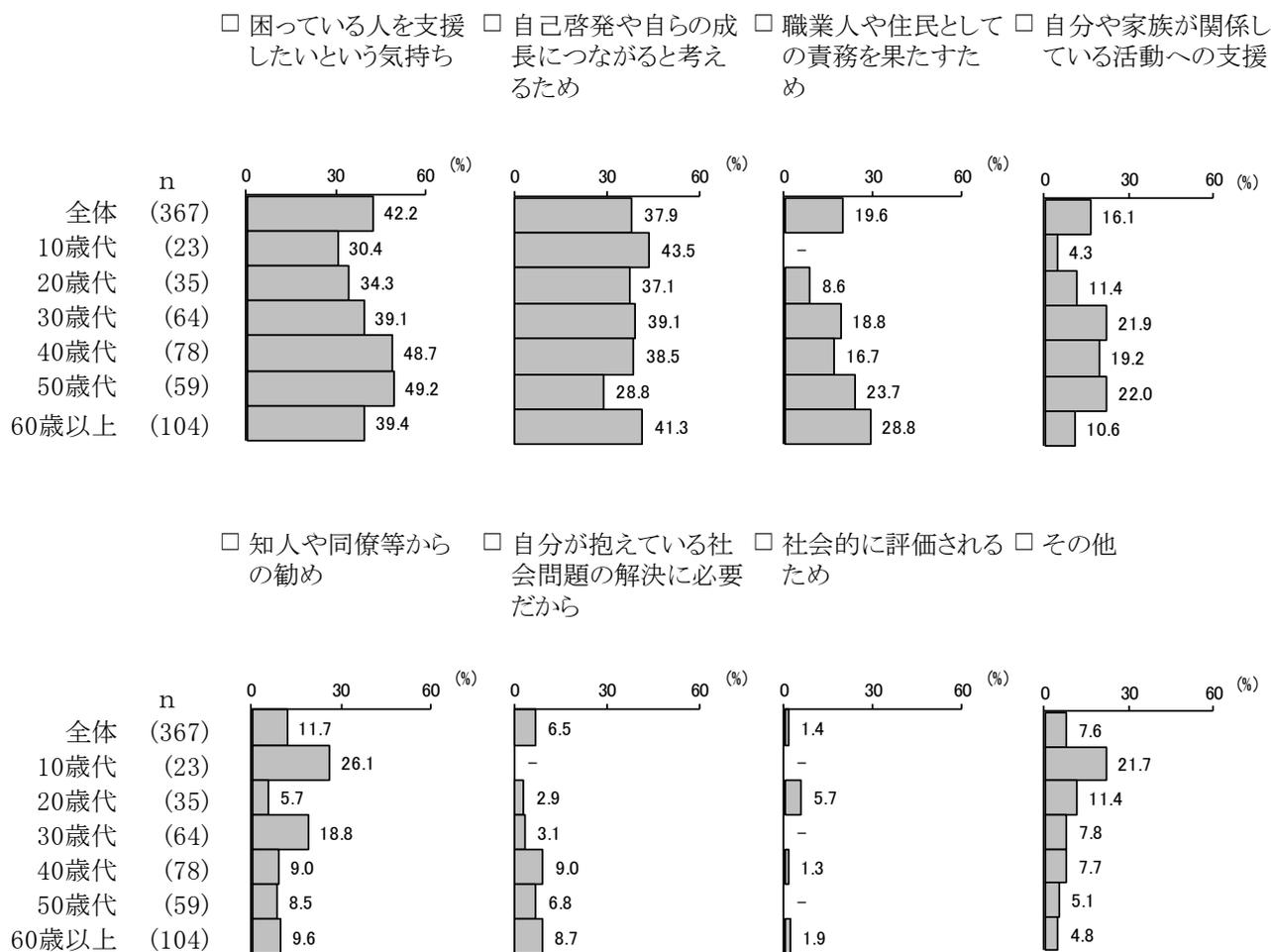
【問4-2で「1~2. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】  
 問4-4 あなたにとって、ボランティア活動に参加する理由は何ですか。  
 (あてはまるものすべてに○)

【図表69：ボランティア活動に参加する理由】



ボランティア活動に参加する理由については、「困っている人を支援したいという気持ち」が42.2%と最も高く、次いで、「自己啓発や自らの成長につながるため」(37.9%)、「職業人や住民としての責務を果たすため」(19.6%)の順となっている。

【図表70：年齢別／ボランティア活動に参加する理由】上位8項目

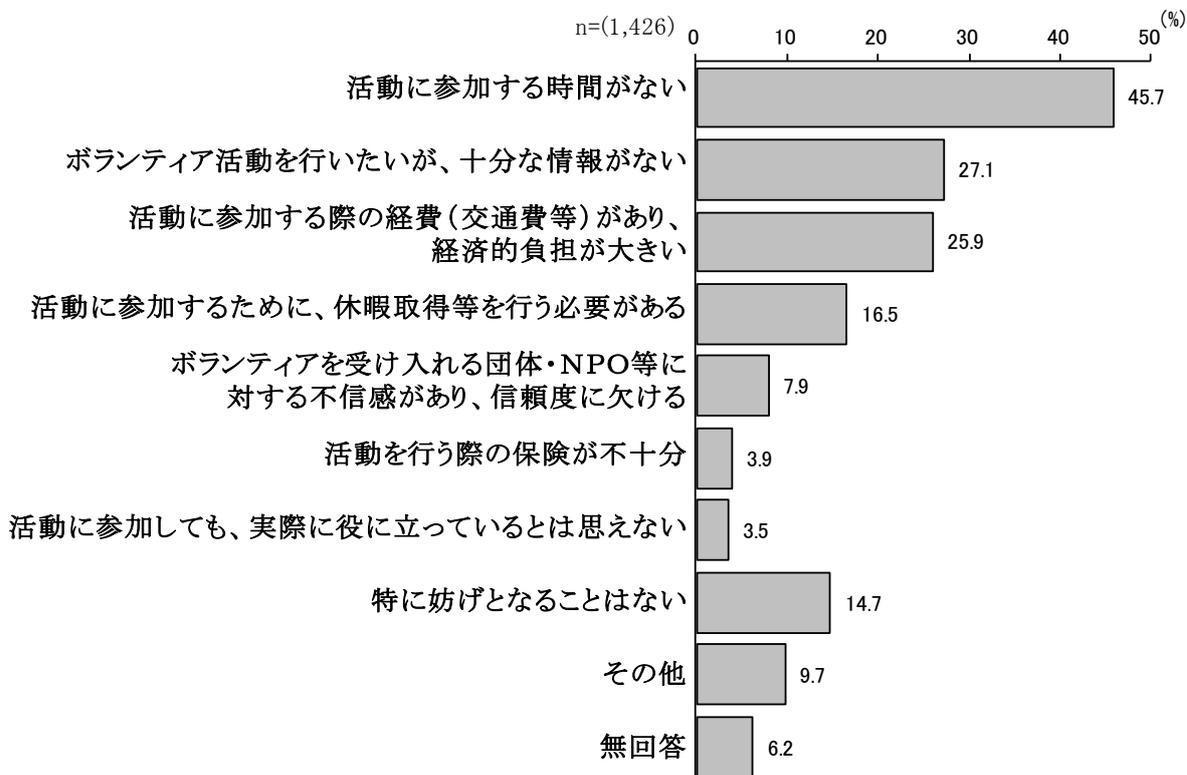


「困っている人を支援したいという気持ち」を年齢別で見ると、おおむね年代が上がるにつれて高くなっており、40歳代（48.7%）と50歳代（49.2%）が5割弱と高くなっている。「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」は60歳以上が41.3%と最も高くなっており、次いで30歳代（39.1%）、40歳代（38.5%）、20歳代（37.1%）が4割弱となっている。「職業人や住民としての責務を果たすため」も同様の傾向がみられ、60歳以上が28.8%と最も高くなっている。

(5) ボランティア活動に参加することに妨げとなること

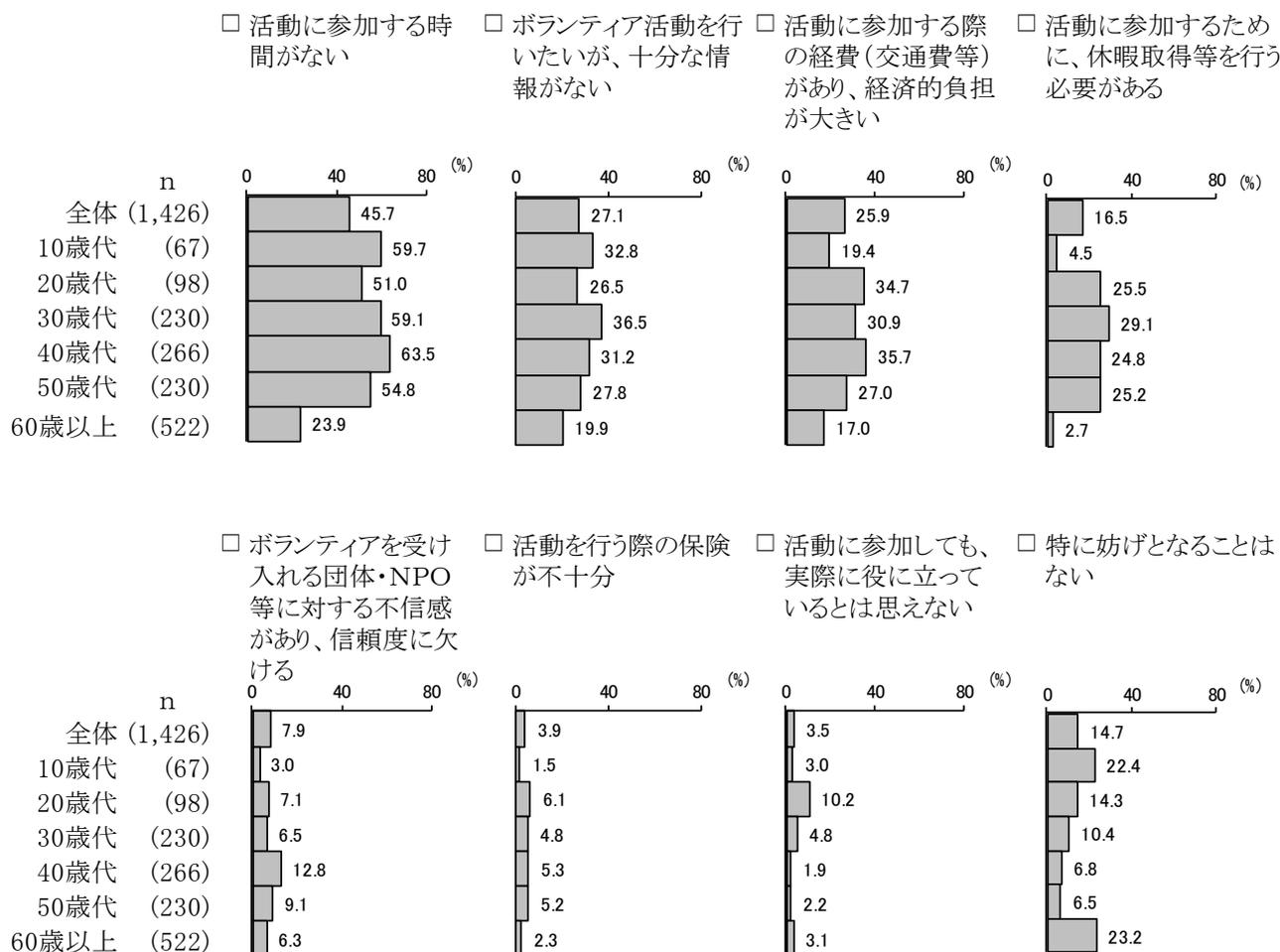
問4-5 ボランティア活動に参加することに妨げとなることはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

【図表71：ボランティア活動に参加することに妨げとなること】



ボランティア活動に参加することに妨げとなることについては、「活動に参加する時間がない」が45.7%と最も高く、次いで、「ボランティア活動を行いたい、十分な情報がない」(27.1%)、「活動に参加する際の経費(交通費等)があり、経済的負担が大きい」(25.9%)の順となっている。

【図表72：年齢別／ボランティア活動に参加することに妨げとなること】上位8項目

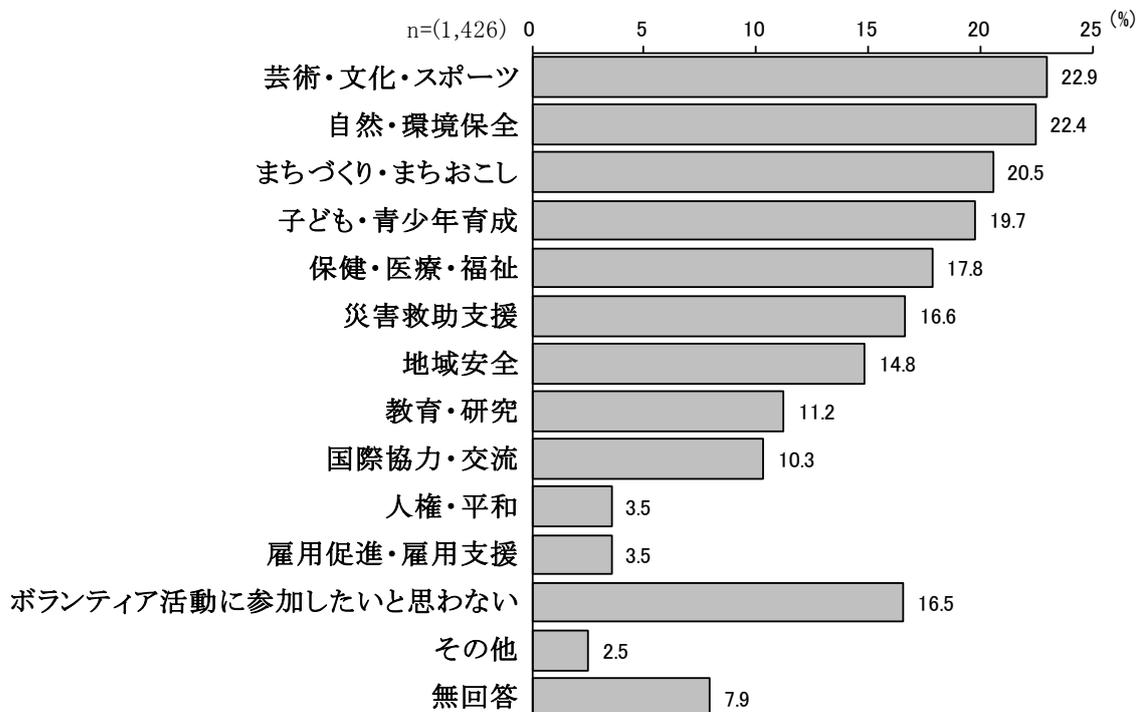


「活動に参加する時間がない」を年齢別で見ると、40歳代が63.5%と最も高くなっており、次いで、10歳代(59.7%)と30歳代(59.1%)が6割弱、50歳代(54.8%)と20歳代(51.0%)が5割を超えて高くなっている。「ボランティア活動を行いたい、十分な情報がない」は30歳代が36.5%と最も高くなっている。「活動に参加する際の経費(交通費等)があり、経済的負担が大きい」は20歳代(34.7%)と40歳代(35.7%)が3割台半ばと高くなっている。

(6) 今後参加したいボランティア活動の分野

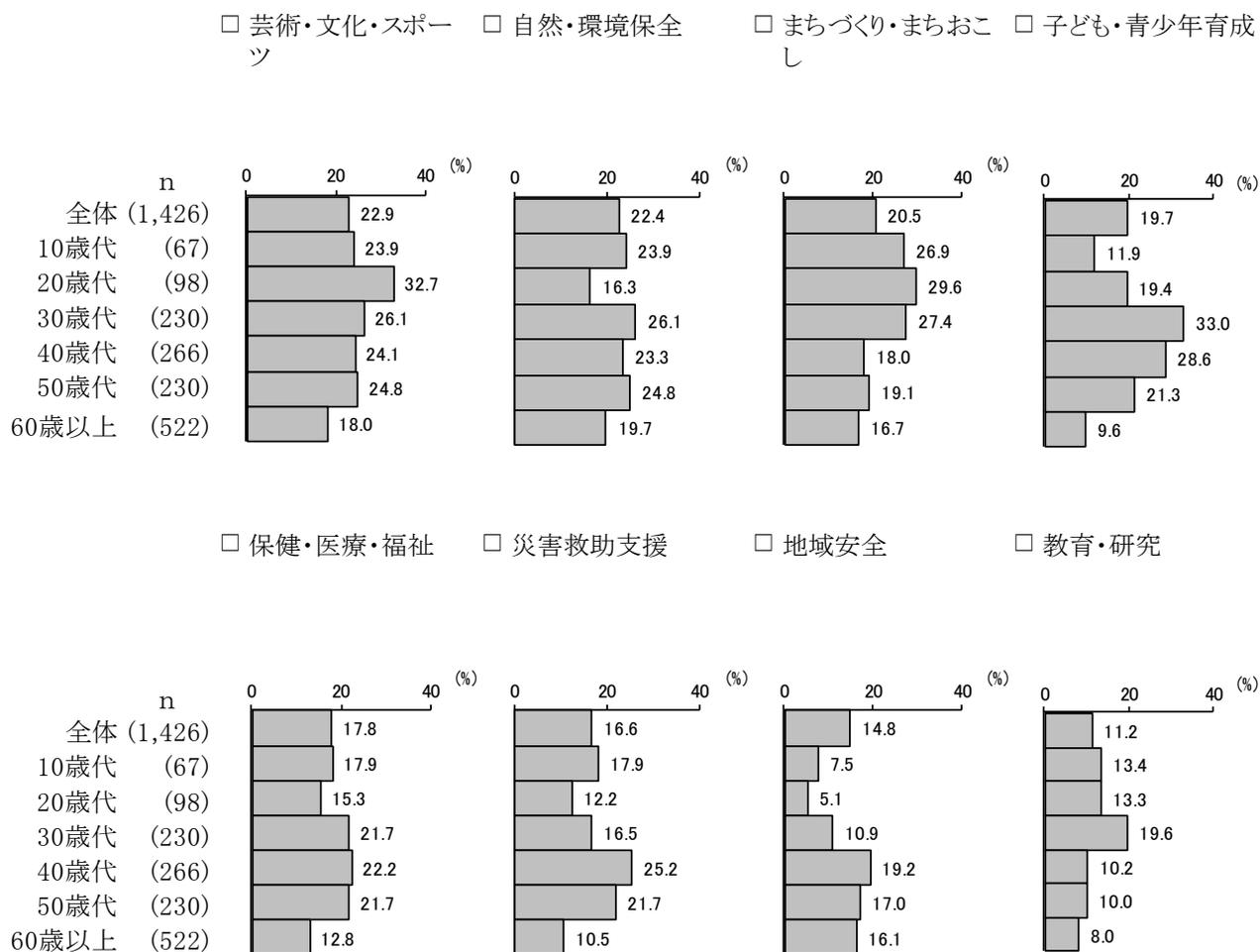
問4-6 あなたが今後参加したいボランティア活動の分野を選んでください。  
 (あてはまるものすべてに○)

【図表73：今後参加したいボランティア活動の分野】



今後参加したいボランティア活動の分野については、「芸術・文化・スポーツ」が22.9%と最も高く、次いで、「自然・環境保全」(22.4%)、「まちづくり・まちおこし」(20.5%)の順となっている。

【図表74：年齢別／今後参加したいボランティア活動の分野】上位8項目

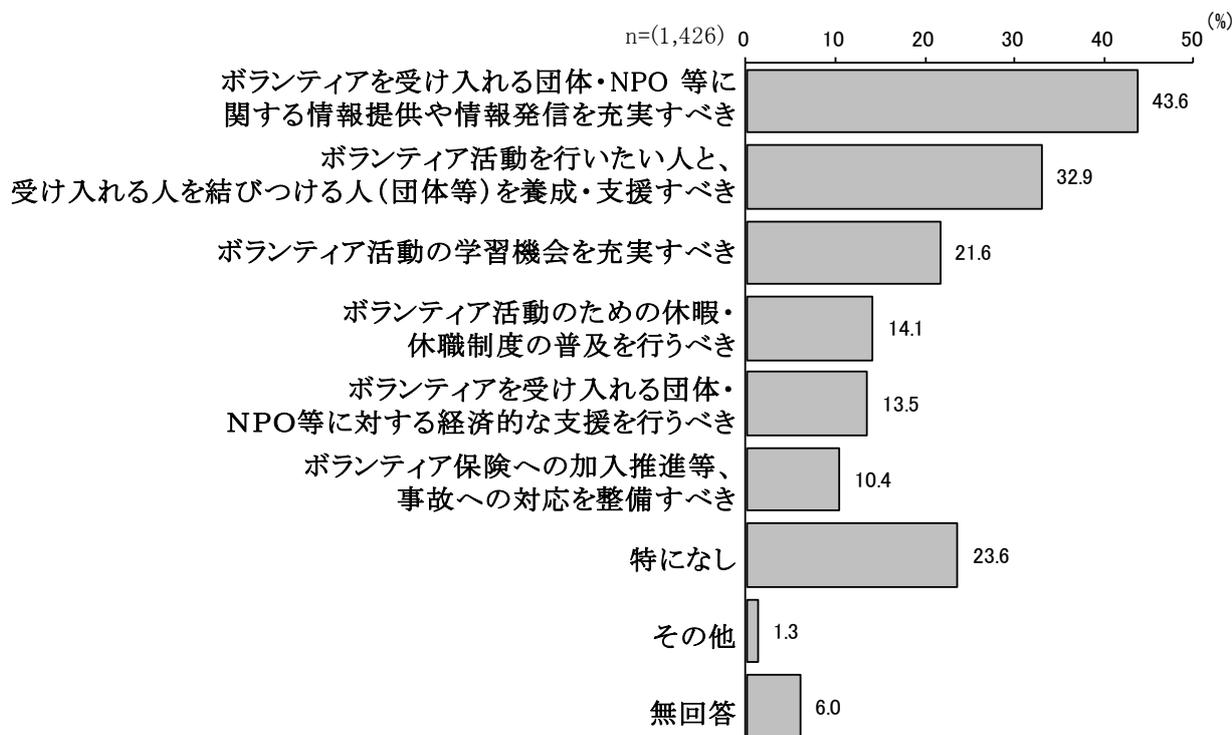


「芸術・文化・スポーツ」を年齢別でみると、20歳代が32.7%と最も高くなっている。「自然・環境保全」は10歳代、30歳代、40歳代、50歳代が20%を超えて高くなっている。「まちづくり・まちおこし」はおおむね年代が上がるにつれ低くなっており、20歳代が29.6%と最も高くなっている。

(7) ボランティア活動について市に望むこと

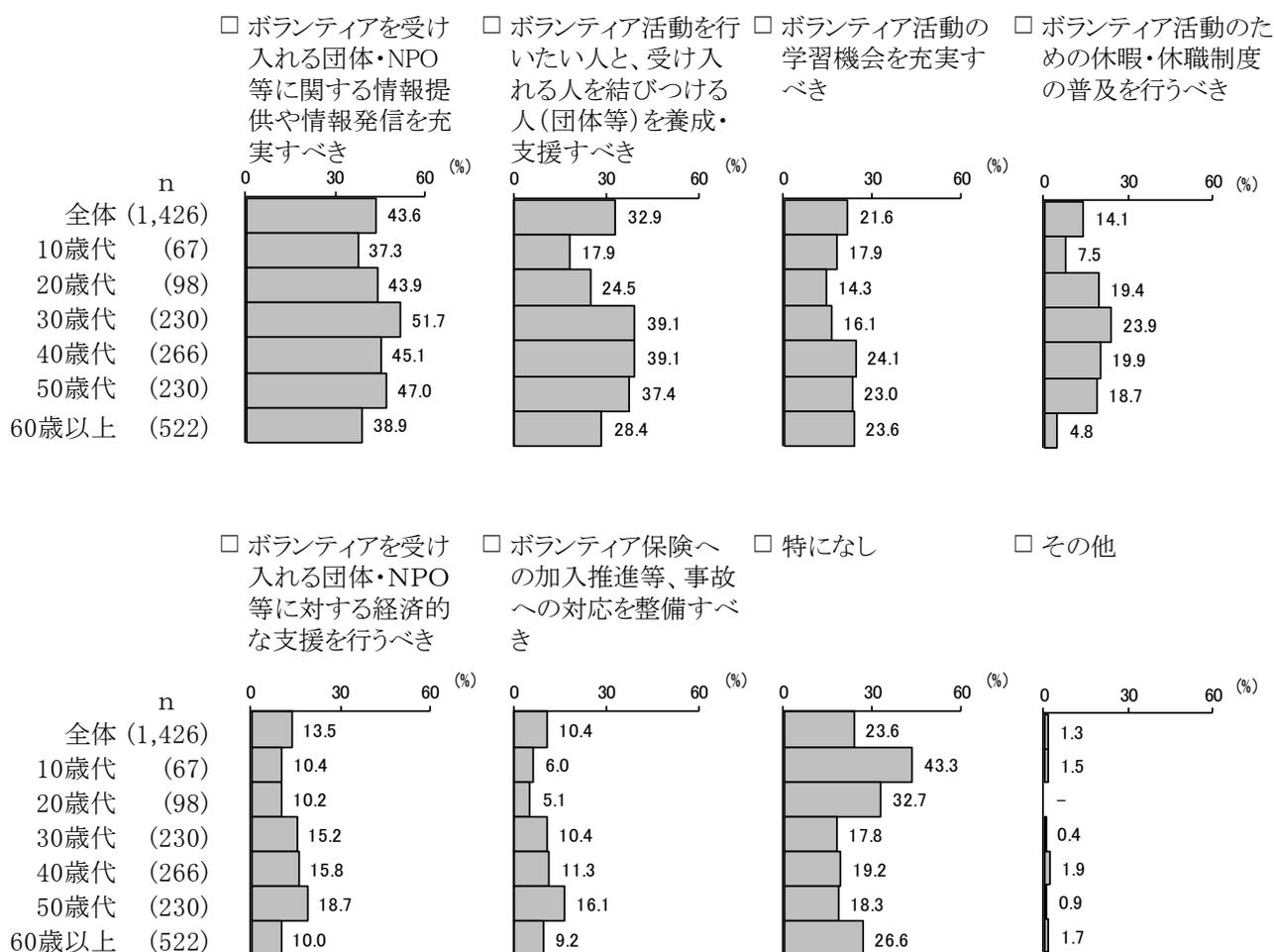
問4-7 ボランティア活動について、市にどのようなことを望みますか。  
(あてはまるものすべてに○)

【図表75：ボランティア活動について市に望むこと】



ボランティア活動について市に望むことについては、「ボランティアを受け入れる団体・NPO等に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が43.6%と最も高く、次いで、「ボランティア活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」(32.9%)、「ボランティア活動の学習機会を充実すべき」(21.6%)の順となっている。

【図表76：年齢別／ボランティア活動について市に望むこと】上位8項目



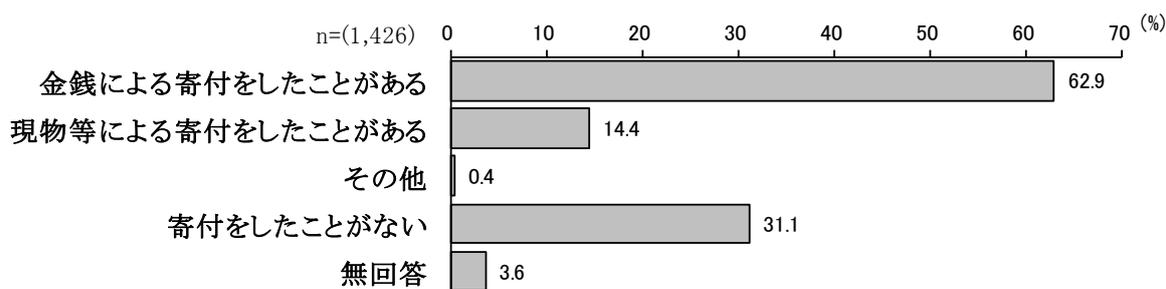
「ボランティアを受け入れる団体・NPO等に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を年齢別で見ると、30歳代が51.7%と最も高くなっており、次いで50歳代(47.0%)、40歳代(45.1%)、20歳代(43.9%)が4割を超えて高くなっている。「ボランティア活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」は30歳代と40歳代がともに39.1%と最も高くなっている。

## 5. 寄付について

### (1) 寄付経験の有無

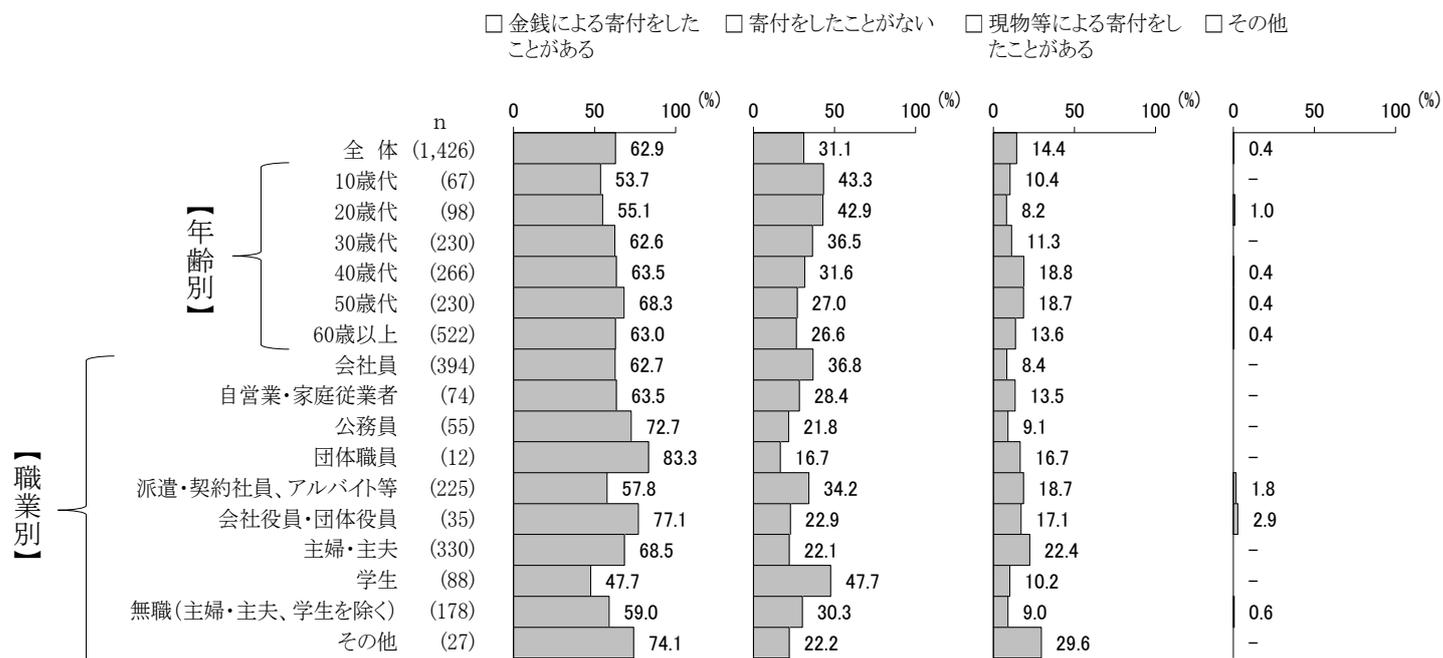
問5-1 あなたは寄付（募金、現物寄付等）をしたことがありますか。  
（あてはまるものすべてに○）

【図表77：寄付経験の有無】



寄付経験の有無については、「金銭による寄付をしたことがある」が62.9%と最も高く、次いで、「寄付をしたことがない」(31.1%)、「現物等による寄付をしたことがある」(14.4%)の順となっている。

【図表78：年齢別・職業別／寄付経験の有無】



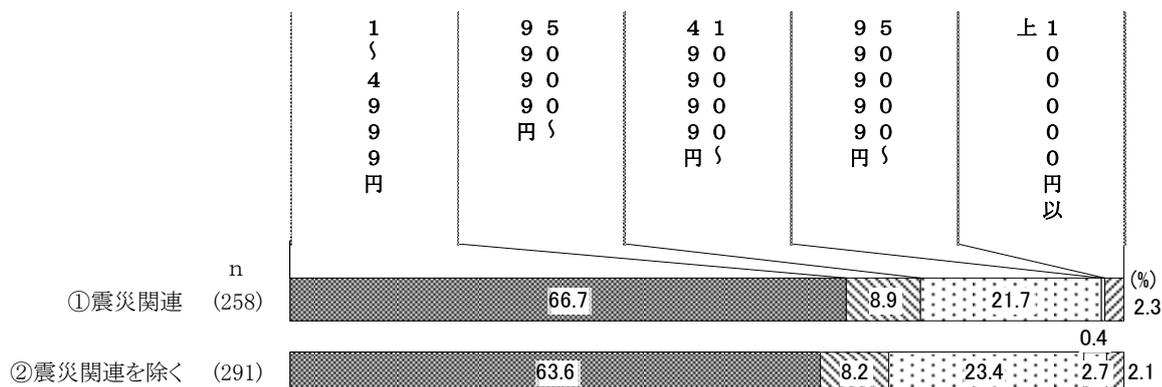
「金銭による寄付をしたことがある」を年齢別で見ると、おおむね年代が上がるにつれ高くなっており、50歳代で68.3%と最も高くなっている。一方、「寄付をしたことがない」は年代が上がるにつれ低くなっており、10歳代が43.3%と最も高くなっている。

「金銭による寄付をしたことがある」を職業別で見ると、「公務員」(72.7%)と「会社役員・団体役員」(77.1%)が7割を超えて高くなっている。「寄付をしたことがない」は「学生」が47.7%と最も高くなっている。

(2) 平成26年度に寄付した金額、回数、現物を寄付した回数

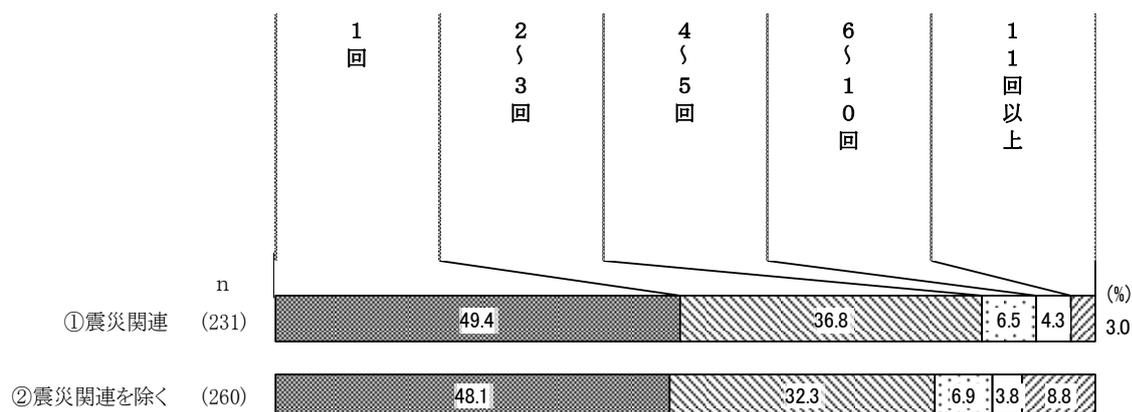
【問5-1で「1~3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】  
 問5-2 平成26年度（平成26年4月~平成27年3月）に寄付をした金額（金銭による寄付のみ）、金銭による寄付をした回数、現物等による寄付をした回数をご記入ください。

【図表79：あなたの年間寄付金額】



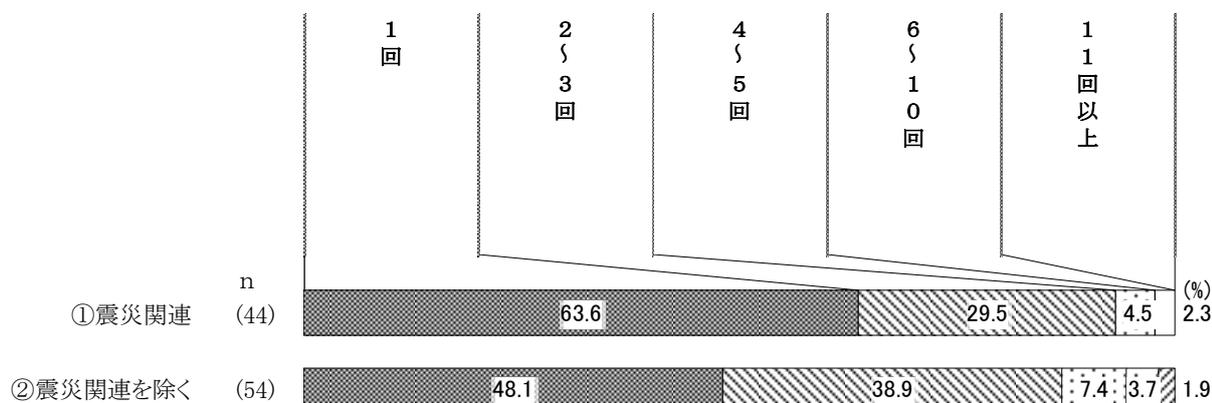
あなたの年間寄付金額については、震災関連において「1~4,999円」が66.7%と最も高く、次いで、「10,000~49,999円」(21.7%)、「5,000~9,999円」(8.9%)の順となっている。  
 一方、震災関連以外において「1~4,999円」が63.6%と最も高く、次いで、「10,000~49,999円」(23.4%)、「5,000~9,999円」(8.2%)の順となっている。

【図表80：あなたの年間金銭寄付回数】



年間金銭寄付回数については、震災関連において「1回」が49.4%と最も高く、次いで、「2~3回」(36.8%)、「4~5回」(6.5%)の順となっている。  
 一方、震災関連以外において「1回」が48.1%と最も高く、次いで、「2~3回」(32.3%)、「11回以上」(8.8%)の順となっている。

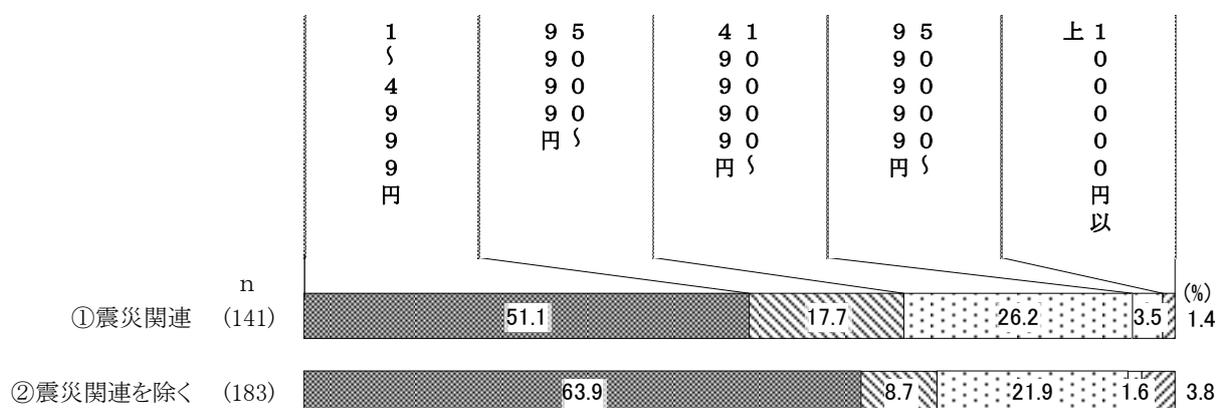
【図表81：あなたの年間現物等寄付回数】



年間現物等寄付回数については、震災関連において「1回」が63.6%と最も高く、次いで、「2～3回」(29.5%)、「4～5回」(4.5%)の順となっている。

一方、震災関連以外において「1回」が48.1%と最も高く、次いで、「2～3回」(38.9%)、「4～5回」(7.4%)の順となっている。

【図表82：世帯全体の年間寄付金額】



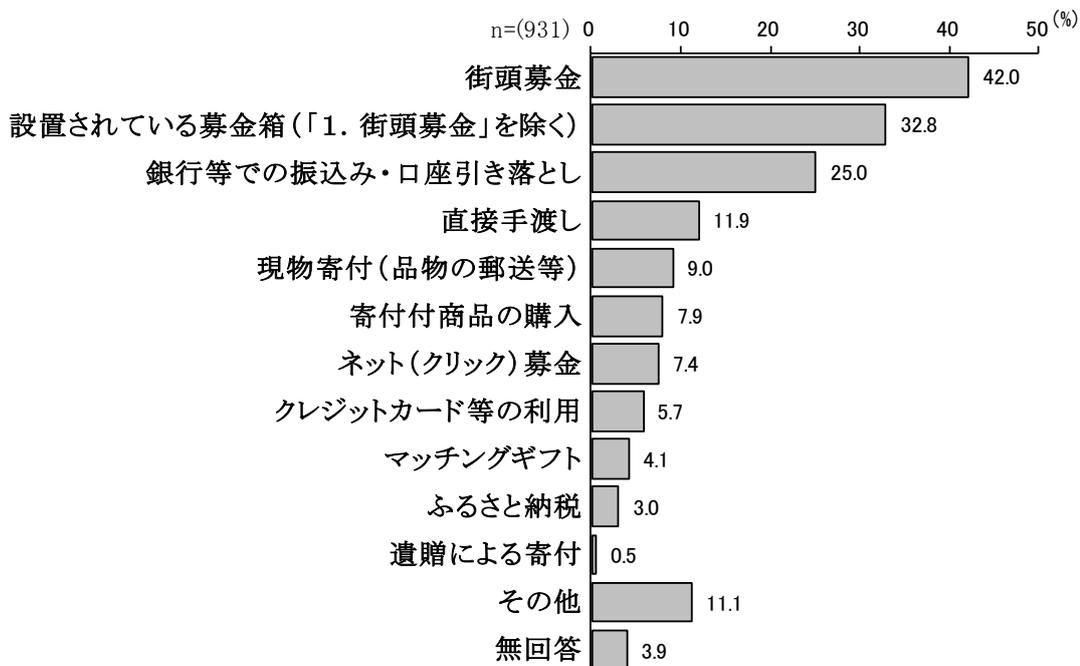
世帯全体の年間寄付金額については、震災関連において「1～4,999円」が51.1%と最も高く、次いで、「10,000～49,999円」(26.2%)、「5,000～9,999円」(17.7%)の順となっている。

一方、震災関連以外において「1～4,999円」が63.9%と最も高く、次いで、「10,000～49,999円」(21.9%)、「5,000～9,999円」(8.7%)の順となっている。

(3) 寄付を行った方法

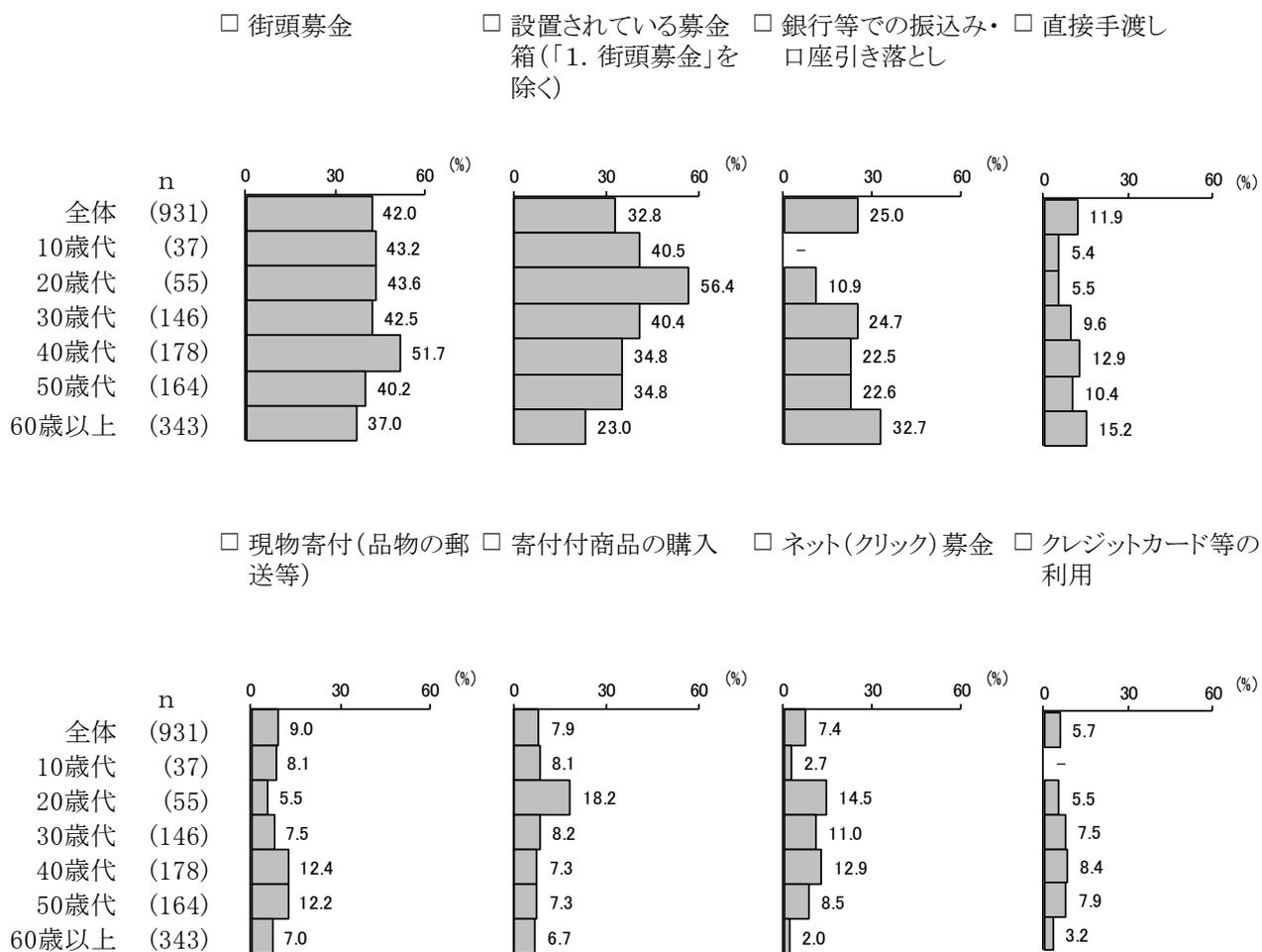
【問5-1で「1~3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】  
 問5-3 あなたが、寄付を行った方法は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【図表83：寄付を行った方法】



寄付を行った方法については、「街頭募金」が42.0%と最も高く、次いで、「設置されている募金箱(「1. 街頭募金」を除く)」(32.8%)、「銀行等での振込み・口座引き落とし」(25.0%)の順となっている。

【図表84：年齢別／寄付を行った方法】上位8項目



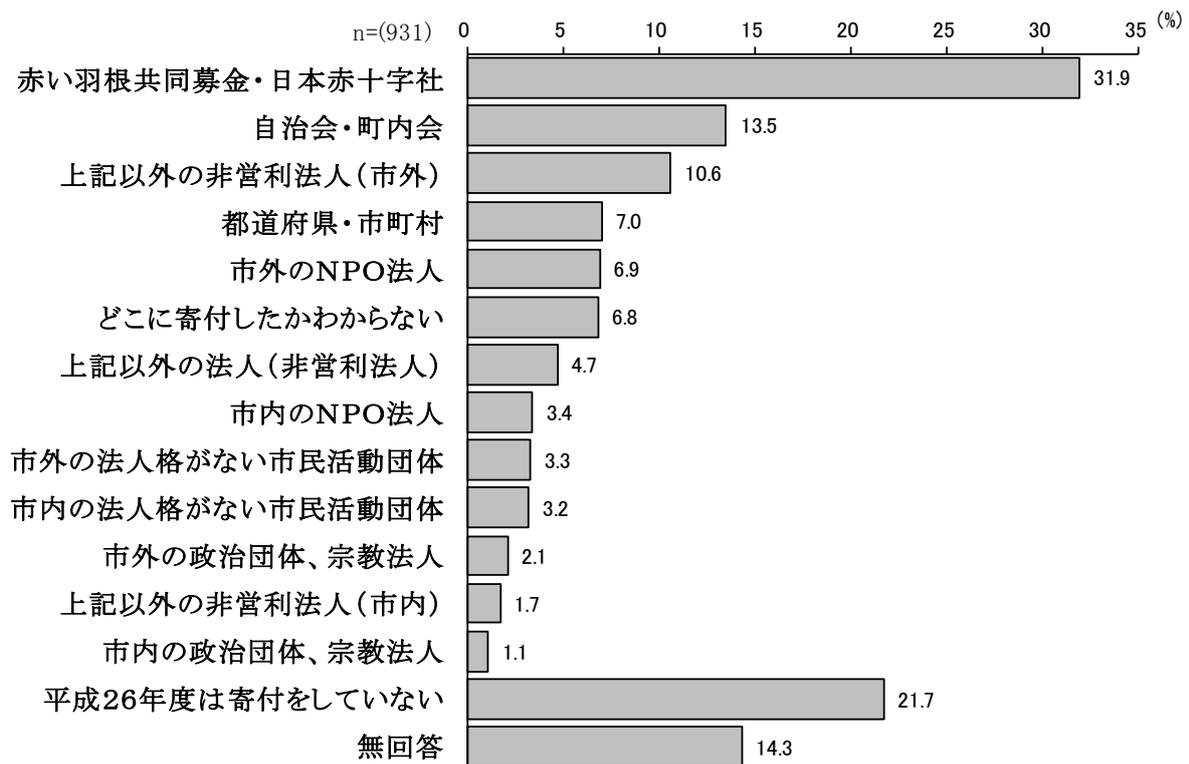
「街頭募金」を年齢別で見ると、40歳代が51.7%と最も高くなっており、そのほかにも60歳以上を除いたすべての年代が40%を超えて高くなっている。「設置されている募金箱(「1. 街頭募金」を除く)」は20歳代が56.4%と最も高くなっている。「銀行等での振込み・口座引き落とし」はおおむね年代が上がるにつれ高くなっており、60歳以上が32.7%で最も高い。

(4) 平成26年度に寄付をした団体

【問5-1で「1~3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

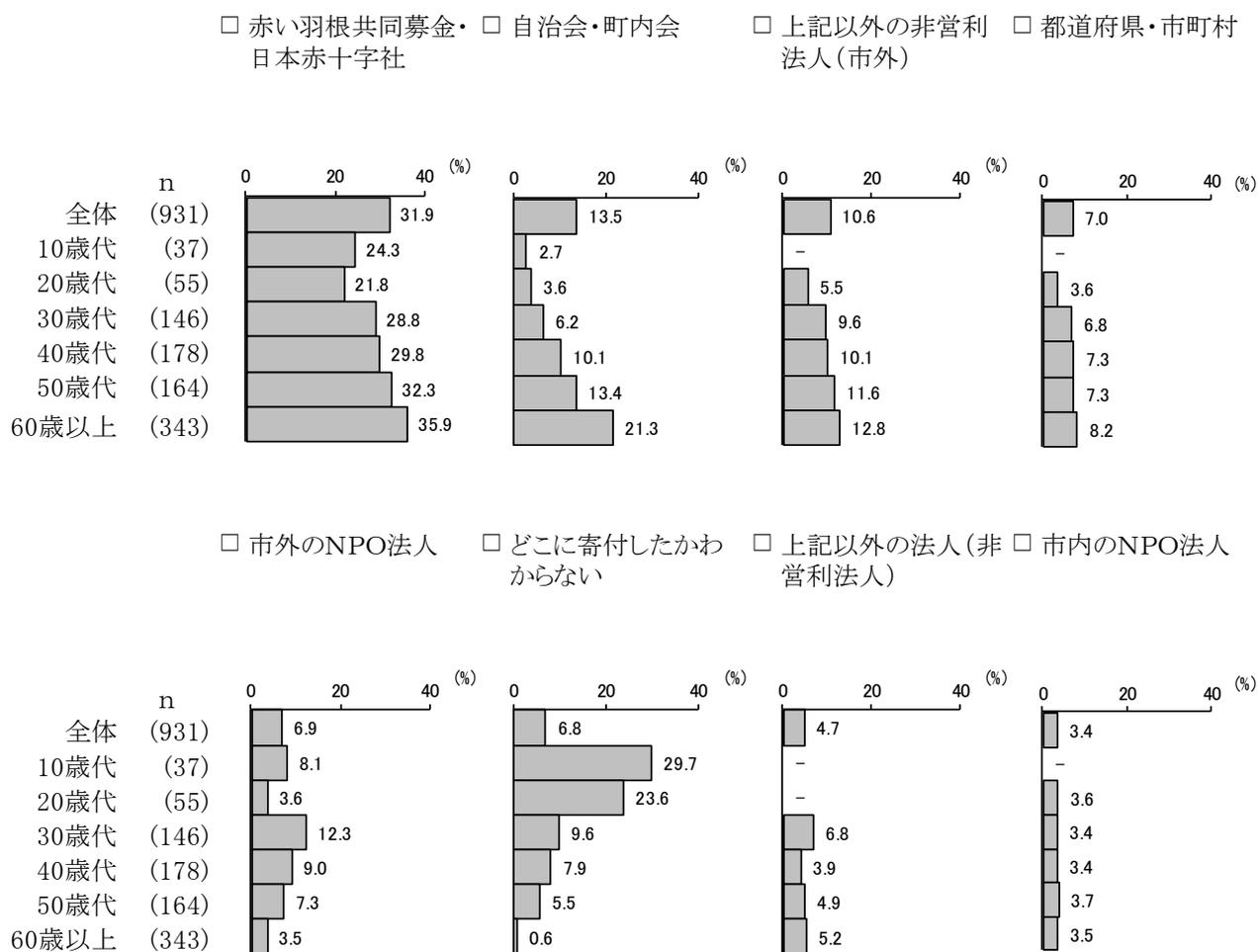
問5-4 あなたが、平成26年度（平成26年4月~平成27年3月）に寄付をした団体はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

【図表85：平成26年度中に寄付をした団体】



平成26年度に寄付をした団体については、「赤い羽根共同募金・日本赤十字社」が31.9%と最も高く、次いで、「自治会・町内会」（13.5%）、「上記以外の非営利法人(市外）」（10.6%）の順となっている。一方、「平成26年度は寄付をしていない」は21.7%となっている。

【図表86：年齢別／平成26年度中に寄付をした団体】上位8項目



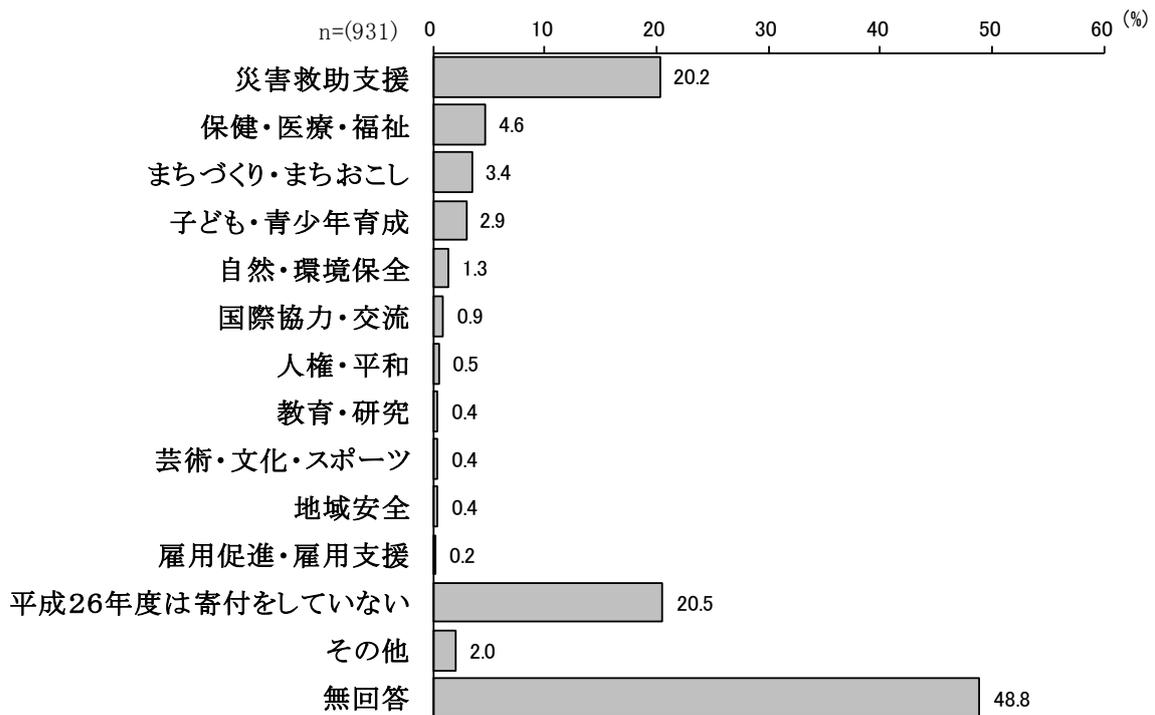
「赤い羽根共同募金・日本赤十字社」を年齢別で見ると、おおむね年代が上がるにつれて高くなっており、60歳以上が35.9%と最も高くなっている。「自治会・町内会」「上記以外の非営利法人(市外)」でも同様の傾向がみられ、それぞれ60歳以上が最も高くなっている。

(5) 平成26年度に寄付をした分野

【問5-1で「1~3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

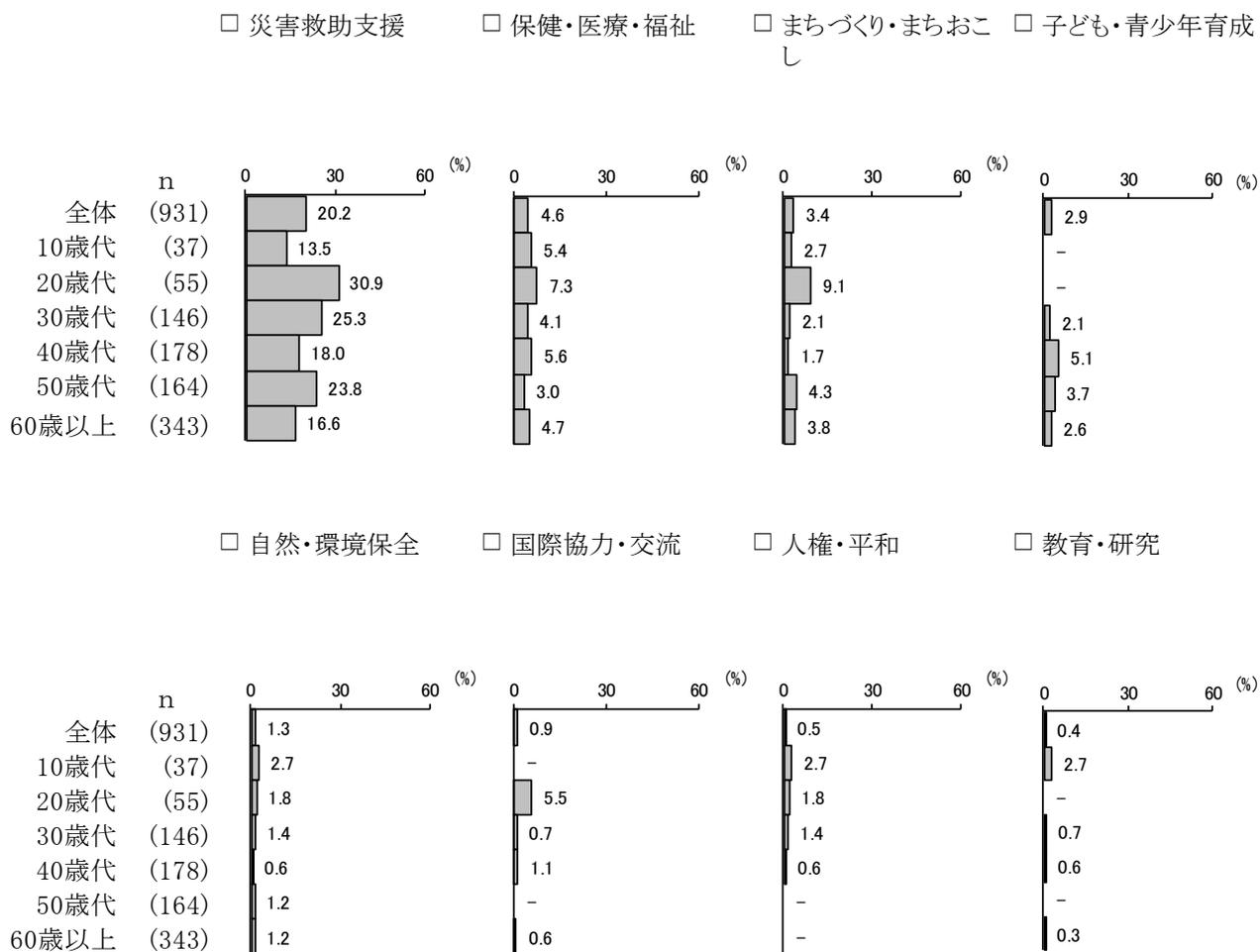
問5-5 あなたが、平成26年度（平成26年4月~平成27年3月）に寄付をした分野はどちらですか。（あてはまるものすべてに○）

【図表87：平成26年度中に寄付をした分野 ①震災関連】



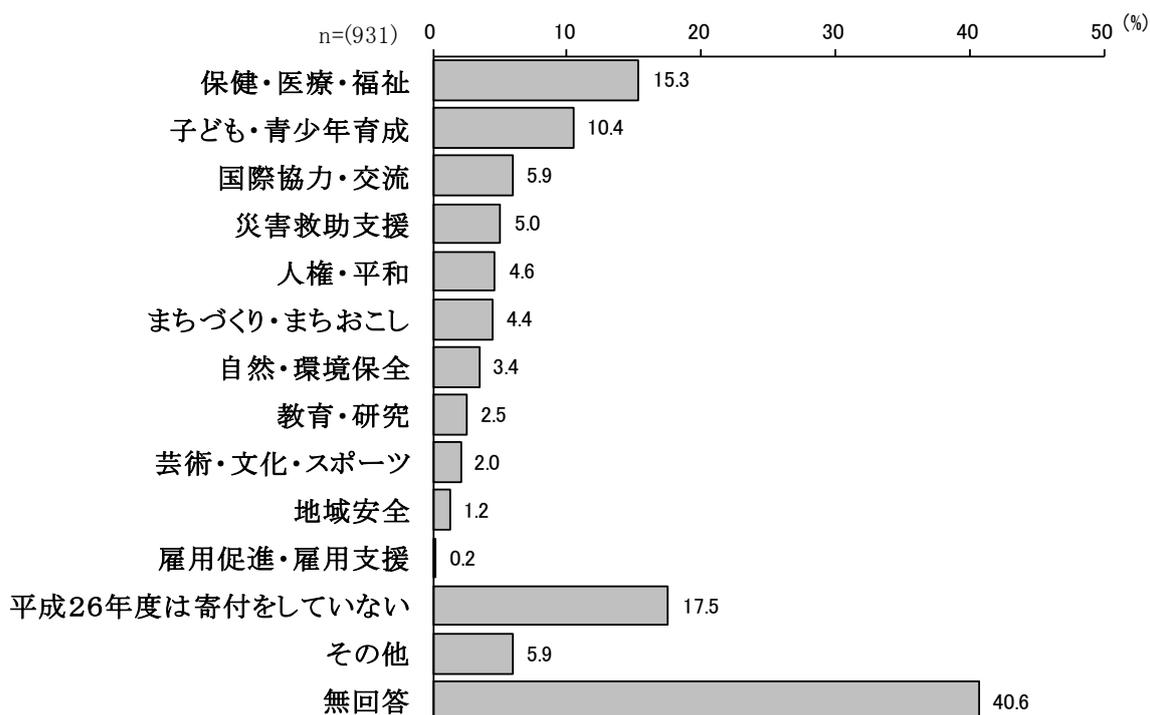
平成26年度に寄付をした震災関連分野については、「災害救助支援」が20.2%と最も高く、次いで、「保健・医療・福祉」(4.6%)、「まちづくり・まちおこし」(3.4%)の順となっている。一方、「平成26年度は寄付をしていない」は20.5%となっている。

【図表88：年齢別／平成26年度中に寄付をした分野 ①震災関連】上位8項目



「災害救助支援」を年齢別で見ると、20歳代が30.9%と最も高くなっており、次いで30歳代(25.3%)と50歳代(23.8%)が2割台半ばと高くなっている。「保健・医療・福祉」は年齢別であまり大きな差はみられない。「まちづくり・まちおこし」は20歳代が9.1%と最も高くなっている。

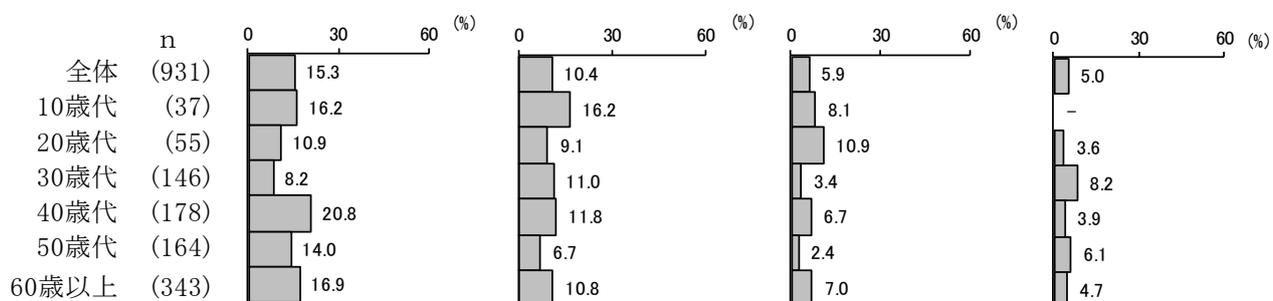
【図表89：平成26年度中に寄付をした分野 ②震災関連を除く】



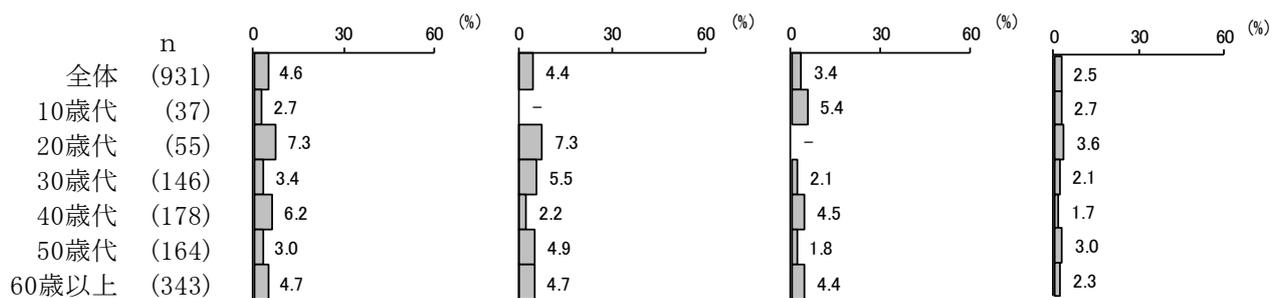
平成26年度に寄付をした震災関連以外の分野については、「保健・医療・福祉」が15.3%と最も高く、次いで、「子ども・青少年育成」(10.4%)、「国際協力・交流」(5.9%)の順となっている。一方、「平成26年度は寄付をしていない」は17.5%となっている。

【図表90：年齢別／平成26年度中に寄付をした分野 ②震災関連を除く】上位8項目

□ 保健・医療・福祉 □ 子ども・青少年育成 □ 国際協力・交流 □ 災害救助支援



□ 人権・平和 □ まちづくり・まちおこし □ 自然・環境保全 □ 教育・研究

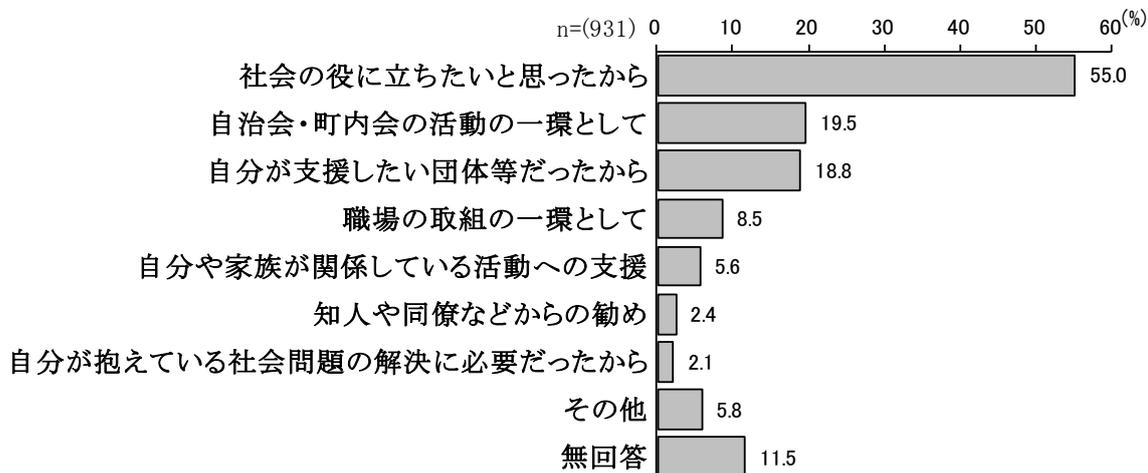


「保健・医療・福祉」を年齢別で見ると、40歳代が20.8%と最も高くなっており、次いで60歳以上（16.9%）と10歳代（16.2%）が1割台半ばとなっている。「子ども・青少年育成」は10歳代が16.2%と最も高くなっている。「国際協力・交流」は20歳代が10.9%と最も高くなっている。

(6) 寄付をした理由

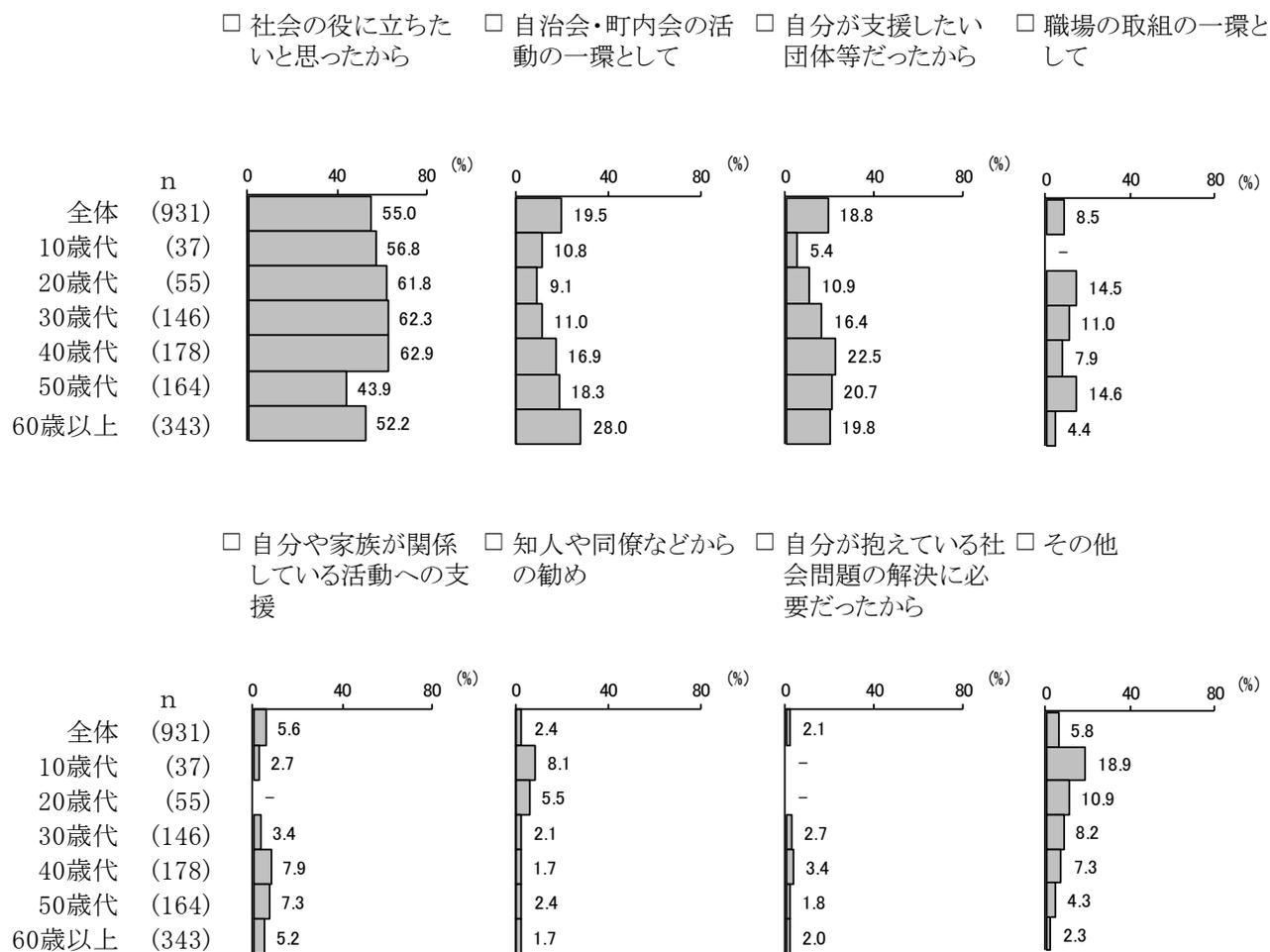
【問5-1で「1~3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】  
 問5-6 あなたが寄付をした理由はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

【図表91：寄付をした理由】



寄付をした理由については、「社会の役に立ちたいと思ったから」が55.0%と最も高く、次いで、「自治会・町内会の活動の一環として」(19.5%)、「自分が支援したい団体等だったから」(18.8%)の順となっている。

【図表92：年齢別／寄付をした理由】上位8項目

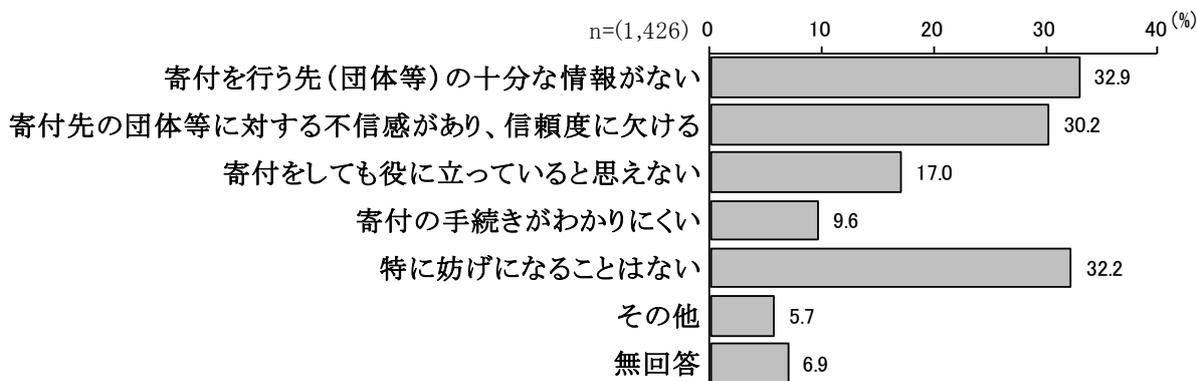


「社会的役に立ちたいと思ったから」を年齢別で見ると、20歳代（61.8%）、30歳代（62.3%）、40歳代（62.9%）が6割を超えて高くなっている。「自治会・町内会の活動の一環として」はおおむね年代が上がるにつれ高くなっている。

(7) 寄付をするにあたり妨げとなること

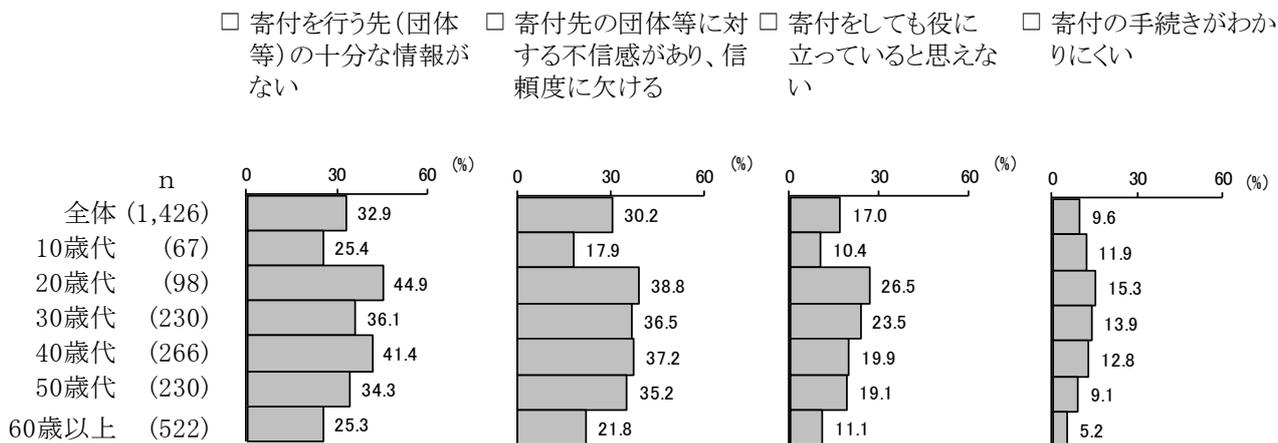
問5-7 あなたが寄付をするにあたり妨げになることはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

【図表93：寄付をするにあたり妨げとなること】



寄付をするにあたり妨げとなることについては、「寄付を行う先(団体等)の十分な情報がない」が32.9%と最も高く、次いで、「寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける」(30.2%)、「寄付をしても役に立っていると思えない」(17.0%)の順となっている。一方、「特に妨げになることはない」は32.2%となっている。

【図表94：年齢別／寄付をするにあたり妨げとなること】

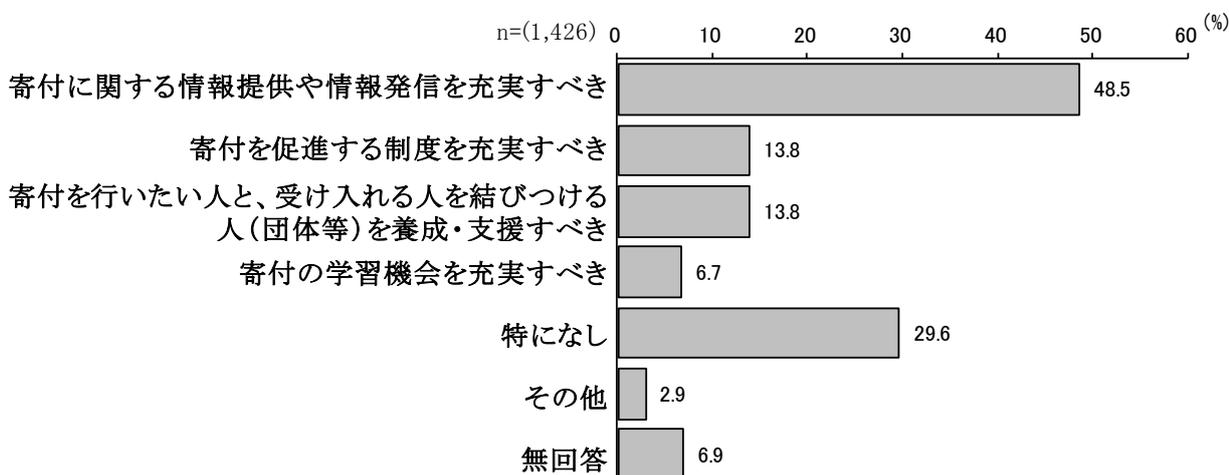


「寄付を行う先(団体等)の十分な情報がない」を年齢別でみると、20歳代(44.9%)と40歳代(41.4%)が4割を超えて高くなっている。「寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける」は20～50歳代が35%を超えて高くなっている。「寄付をしても役に立っていると思えない」は10歳代を除き、年代が上がるにつれ低くなっている。

(8) 寄付促進のために市に望むこと

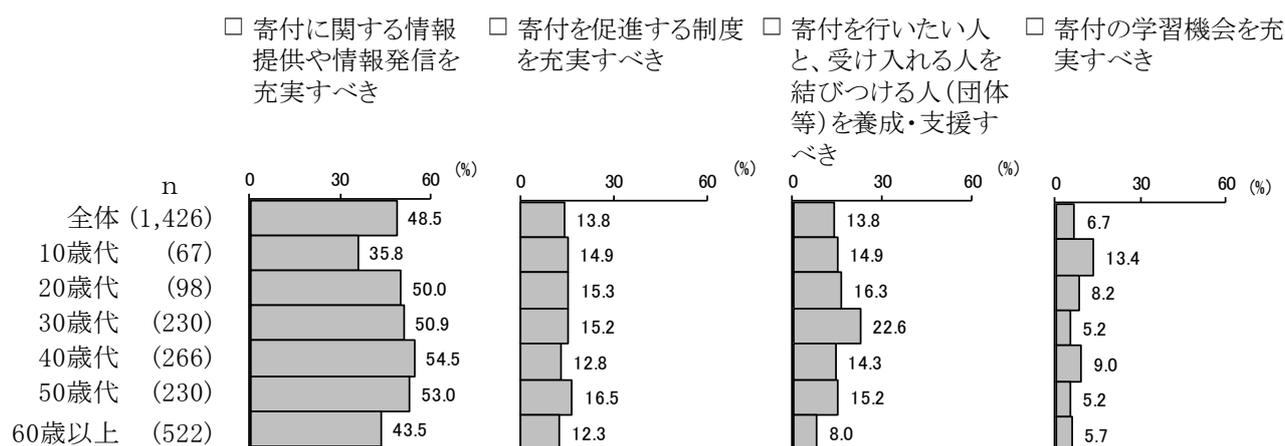
問5-8 寄付促進のために市にどのようなことを望みますか。  
(あてはまるものすべてに○)

【図表95：寄付促進のために市に望むこと】



寄付促進のために市に望むことについては、「寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が48.5%と最も高く、次いで、「寄付を促進する制度を充実すべき」及び「寄付を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」(13.8%)の順となっている。

【図表96：年齢別／寄付促進のために、市に望むこと】



「寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を年齢別でみると、20～50歳代が50%を超えて高くなっており、40歳代が54.5%と最も高くなっている。「寄付を促進する制度を充実すべき」は60歳以上を除いたすべての年代が10%を超えており、あまり大きな差はみられない。

## 6. その他

### (1) 自由意見

問6 その他、何かご意見等がございましたらお書きください。

自由意見について、193人からの回答があった。回答の多かった内容は、「このアンケートについて」「市民活動・ボランティア活動について」「市民活動情報の発信について」の順であった。

内容	件数
このアンケートについて(例: アンケートに答えるのが難しい等)	42
市民活動・ボランティア活動について(例: ぜひとも参加したい、自分の生活で精一杯で参加出来ない等)	34
市民活動情報の発信について(例: 情報提供の充実等)	24
寄付金の流れについて(例: 募金がちゃんと使われているか等)	17
市政について(例: 職員の教育等)	16
まちづくりについて(例: 道路整備、町の施設の充実等)	15
児童施策について(例: 子ども向け支援の充実等)	12
藤沢市の財政について(例: 税金が高い等)	8
藤沢市の環境整備について(例: 樹木の管理等)	6
自治会・町内会活動について(例: 活動が苦痛等)	4
防犯について(例: 町の風紀、夜間の街灯)	4
市民のマナーの改善について(例: 犬のフン、外での喫煙等)	4
防災活動について(例: 防災訓練等)	3
その他	16

※1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない。

## 第 3 章 調査票



**市民活動に関するアンケート調査**

藤沢市では、「みんなとまちが元気になる～活力あふれる市民活動のまち藤沢」をビジョンに掲げ、市民活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施するため、市民活動推進計画を策定しています。

この度、市民活動の現状及び日頃の暮らしの中で皆さまがどのように感じていらっしゃるかをお聞かせいただくために、アンケート調査を実施したいと考えております。

何かとお忙しいこととは存じますが、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

2015年（平成27年）10月

藤沢市長  
鈴木 恒夫

## 《ご記入にあたって》

1. 調査の対象者は、満15歳から80歳までの市民4,000名を無作為に抽出させていただきました。
2. 質問の中の『あなた』とは、封筒の宛名のご本人を指しますので、質問にはその方自らお答えください。
3. 回答は、該当する番号を○で囲んでください。回答の数は質問によって異なりますので、ご注意ください。また、選択肢や質問によっては具体的にご記入いただくものもあります。
4. ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）にて、**11月2日（月）まで（必着）**にご返送ください。
5. お答えいただいた内容は統計的に処理を行い、本調査の目的以外に使用したり、個人の内容を公表することは一切ありません。
6. この調査についてご不明な点がありましたら、次の問い合わせ先へご連絡ください。

**問い合わせ先**

藤沢市役所 市民自治部市民自治推進課

電話 0466-25-1111（代表）

FAX 0466-50-8407

### 第3章 調査票

※本アンケート調査にお答えいただく前に、以下に記載されている、地域活動、市民活動及び市民活動団体（NPOを含む）、ボランティアについてのご説明をお読みください。

#### 1 地域活動とは

藤沢市では、市民の皆さまが地域において様々な活動を行っています。本アンケート調査においては、それらを総称して「地域活動」といたします。

主な地域活動：

- ・自治会・町内会
- ・学校やPTA・子ども会等
- ・老人クラブ
- ・地域団体
- ・ボランティア
- ・市民活動団体（NPOを含む）
- ・公民館などのサークルや講座 等

#### 2 市民活動、市民活動団体（NPOを含む）とは

本アンケート調査では、地域活動のうち、市民活動団体（NPOを含む）に関する活動を「市民活動」といたします。

「市民活動」：市民が公益的な目的を持って自主的に活動している姿を指し、個人の活動からグループでの活動まで、様々な形があります。

「市民活動団体（NPOを含む）」：市民活動を継続的に行っている組織を指します。市民活動団体が法人となる場合、特定非営利活動促進法に基づき、特定非営利活動法人（NPO法人）となるのが一般的ですが、最近では一般社団法人や一般財団法人として活動を始める組織も増えています。

市民活動団体の活動の種類：介護・看護等の福祉に関する事業を行う団体やパソコン教室の運営等の情報化に関する事業を行う団体をはじめ、教育・研究、芸術・文化・スポーツ、環境保全、災害救助支援など、様々な分野の活動があります。

#### 3 ボランティアと市民活動団体（NPOを含む）の違いとは

ボランティア：個人の思い、個人のスタンスを表します。よりよい社会づくりのために、個人が自ら進んで行う、金銭的な見返りを求めない活動とすることができます。労働の対価を求めない代わりに、活動に関わる個人の自発性に重点が置かれます。個人単独で行うこともあります、グループで行うもの、あるいは市民活動団体（NPOを含む）や行政に関わって行うものなどがあります。

市民活動団体（NPOを含む）：組織の社会的な役割を意識した言葉であり、組織のスタンスを表します。社会的使命の達成のために活動をする組織であり、政府や企業とは異なった立場から社会的なサービスを提供し、社会的な課題の解決をめざすものです。

**問1 あなた自身のことについて****【全員の方にお聞きします】**

問1-1 あなたの性別を記入してください。(一つに○)

1. 男
2. 女

**【全員の方にお聞きします】**

問1-2 あなたの年齢を記入してください。

( ) 歳

**【全員の方にお聞きします】**

問1-3 あなたの独身・既婚を記入してください。(一つに○)

1. 独身
2. 既婚

**【全員の方にお聞きします】**

問1-4 あなたが住んでいる地区を記入してください。(一つに○)

1. 片瀬
2. 鵜沼
3. 辻堂
4. 村岡
5. 藤沢
6. 明治
7. 善行
8. 湘南大庭
9. 六会
10. 湘南台
11. 遠藤
12. 長後
13. 御所見
14. わからない

**【全員の方にお聞きします】**

問1-5 あなたの職業は次のうち、どれにあたりますか。(一つに○)

1. 会社員
2. 自営業・家族従業者
3. 公務員
4. 団体職員
5. 派遣・契約社員、パートタイム従業者、アルバイト
6. 会社役員・団体役員
7. 主婦・主夫
8. 学生
9. 無職(7, 8を除く)
10. その他

**【全員の方にお聞きします】**

問1-6 あなたの世帯全体の年間収入(税込み額)は、およそどのくらいですか。(一つに○)

1. 300万円未満
2. 300万円以上～500万円未満
3. 500万円以上～600万円未満
4. 600万円以上～800万円未満
5. 800万円以上～1,000万円未満
6. 1,000万円以上～1,500万円未満
7. 1,500万円以上～2,000万円未満
8. 2,000万円以上

**問2 地域活動について**

【全員の方にお聞きします】

問2-1 次の地域活動のうち、このアンケートが届く前からその活動の存在を知っていたかどうかをお選びください。(一つに○)

「知っていた」と回答した方は、その活動を行う団体を知っている場合、団体名をわかる範囲でお書きください。(いくつでもお書きください)

地域活動の種類	①知っていたか	②団体名
自治会・町内会	1. 知っていた 2. 知らなかった	
学校・PTA・子ども会等	1. 知っていた 2. 知らなかった	
老人クラブ	1. 知っていた 2. 知らなかった	
地域団体(※)	1. 知っていた 2. 知らなかった	
ボランティア	1. 知っていた 2. 知らなかった	
市民活動団体 (NPOを含む)	1. 知っていた 2. 知らなかった	
公民館などのサークルや講座	1. 知っていた 2. 知らなかった	
その他	1. 知っていた 2. 知らなかった	

※地域団体とは、ここでは市民センター・公民館を中心とした地区社会福祉協議会や民生委員児童委員協議会、郷土づくり推進会議、地区交通安全対策協議会、地区防犯協会、地区生活環境協議会、地区青少年育成協力会等を指します。

【全員の方にお聞きします】

問2-2 あなたの地域活動への参加の頻度をお選びください。(一つに○)

また参加の理由についてお選びください。(あてはまるものすべてに○)

種類	①参加の頻度	②参加の理由
自治会・ 町内会	1. 参加していない 2. 年に数回 3. 月に1～2回 4. 月に3～4回 5. 月に5回以上	1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため 2. 困っている人を支援したいという気持ち 3. 職業人や住民としての責務を果たすため 4. 自分や家族が関係している活動への支援 5. 知人や同僚等からの勧め 6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから 7. 社会的に評価されるため 8. その他
学校・P TA・子 ども会等	1. 参加していない 2. 年に数回 3. 月に1～2回 4. 月に3～4回 5. 月に5回以上	1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため 2. 困っている人を支援したいという気持ち 3. 職業人や住民としての責務を果たすため 4. 自分や家族が関係している活動への支援 5. 知人や同僚等からの勧め 6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから 7. 社会的に評価されるため 8. その他
老人クラ ブ	1. 参加していない 2. 年に数回 3. 月に1～2回 4. 月に3～4回 5. 月に5回以上	1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため 2. 困っている人を支援したいという気持ち 3. 職業人や住民としての責務を果たすため 4. 自分や家族が関係している活動への支援 5. 知人や同僚等からの勧め 6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから 7. 社会的に評価されるため 8. その他
地域団体	1. 参加していない 2. 年に数回 3. 月に1～2回 4. 月に3～4回 5. 月に5回以上	1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため 2. 困っている人を支援したいという気持ち 3. 職業人や住民としての責務を果たすため 4. 自分や家族が関係している活動への支援 5. 知人や同僚等からの勧め 6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから 7. 社会的に評価されるため 8. その他

第3章 調査票

<p>ボランティア</p>	<p>1. 参加していない 2. 年に数回 3. 月に1～2回 4. 月に3～4回 5. 月に5回以上</p>	<p>1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため 2. 困っている人を支援したいという気持ち 3. 職業人や住民としての責務を果たすため 4. 自分や家族が関係している活動への支援 5. 知人や同僚等からの勧め 6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから 7. 社会的に評価されるため 8. その他</p>
<p>市民活動団体（NPOを含む）</p>	<p>1. 参加していない 2. 年に数回 3. 月に1～2回 4. 月に3～4回 5. 月に5回以上</p>	<p>1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため 2. 困っている人を支援したいという気持ち 3. 職業人や住民としての責務を果たすため 4. 自分や家族が関係している活動への支援 5. 知人や同僚等からの勧め 6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから 7. 社会的に評価されるため 8. その他</p>
<p>公民館などのサークルや講座</p>	<p>1. 参加していない 2. 年に数回 3. 月に1～2回 4. 月に3～4回 5. 月に5回以上</p>	<p>1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため 2. 困っている人を支援したいという気持ち 3. 職業人や住民としての責務を果たすため 4. 自分や家族が関係している活動への支援 5. 知人や同僚等からの勧め 6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから 7. 社会的に評価されるため 8. その他</p>
<p>その他</p>	<p>1. 参加していない 2. 年に数回 3. 月に1～2回 4. 月に3～4回 5. 月に5回以上</p>	<p>1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため 2. 困っている人を支援したいという気持ち 3. 職業人や住民としての責務を果たすため 4. 自分や家族が関係している活動への支援 5. 知人や同僚等からの勧め 6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから 7. 社会的に評価されるため 8. その他</p>

【問2-2、「①参加の頻度」で2～5に○を一つでもつけた方にお聞きします】

問2-3 あなたが地域活動を行う場として利用している施設（場所）はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 市民センター・公民館
2. 市民の家
3. 自治会館・地区集会所
4. 保育園・幼稚園
5. 地域子供の家・児童館
6. 小学校、中学校、高等学校、専門学校
7. 大学、大学院
8. 市民活動推進センター
9. 湘南台市民活動プラザ
10. 地区ボランティアセンター
11. 地域の縁側
12. 福祉施設・介護施設
13. いきいきシニアセンター（湘南なぎさ荘、やすらぎ荘、こぶし荘）
14. 老人憩いの家・老人ふれあいの家
15. 活動団体の借り上げた場所等
16. 教会、お寺、神社
17. 民間のホール、民間団体（会社）
18. 喫茶店、レストラン、ホテル
19. 個人の自宅など
20. その他（ ）

【問2-2、「①参加の頻度」で2～5に一つでも○をつけた方にお聞きします】

問2-4 あなたが地域活動を行う場として今後利用したい施設（場所）はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 市民センター・公民館
2. 市民の家
3. 自治会館・地区集会所
4. 保育園・幼稚園
5. 地域子供の家・児童館
6. 小学校、中学校、高等学校、専門学校
7. 大学、大学院
8. 市民活動推進センター
9. 湘南台市民活動プラザ
10. 地区ボランティアセンター
11. 地域の縁側
12. 福祉施設・介護施設
13. いきいきシニアセンター（湘南なぎさ荘、やすらぎ荘、こぶし荘）
14. 老人憩いの家・老人ふれあいの家
15. 活動団体の借り上げた場所等
16. 教会、お寺、神社
17. 民間のホール、民間団体（会社）
18. 喫茶店、レストラン、ホテル
19. 個人の自宅など
20. その他（ ）

【全員の方にお聞きします】

問2-5 地域活動に参加することに妨げとなることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 時間がない
2. 気恥ずかしい
3. 自分の生活で精一杯
4. 仕事が忙しい
5. 趣味や余暇活動を優先
6. 活動内容への不満
7. 活動内容がわからない
8. 身体状況から参加が難しい
9. 子育てや介護が忙しい
10. 活動の場が自宅から離れているなど不便
11. 地区外で活動している
12. 興味や関心がない
13. 参加の機会がない
14. その他（ ）

### 問3 市民活動について

【全員の方にお聞きします】

問3-1 今後、市民活動（市民活動団体（NPOを含む）の活動）に参加したいですか。（一つに○）

1. はい
2. いいえ

【問3-1で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

問3-2 次のうち、参加したい市民活動の分野をお選びください。

※震災関連とそれ以外で分けてお答えください。「震災関連」とは、震災の被災者・被災地支援などのための市民活動を指し、「震災関連を除く」とは、それ以外の市民活動を指します。

	①震災関連	②震災関連を除く
保健・医療・福祉	1	1
教育・研究	2	2
まちづくり・まちおこし	3	3
芸術・文化・スポーツ	4	4
自然・環境保全	5	5
災害救助支援	6	6
地域安全	7	7
人権・平和	8	8
国際協力・交流	9	9
子ども・青少年育成	10	10
雇用促進・雇用支援	11	11
その他 (具体的に)	12 (具体的に； )	12 (具体的に； )

【問3-1で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

問3-3 市民活動に参加する理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため
2. 困っている人を支援したいという気持ち
3. 職業人や住民としての責務を果たすため
4. 自分や家族が関係している活動への支援
5. 知人や同僚等からの勧め
6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから
7. 社会的に評価されるため
8. その他 (具体的に： )

【全員の方にお聞きします】

問3-4 市民活動に参加することに妨げとなることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 時間がない
2. 気恥ずかしい
3. 自分の生活で精一杯
4. 仕事が忙しい
5. 趣味や余暇活動を優先
6. 活動内容への不満
7. 活動内容がわからない
8. 身体状況から参加が難しい
9. 子育てや介護が忙しい
10. 活動の場が自宅から離れているなど不便
11. 地区外で活動している
12. 興味や関心がない
13. 参加の機会がない
14. その他 ( )

【全員の方にお聞きします】

問3-5 あなたは市民活動団体に期待することはありますか。(一つに○)

1. はい 2. いいえ

【問3-5で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

問3-6 あなたが市民活動団体に期待することは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい  
 2. 社会的な問題を解決してほしい 3. 地域における課題解決を行ってほしい  
 4. 個人的な問題を解決してほしい 5. 地域におけるイベントに参加してほしい  
 6. 地域における様々な交流の中心的な役割を担ってほしい  
 7. その他(具体的に: )

【問3-5で「2. いいえ」に○をつけた方にお聞きします】

問3-7 あなたが市民活動団体に期待することがないのはなぜですか。(あてはまるもの全てに○)

1. 市民活動がよくわからないから 2. 身近に市民活動団体がないから  
 3. 市民活動団体の組織体制(財政基盤・事務能力等)が弱いから  
 4. 市民活動団体の情報発信力・事業実行力が弱いから  
 5. 市民活動団体の活動内容が気に入らないから 6. 市民活動団体に興味がないから  
 7. その他(具体的に: )

【全員の方にお聞きします】

問3-8 市民活動団体が活動するときに、妨げになると思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 市民活動を行う場所が少ない  
 2. 市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない  
 3. 市民活動を行いたい人と受け入れる人を結びつける人(コーディネーターや団体)が少ない  
 4. 市民活動の学習機会が少ない  
 5. 市民活動のための休暇・休職制度が少ない  
 6. 市民活動に対する経済的な支援が少ない  
 7. 特になし  
 8. その他(具体的に: )

【全員の方にお聞きします】

問3-9 市民活動について、市にどのようなことを望みますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 市民活動を行う場所を充実すべき 2. 市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき  
 3. 市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき  
 4. 市民活動の学習機会を充実すべき 5. 市民活動のための休暇・休職制度の普及を行うべき  
 6. 市民活動に対する経済的な支援を行うべき 7. 特になし  
 8. その他(具体的に: )

**問4 ボランティア活動について**

【全員の方にお聞きします】

問4-1 あなたはボランティア活動に関心がありますか。(一つに○)

※東日本大震災発生を期に全国的にボランティア活動にさらに関心が寄せられていることを踏まえた質問となります。

1. 関心がある (東日本大震災発生前から関心があった)
2. 関心がある (東日本大震災発生後、関心を持つようになった)
3. あまり関心がない
4. まったく関心がない
5. その他 (具体的に: \_\_\_\_\_ )

【全員の方にお聞きします】

問4-2 あなたは、ボランティア活動をしたことがありますか。(一つに○)

※東日本大震災発生を期に全国的にボランティア活動にさらに関心が寄せられていることを踏まえた質問となります。

1. したことがある (東日本大震災発生前からしていた)
2. したことがある (東日本大震災発生後、するようになった)
3. したことがない

【問4-2で「1～2. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問4-3 あなたは平成26年度(平成26年4月～平成27年3月)にどのような分野のボランティア活動に参加したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

※震災関連とそれ以外で分けてお答えください。「震災関連」とは、震災の被災者・被災地支援などのためのボランティア活動を指し、「震災関連を除く」とは、それ以外のボランティア活動を指します。

	①震災関連	②震災関連を除く
保健・医療・福祉	1	1
教育・研究	2	2
まちづくり・まちおこし	3	3
芸術・文化・スポーツ	4	4
自然・環境保全	5	5
災害救助支援	6	6
地域安全	7	7
人権・平和	8	8
国際協力・交流	9	9
子ども・青少年育成	10	10
雇用促進・雇用支援	11	11
平成26年度はボランティア活動に参加していない。	12	12
その他 (具体的に)	13 ( _____ )	13 ( _____ )

【問4-2で「1~2. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問4-4 あなたにとって、ボランティア活動に参加する理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため
2. 困っている人を支援したいという気持ち
3. 職業人や住民としての責務を果たすため
4. 自分や家族が関係している活動への支援
5. 知人や同僚等からの勧め
6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから
7. 社会的に評価されるため
8. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)

【全員の方にお聞きします】

問4-5 ボランティア活動に参加することに妨げとなることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. ボランティア活動を行いたい、十分な情報がない
2. 活動に参加する際の経費(交通費等)があり、経済的負担が大きい
3. 活動に参加しても、実際に役に立っているとは思えない
4. 活動に参加する時間がない
5. 活動に参加するために、休暇取得等を行う必要がある
6. ボランティアを受け入れる団体・NPO等に対する不信感があり、信頼度に欠ける
7. 活動を行う際の保険が不十分
8. 特に妨げとなることはない
9. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)

【全員の方にお聞きします】

問4-6 あなたが今後参加したいボランティア活動の分野を選んでください(あてはまるものすべてに○)

※すでに参加したことがあり、引き続き参加したい分野も含めてお答えください。

1. 保健・医療・福祉
2. 教育・研究
3. まちづくり・まちおこし
4. 芸術・文化・スポーツ
5. 自然・環境保全
6. 災害救助支援
7. 地域安全
8. 人権・平和
9. 国際協力・交流
10. 子ども・青少年育成
11. 雇用促進・雇用支援
12. ボランティア活動に参加したいと思わない
13. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)

【全員の方にお聞きします】

問4-7 ボランティア活動について、市にどのようなことを望みますか。(あてはまるものすべてに○)

1. ボランティアを受け入れる団体・NPO 等に関する情報提供や情報発信を充実すべき
2. ボランティア活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき
3. ボランティア活動の学習機会を充実すべき
4. ボランティア保険への加入推進等、事故への対応を整備すべき
5. ボランティア活動のための休暇・休職制度の普及を行うべき
6. ボランティアを受け入れる団体・NPO等に対する経済的な支援を行うべき
7. 特になし
8. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)

**問5 寄付について**

本アンケート調査においては、以下の2つの要件を満たすものを「寄付金」といいます。

- ① 支出する側に任意性があること  
金銭寄付金(時には物品も含む。)を出す人自身が、その金銭寄付金を出すか出さないかを自由に決定でき、かつ、その金額も自由に決めることができること。
- ② 直接の反対給付がないこと  
金銭寄付金(時には物品も含む。)を出した人が、その支出した金銭寄付金の代わりに、一般に流通するような商業的価値を持つ商品やサービスなどを受け取らないこと。(ふるさと納税に伴う返礼品は直接の反対給付に含めません。)

【全員の方にお聞きします】

問5-1 あなたは寄付(募金、現物寄付等)をしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 金銭による寄付をしたことがある
2. 現物等による寄付をしたことがある
3. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
4. 寄付をしたことがない

【問5-1で「1~3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問5-2 平成26年度(平成26年4月~平成27年3月)に寄付をした金額(金銭による寄付のみ)、金銭による寄付をした回数、現物等による寄付をした回数をご記入ください。  
※震災関連とそれ以外で分けてお答えください。「震災関連」とは、震災の被災者・被災地支援などのための寄付を指し、「震災関連を除く」とは、それ以外の寄付を指します。  
※寄付額については、あなた個人の金額と世帯全体の金額に分けてお答えください。  
※平成26年度は寄付をしていない場合は、「0」とお答えください。

		①（年間）寄付金額	②（年間）金銭寄付回数	③（年間）現物等寄付回数
①震災関連	①あなた	円	回	回
	②世帯全体	円		
②震災関連を除く	①あなた	円	回	回
	②世帯全体	円		

【問5-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問5-3あなたが、寄付を行った方法はありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 街頭募金
2. 設置されている募金箱（「1. 街頭募金」を除く）
3. 銀行等での振込み・口座引き落とし
4. 直接手渡し
5. クレジットカード等の利用
6. 現物寄付（品物の郵送等）
7. 寄付付商品の購入
8. マッチングギフト（※1）
9. ネット（クリック）募金（※2）
10. ふるさと納税
11. 遺贈による寄付
12. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

※1「マッチングギフト」とは、企業や団体などが社会貢献のために寄付や義捐金を募る際、寄せられた金額に対して企業側が金額の上乗せを行い、寄付金額を増やした上で同じ寄付対象に寄付をするという取り組み。

※2「クリック募金」とは、ウェブページ内の決められた箇所をクリックすると、個人や企業がクリックされた回数に応じて環境問題や人道支援などに取り組む団体に現金を送金する仕組み。

【問5-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問5-4あなたが、平成26年度（平成26年4月～平成27年3月）に寄付をした団体はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 自治会・町内会
2. 市内の法人格がない市民活動団体
3. 市外の法人格がない市民活動団体
4. 市内のNPO法人
5. 市外のNPO法人
6. 市内の政治団体、宗教法人
7. 市外の政治団体、宗教法人
8. 赤い羽根共同募金・日本赤十字社
9. 上記以外の非営利法人（市内）
10. 上記以外の非営利法人（市外）
11. 上記以外の法人（非営利法人）
12. 都道府県・市町村
13. どこに寄付したかわからない
14. 平成26年度は寄付をしていない

第3章 調査票

【問5-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問5-5 あなたが、平成26年度（平成26年4月～平成27年3月）に寄付をした分野はどちらですか。（あてはまるものすべてに○）

※震災関連とそれ以外で分けてお答えください。「震災関連」とは、震災の被災者・被災地支援などのための寄付を指し、「震災関連を除く」とは、それ以外の寄付を指します。

	①震災関連	②震災関連を除く
保健・医療・福祉	1	1
教育・研究	2	2
まちづくり・まちおこし	3	3
芸術・文化・スポーツ	4	4
自然・環境保全	5	5
災害救助支援	6	6
地域安全	7	7
人権・平和	8	8
国際協力・交流	9	9
子ども・青少年育成	10	10
雇用促進・雇用支援	11	11
平成26年度は寄付をしていない	12	12
その他 （具体的に）	13 ( )	13 ( )

【問5-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問5-6 あなたが寄付をした理由はどのようなものですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 社会の役に立ちたいと思ったから
2. 自治会・町内会の活動の一環として
3. 職場の取組の一環として
4. 知人や同僚などからの勧め
5. 自分や家族が関係している活動への支援
6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだったから
7. 自分が支援したい団体等だったから
8. その他（具体的に： )

【全員の方にお聞きします】

問5-7 あなたが寄付をするにあたり妨げになることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 寄付を行う先（団体等）の十分な情報がない
2. 寄付の手続きがわかりにくい
3. 寄付をしても役に立っていないと思えない
4. 寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける
5. 特に妨げになることはない
6. その他（具体的に： )

【全員の方にお聞きします】

問5-8 寄付促進のために、市にどのようなことを望みますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき
2. 寄付を促進する制度を充実すべき
3. 寄付を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき
4. 寄付の学習機会を充実すべき
5. 特になし
6. その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )

**問6 その他**

【全員の方にお聞きします】

問6 その他、何かご意見等がございましたらお書きください。

アンケート調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

**藤沢市  
市民活動に関するアンケート調査  
報告書**

発行日／平成27年12月

発行／藤沢市市民自治部市民自治推進課

〒25-8601 神奈川県藤沢市朝日町1-1

TEL 0466-50-3516

FAX 0466-50-8407